

緒言

禮文禮讓ノ道ハ。風教ヲ保チ世道人心ヲ維持スル。爲メ

ニ。尤モ重クシヘキ。ニシテ。禮法ノ普及發達ヲ圖ル

ハ。社會ノ改良ト。教育ノ改善トニ。關クベカラザルノ

事ニ屬ス。本會聊カ見ル所アリ。以テ縣下教育ノ爲メニ

貢獻スル所アリ。ト欲シ。特ニ陸軍士官學校及陸軍

中央幼年學校ノ許可ヲ得テ。兩校纂輯スル所ノ曲禮ニ班

及古禮ニ班ヲ印刷シテ贈寫ニ代ヘ。有志者ニ頒ツ。若夫

レ此ニ書ニ由リ縣下教育ニ於ケル禮法ノ攻究及其教授

緒言



ト。各自ノ躬行實踐トニ裨益スル所アラバ。獨リ本會ノ  
喜ビノミナラズ亦斯道發達ノ爲メニ賀セズンバアルベカ  
ラザルナリ。

明治三十四年九月

埼玉縣私立教育會

普通交際上ニ於ケル曲禮ノ一  
斑ヲ知得セシメンカ爲メ本書  
ヲ生徒ニ頒ツ

明治三十四年

陸軍士官學校長 高木作藏

曲禮一巻

例言

禮儀ノ千態萬狀ナル能ク小冊子ノ盡スヘキニ非ス殊ニ此  
 編述ノ要ハ陸軍禮式ニ定メラレサル尋常交際上淺近ノ  
 曲禮ニアレハ唯其一斑ヲ舉ケテ之ヲ示スニ過キサルノミ  
 本書ハ歐米各國禮式ノ我國ニ適用スヘキ者ヲ招取シ之ヲ  
 現今行フ所ニ斟酌セリ其女禮及冠婚葬祭等ノ儀式ニ在テ  
 ハ我ニ適合セサルモノ多シ因テ暫ク之ヲ除ケリ

人ノ人タル所以ハ禮アルヲ以テナリ蓋シ禮ナル者ハ體ナ  
リ體備ハラスンハ之ヲ不成人ト謂フ况ヤ行テ人紀トナ  
リ張テ國維トナリ人類國家之ニ靠テ立ツテ得ルヲ以テ之  
ヲ人ノ幹トナシ亦國ノ幹トナス夫レ人類ノ相集テ社會  
ヲ成スヤ固ヨリ智愚賢不肖勇怯老壯親疎ノ齊カラサルナ  
キ能ハサル片ハ則チ從テ上下尊卑ノ差等アルヲ免レヌ  
苟モ其差等ニ隨ヒ人情ニ因リ義理ニ緣リテ之カ節文ヲ  
爲シ之カ分限ヲ立テ之カ義務ヲ設ケテ以テ之ヲ節制スル  
ニ非サレハ上下相犯シ尊卑相越エ智愚相詐リ勇怯相凌キ

老壯相暴シ親疎相間シ攘奪爭亂底止スル所ナク社會何ニ  
由テ立ツヲ得ンヤ是ニ於テ禮ナル者アリテ以テ人ノ幹ト  
ナシ親疎禮ニ由テ定マリ道德禮ニ由テ成リ教訓正俗禮ニ  
由テ備ハリ分爭辨訟禮ニ由テ斷シ君臣上下父子兄弟禮ニ  
由テ定マリ班朝治軍泄官行法禮ニ由テ威嚴行ハレ葬祭禮  
ニ由テ誠敬ヲ致シ婚娶禮ニ由テ正ヲ得血氣志意智慮禮ニ  
由テ治通シ飲食衣服起居動靜禮ニ由テ和節シテ疾ナシ凡  
ソ人事皆節制ヲ禮ニ取ラサルナシ蓋シ禮ハ人爲ニ成ルト  
雖亦理勢ノ自然ニ出テ、古今萬國ヲ論セス人情皆禮ノ

然リトスル所ニ安シテ分ヲ守リ務ヲ盡シ百事其正ニ歸シ  
テ秩然亂レズ人類以テ安ヲ得ルハ亦以テ禮ノ自然ニ出  
テ、人ト共ニ生スルヲ知ルヘシ故ニ之ヲ天秩ト謂フ唯夫  
レ天秩アリ是ニ於テ人類天地ノ間ニ立テ以テ其命ヲ定ム  
ルヲ得是レ體ハ人ノ幹ト謂フ所以ナリ常人且ツ然リ況ヤ  
軍隊ノ禎幹タル將校ニ於テヤ將校ノ職タル護國保民ヲ  
以テ任トナシ其品流ハ則チ四民ノ上ニ位スル者ナレハ苟  
モ威アリテ畏ルヘク儀アリテ象ルヘキノ禮ニ由テ以テ國  
民ノ威信敬慕ヲ取ルニ非レハ豈能ク其品流ヲ保チテ以テ

其職任ヲ全スルヲ得ンヤ且夫レ治軍ノ要ハ節制ニ在リ  
而シテ節制ノ大ナル者ヲ禮トナス嗚呼軍紀風紀ノ立ツ所  
以ハ其レ禮ニ在ルカ蓋シ禮ノ體ハ心ノ誠敬中正凜然節度  
アリ動テ情義ニ合スルヲ謂ナリ容貌威儀ノ如キハ其淺キ  
者ナリ今其淺キ者修ラサレハ深キ者知ルヘシ抑モ法ト禮  
トハ相待テ用ヲ爲ス者ニシテ軍紀ハ法ニ屬シ風紀ハ禮ニ  
屬ス未タ風紀ノ立タスシテ軍紀ノ行ハル、者アラサルナ  
リ故ニ軍紀ノ行ハル、ヲ欲セハ禮ヲ以テ風紀ヲ平時ニ養  
ハサル可ラス先賢曰ク居レハ則チ禮アリ動ケハ則チ威ア

四

リ禮ハ戰ノ畜フル所ナリ畜ヘスンハ何ヲ以テ戰ハント  
是ヲ謂フナリ然ラハ則チ禮ナル者ハ風紀ノ體節制ノ本ニ  
シテ軍紀ノ由テ立ツ所以ナリ嗚呼將校タル者能ク禮敬ヲ  
嚴守シテ以テ戰ヲ畜ヘサル可ケンヤ我國歐米諸國ト交  
ヲ通ズルヨリ制度文物已ニ彼ニ資ル者多シ彼ノ禮文モ亦  
之ヲ略知セサル可ラス故ニ今歐米諸國曲禮中我邦ニ適シ  
現ニ施用スル者ヲ輯メテ一編トナス是唯交際ヲ全ウシ耻  
辱ニ遠カルノ一端ニ供スルニ過キサレノミ然レモ擴メ  
テ之ヲ充テハ庶幾ハ亦以テ人幹ヲ立テ國威ヲ張ルノ萬

一ニ イナ 補 オギナヒ アランカ ヨリ 因テ之ヲ シ 梓シテ生徒ニ ワガ 願チ且ツ禮ノ大 ダイ  
キ 本ヲ推シテ以テ其擴充 クワクシユ ヲ望ムト云爾 イフ

六

曲禮一斑目錄

曲禮一斑	敬禮	一頁
	服裝	七
	訪問	十五
	迎接	二十一
	紹介	二十四
	談話	二十七
	附名刺	

宴會  
吸烟

三十七  
六十一

曲禮

敬禮

一 凡ソ相見ノ禮ハ交際上ノ節文ニシテ秩序ヲ正シ品位ヲ保チ親睦ヲ交情ヲ和暢ナラシムルモノタリ故ニ禮ハ恭敬ヲ主トシテ之ヲ行フヘシ

一 通常禮敬ノ外外國人ニ對シテハ握手ノ禮アリ之ヲ行フニハ互ニ右手ヲ用井ルヲ正式トス此禮ハ尤モ親和ヲ表スルモノニシテ地位高キ者先ツ之ヲ爲スニ非ザレハ敢テ之ヲ行フ得ズ位置卑キ者ヨリ之ヲ求ムルハ不敬ノ

曲禮一

二



甚シキモノトス

一握手ノ禮ハ室内室外共ニ之ヲ行フモノニシテ恭敬深愛ノ意ヲ表スルヲ主トシ先ツ温舒ニ其手ヲ執テ之ヲ握リ之ヲ放ツモ亦貴者ヨリスルヲ待テ靜ニ之ヲ放ツヲ要ス決シテ緊急躁暴ナル可ラズ然レモ過度ニ輕ク握ルハ反テ禮ヲ失ス又永キニ過ギ或ハ甚シク振搖シ若クハ妄リニ其手ヲ高起スヘカラス卒然之ヲ放ツヘカラス病ノ爲メニ右手ヲ用井ル能ハサル時ノ外決シテ左手ヲ出スヘカラス其他指ノミヲ握ラザル一ニ注意スベシ

一握手ノ禮ヲ行フニ際シテハ言語ヲ交ヘ得ルト否トニ關係ス受禮者ノ眼ヲ注視スヘシ且ツ此時手套ハ之ヲ脱セサルモ妨ナシ

一室内ニ入りテハ必ス脱帽シ通常敬禮若クハ握手ノ禮ヲ行フヘシ途上ニ在テハ右手ニ帽ヲ掲ケ脱シ注目シテ禮意ヲ表ス可シ若シ握手ノ禮ヲ行ハントスルハ左手ニ帽ヲ脱ス可シ

一年長ノ婦人ハ椅子ニ就キタル儘來客ノ敬禮ヲ受クルコトアリ此場合ニハ二三歩前ニテ停止シ通常敬禮ヲ行フヘ

シ婦人若シ手ヲ出サハ更ラニ前進シテ握手ノ禮ヲ行フ  
ヘシ

四

一室内ニ入りシ片主人夫妻アリテ婦ヲ知ル片ハ先ツ之ニ  
挨拶シタル後其夫ニ及ホシ次ニ知人ニ挨拶スヘシ其他  
未タ紹介ヲ經サル男女同席ニ在ルモ單ニ各人ノ眼ヲ注  
視シテ敬禮ヲ爲セハ足レリ

一途上ニ於テ尊長ニ逢ヒ談話ヲ交ル片ハ必ス帽ヲ脱セヨ  
若シ戴帽ヲ勸ムル再度ニ及ヘハ之ヲ戴キ別ニ臨ミ更ニ  
脱帽ス可シ又尊長ト同行スル片ハ右方ヲ讓リ雁行ス可

シ又タ歩調ハ常ニ尊長ニ合セ要スレハ踏替ヲ爲スヘシ  
若シ途上路ヲ隔テ、相知人ニ相遇フモ之ヲ呼ヒ禮ヲ爲  
スコ勿レ

一衆人集會ノ場所ニ於テ親友ニ逢フトモ躁暴ニ禮意ヲ  
通シ或ハ高聲ニ其名ヲ呼ブ可ラス

一我ノ人ニ對シテ盡スヘキ敬禮ノ程度ハ先方ノ階級ヨリ  
輕カル可ラス

一遊觀宴集等ノ時ニ當リ相知人ノ前ヲ數回經過スルコ  
アラハ唯初度ニ於テノミ之ニ禮ヲ爲スヘシ

曲禮一斑

五

一禮ヲ受ケテ答ヘサルハ不敬ナリ必ス相當ノ禮法ヲ以テ  
報答ス可シ

服 装

一服装ハ己レノ資格ヲ表シ風采ヲ示スモノナレハ分ニ應  
シ俗ニ從ヒ務メテ質素ニシテ且清潔ナランコトヲ要ス  
一衣服ハ何様適稱スルモ身體清潔ナラス姿容端正ナラサ  
レハ人ノ賤惡ヲ免ル能ハス故ニ平常能ク意ヲ用井テ  
容姿ヲ正シ身體ヲ清潔ニス可シ而シテ頭髮髭鬚ノ理ム  
ヘクシテ理メス剃ルヘクシテ剃ラス不潔ナルモノハ共  
ニ容姿ヲ損スルノミナラス人ニ對シテ不敬ナレハ常ニ  
其剪剃清潔ヲ怠ルヘカラス特ニ饗宴訪問等ノ時ニハ一

層注意セシコトヲ要ス但シ多ク香油香水等ヲ用井ルハ反  
テ野鄙ノ所爲トス

一 服装ノ華美ニ過クルト飾品ノ夥多ヲ致スハ寧ロ鄙陋ノ  
態ヲ表示スルニ過サレハ務メテ之ヲ戒シムヘシ

公廨ニ入り又ハ平常ノ訪問及饗宴等ニハ黒衣若クハ  
朝衣ヲ着シ夜會其他盛儀ノ宴會等ニハ燕尾服ヲ着

シ決シテ短衣ヲ着ス可ラス若シ和服ヲ用ユルハ必ス  
羽織(附紋)袴ヲ着スヘシ

但和服ヲ用ルルハ氣候ニ關セス必ス白袋ヲ穿ツヘシ

裸跳ハ尤モ鄙野ノ習俗タレハナリ

一 帽子ハ頭上ニ戴クモノタレハ服装中最モ彰著ニシテ人  
ノ注目スルモノナリ故ニ深ク意ヲ用ヒ清潔ニシテ適好

ノ品ヲ冠スルヲ要トス而シテ短衣朝衣及黒衣ニハ平帽  
ヲ用ヒ燕尾服(饗宴儀式等ノ場合ニ由リ黒衣)ニハ禮帽

ヲ冠ス其之ヲ冠スルヤ必ス中帶ノ結合ヲ左方ニ爲ス可  
シ

一 襯衣ハ常ニ雪白ノモノヲ用井ヘシ其袖口ノ下ヨリ襦袢  
ノ袖口ノ顯ハル、モノ又ハ襯衣ノ汚垢セルモノハ共ニ

其威儀ヲ損失スルモノナレハ尤モ注意セシムヲ要ス

但護謨製ノ襟及手首ヲ用井又手首ノミ用井テ襯衣ヲ

着セサルハ卑野ノ習俗トス

一 手套ハ衣服ニ應シ白若クハ着色ノモノヲ用ユ其色ハ

衣服ノ色ヨリ淺淡ニシテ手指ニ適合スル者ヲ宜トス敗

毀或ハ垢汚ノモノヲ用井ルハ特ニ容儀ニ關スルノミナ

ラス握手ニ當テ甚タ不敬ニ涉ルノ恐レアリ

一 靴ハ革製ニシテ能ク其足ニ適合シ常ニ光澤アラシム可

シ

一 衣服ニ係ル大要ヲ左ニ掲ケテ内外上流社會ト陸軍制

服外ニテ交際ス可キ場合ノ參考ニ供ス

但軍人服裝トノ關係ハ陸軍服裝規則ニ在リ之ヲ參看

ス可シ

胸衣 チヨツキ	上衣 コト	帽	通常 燕尾服
地質同上 胸部ノ釦ヲ單行トス	無地ノ黒絨ニ限ル 胸部ノ釦ヲ雙行トシ之ヲ掛ク	禮帽 但會食夜會等ニハ風伸スル高帽ヲ冠スルヲ可トス	
地質同上 但夏季ハ白リン 胸部ノ釦ヲ單行トス	無地ノ黒若クハ黒 紺絨或ハ綾絨之 胸部ノ釦ヲ雙行トシ必ス之ヲ掛ク	禮帽 儀式アリ且鄭重ノ訪問宴會等 但黒色ニ限ル 平帽 通常之ヲ用ユ	黒 フロツクコート 衣
地質同上 夏季ニハ白リン 胸部ノ釦ヲ單行トス	通常無地黒若クハ 紺絨或ハ綾絨ヲ用ユ	平帽 黒茶鼠色 等適宜	朝 モーニングコート 衣
ヒ隨ニ様時テ總ハレナ服略極			短衣 ジャケツト

袴 ツボシ	襯衣 シャツ	襟	襟飾	手套	沓
地質同上	白色	立襟或ハ折襟	白色ニテ紐或ハ蝶 様ノ分ニ限ル地質 ハ麻	光澤アル白革製 但淡鼠色ヲ用ユ ルハ妨ケナシ	黒ノ護謨塗革製
地質絨絨 但シ縞ハ目立タ サリナ可トス夏 季リ上ニ同シ	白色	立襟或ハ折襟	黒色ニテ紐或ハ蝶 様トス又平常ニ在 テハ他ノ色ヲ用ヒ 其制ハ適宜トス	白色ノ外適宜トス 但シ淡色ヲ可トス	黒革製
縞絨 夏季ニハ白リン ニ同シ	白色	立襟或ハ折襟	色合式様トモ 適宜	白色ノ外適宜	黒革製
シ可ス製調ニ宜適					

外套

適宜  
高雅ナル無地絨  
ヲ宜トス

適宜

適宜

備

考

屈伸スル高帽ハ室内ニ入ルルハ屈シテ携フ可シ  
手套ハ兩手ニ穿ツカ又ハ右手ノミヲ脱スルモ左ノ  
手套ハ脱セサルヲ通例トス凡ソ喪ニ臨ミ或ハ葬儀  
ニ會スルルハ上下無地ノ黒服ヲ着シ襟飾手套等總  
テ黒色ヲ用ユヘシ又親戚ノ喪ニ在テハ黒紗片ヲ以  
テ帽ノ中帶ヲ覆フヘシ  
燕尾服及黒衣ヲ着シ外出スルルハ必ス適宜ノ外套  
ヲ着ス可シ

訪問及名刺

一 訪問ノ禮ハ則チ人世交際ノ要義ニシテ須臾モ欠ク可ラ  
ス凡ソ訪問ノ事甚タ多シト雖ル之ヲ大別シテ四種トス  
慶賀、哀悼、肅敬及普通ノ訪問是ナリ  
一 訪問ノ禮ヲ行フニハ必ス名刺ヲ呈致セサル可ラス其名  
刺ハ潔白ノ厚紙ヲ用ヒ我カ姓名(有爵者ハ其爵ヲ冠ス)ヲ鮮明ニ漢  
字ハ楷書洋字ハ草體ニ書シ銅版若クハ活字版ニテ印刷  
ス可シ(官職上ノ訪問等ニ在テハ官職等級爵位姓名ノ名)又公務上  
其他公廨ニ至ルルハ必ス名刺ヲ致ス可シ

一主人及夫人ヲ訪問スルニハ名刺二枚ヲ呈スヘシ若シ尙ホ其他ニ及フ片ハ名刺ノ數モ亦其人數ニ應スルモノトス

一皇族殿下ヲ訪問スル片ハ名刺ヲ呈セズ豫メ備ヘアル帖冊ニ姓名ヲ手記スルヲ以テ禮トス

一凡ソ普通訪問ノ外ハ必要アルニアラサレハ面會ヲ求メス但シ面接スルモ二十分ヲ超ユ可ラス若シ己ムヲ得ス之ニ過クルアルモ其談話終結スレハ直チニ退罷ヲ請フ以テ禮トス決シテ雜談ニ長時間ヲ徒消シ主人ノ倦

厭ヲ招ク勿レ

一訪問ハ通常午後ニ於テ食時ニ涉ラサル時間即午後三四時頃ヲ以テス可シ夜間ノ訪問ハ例外ナレモ敢テ午後十時ヲ過ク可ラス又極メテ親密ナル朋友ノ外朝食前ニ人ヲ訪問スヘカラス

注意、外國人ノ朝食ハ通常午前八九時ノ間ニ於テシ午食ハ午後一時若クハ一時半夕食ハ午後八時前後ニ於テスルヲ一般トス

一訪問者家僕ノ案内ニヨリ應接室ニ至ル片帽及外套等ハ



體裁良ク之ヲ左腕ニ保持シ居ルモ妨ナシ但シ外套ハ成  
ルヘク之ヲ室外ニ置クヲ可トス

一訪問者ハ主人ノ許可ナク椅子ニ就キ又ハ猥リニ机上ノ  
煙草ヲ取ルヘカラス

一訪問者ハ漫リニ小兒或ハ犬ヲ携フ可ラス往々先方ニ迷  
惑ヲ蒙ラシムルヲアレハナリ

一旅店ニ寄寓スル人ヲ訪テ若シ在サレハ己カ名刺ノ上ニ  
其人ノ姓ト尊稱トヲ記シ更ニ口頭ヲ以テ來意ヲ述ヘ置  
クヘシ爾カセサレハ或ハ錯誤ヲ生シ或ハ禮意ノ通セサ

ルヲアレハナリ

一宴會晚餐等ヲ拜謝スルノ訪問ハ必ス其當日ヨリ一週日  
間ノ内ヲ以テスヘシ此等ノ訪問ハ面會ヲ請ハス名刺ヲ  
致シテ去ルヲ例トス

一遠地出發ノ名刺ニハ告別(P.P.C.)ト記シ又歸着ノ時  
ニハ在宿日及ヒ宿所ヲ示スヲ要スレハ宿所ヲ併書スヘ  
シ是レ自他ノ便ヲ圖リテナリ

一始メテ相見ルノ人名刺ヲ交換スルヲアリ然ルハ先ツ  
名刺ヲ受ケタルモノハ必ス己レノ名刺ヲ出シテ之ニ答

フルヲ禮トス

一人ヲ訪フテ不在ノ時ハ名刺ノ上端ヲ表面ニ折リテ呈シ  
 置クヘシ面會ヲ求メスシテ歸ル片亦然リ而シテ死亡後  
 ノ弔禮訪問ニ在テハ之レニ反シテ裏面ニ折ルヘシ  
 一紹介狀ヲ得テ人ヲ訪フ時ハ己カ名刺ト紹介狀トヲ出  
 シ面會ヲ求メスシテ歸ルヲ禮トス是レ訪問ヲ受ケタル  
 者ハ訪問者ノ面前ニ於テ紹介狀ヲ熟讀スルヲ得ス爲メ  
 ニ其處置待遇ノ方法ニ惑フコアルヘケレハナリ

迎接

一迎接ハ官位等級ニ應シ或ハ入口ニ於テシ或ハ戸口ニ迎  
 へ或ハ室内ニ在テ訪問者ヲ待ツコアルモ必ス立テ數歩  
 前進シ常ニ温和ナル顔容ヲ以テ怡々之ヲ迎ヘテ席ニ就  
 カシメ己レ亦々椅子ニ就テ應對シ人ヲシテ嚴格窮屈ヲ  
 覺エサラシムルニ在リ決シテ配意周旋ノ外貌アルコト無  
 ク而シテ善ク諸事ニ注意センコトヲ要ス  
 一衆多ノ賓客ヲ接遇スルニハ諸人ニ對シ偏頗ナカラシ  
 勉ム可シ若シ自然ニ愛敬ノ等差ナキヲ得ザルニ至リ輕

曲禮 一 班

重ヘビヲ爲イサハ寧ムシ口遠疎エンソウニ重ク親近シンキンニ輕クシ或ハ位地卑下イチチヒカノ人ヲ敬禮ケイレイス可シ是レ人ニ接スルノ要旨ナリ

一人ノ訪問ヲ受ケ故ナク待タセ置キテ接遇セツグヲ遲延チエンスルハ尤モ不敬ノ所爲シヨイトス若シ已ヤムヲ得サル片ハ先ツ鄭重テイチヨウニ其意ヲ申告シンコクス可シ

一男子ノ訪問ヲ受ケ一揖イチイツノ禮ヲ終リタル後主人手ツカラ煙草ヲ供スキヨヘシ其客己レト同等若クハ尊長ナル片ハ更ニ木燧マツチニ火ヲ點シテ之ヲ薦ムルハ愛想アイソウアル欸待クワンタイノ一トス

一 名刺メイシト紹介シヨウカイ狀トヲ受ケタル者ハ熟讀ジュクドクノ上直チニ招待シヨウダイ狀ヲ認メテ訪問者ヲ迎ヘ適當テキトウノ應對オウダイヲ爲サルヘカラス

紹介

一 紹介トハ甲乙ノ間ニ在リテ新ニ交ヲ結フノ媒ヲ爲ス  
 ナリ之ヲ行フニ或ハ言語ヲ以テシ或ハ書簡ヲ以テス凡  
 ソ交情ノ親厚ヲ保持スルハ紹介者ノ力ニ依ルヲ以テ輕  
 忽ニ之ヲ爲ス可ラス

一 賤者ヲ貴者ニ男子ヲ婦人ニ紹介スルヲ法トス其之ヲ爲  
 スヤ先ツ貴者及婦人ニ稟請シ其承諾ヲ得テ然ル後賤者  
 若クハ男子ノ姓名ヲ告ク可シ又數人ヲ一時ニ紹介スル  
 并ハ紹介セラル、人ノ姓名ノミヲ通シ紹介ヲ受クル人

ノ姓名ハ逐一之ヲ告クルニ及ハス

一 數人同室内ニ在ル時ハ先ツ最高位ノ人ニ紹介シタル後  
 他ハ貴賤ノ順序ヲ論セス一端ヨリ他端ニ紹介スルヲ便  
 トスルヲアリ

一 他人ノ家若クハ遊歩ノ際ニ於テ偶然邂逅セシ人ニハ其  
 間ニ立チ別ニ紹介スルヲ要セス尤モ雙方ノ希望ニ出ツ  
 レハ之ヲ行フ可シ但シ此ノ如キ偶然ノ會合ニシテ互ニ  
 面識タルモ特ニ紹介ノ禮ヲ行フニ非サレハ知遇トスル  
 ヲ得ス

一書簡ヲ以テ紹介スルハ一層ノ注意ヲ加ヘ雙方共ニ交誼  
 厚キノ人ニ非サレハ敢テ行フ可ラス紹介セラル、人ハ  
 先ツ其書簡ニ己レノ名刺ヲ添テ之ヲ受クル人ニ送り其  
 諾否ノ答ヲ請フヘシ若シ特別ノ要務アリテ之ヲ爲スハ  
 格別ニシテ直チニ自ラ之ヲ持參スヘシ

談話

一談話ハ心理ノ節文ニシテ身ノ儀則タリ故ニ人ノ品位ニ  
 於テ最重ノ關係ヲ有スレハ常ニ注意シテ鄙陋ノ言辭ヲ  
 慎ミ意情ノ高雅流暢ナランコトヲ要ス  
 一凡ソ談話ノ法ハ先ツ人ヲ樂マシメ自ラ亦タ和諧ノ快ヲ  
 享ケ人ノ辭ヲ助ケ其意ヲ敷衍シ又ハ人ノ辭ヲ傾聽シ其  
 席ノ談柄ニ注意スルニ在リ  
 一人ノ談話スル時ハ必之ヲ傾聽スヘシ蓋シ懇切ノ禮意ヲ  
 盡サント欲スルニハ欠ク可ラサル事項タリ

一 談話ノ時漫然興ニ乗シテ我ヲ忘ルヘカラス又公會宴  
 集ノ際ニ在テハ長キニ過ル談話ヲナス可ラス又格外ナ  
 ル高聲ヲ發スルヲ戒シムヘシ

一 他人ノ辭ヲ窮詰シ其主意或ハ事實思慮ノ過失ヲ發訃ス  
 ル等人ヲ困辱ニ陷シイルノ言ヲナスコト勿レ

一 廣衆稠人集會ノ席ニ在テハ殊ニ耳語スヘカラス又衆  
 人ノ解シ得サル言語ヲ以テ人ト談話ス可ラス是等ノ行  
 爲ハ同席ノ衆人ハ頗ル不快ノ感情ヲ作サシム若シ又外  
 國ノ人此席間ニ列シテ充分ニ國語ヲ解了シ能ハル片ハ

其本國ノ語ヲ用ヒ(若シ之ヲ能クセハ)之ヲ慰安スヘシ

一人ト對話スル時ハ須ラク其人ノ容色ヲ視テ言ヲ發スヘ  
 シト雖モ傲然睥睨ノ態アル可ラズ務メテ容貌言語ヲ  
 恭シテ謙謹己レノ信ヲ表シ且ツ安舒ナル容儀ヲ以  
 テ禮ヲ亂タサ、ルニ注意セサル可ラス此禮法ノ如キハ  
 管ニ對話ノ時ノミナラス一般ノ交際上ニ於テモ皆然リ  
 ト爲ス

一 集會ノ席等ニ在テハ同列スル各人ノ身上ニ就キ其ノ概  
 略ヲ知ルヲ要ス否ラサレハ談話ノ際ニ偶然不敬ノ事ヲ

吐露スルヲ計リ難ケレハナリ

一衆人未タ知ラス我獨リ詳知スト思フ事項ヲ得意ニ談話  
ス可ラス(益ヲ請フノ旨意ナレハ妨ケス)若シ我ヨリ他  
ニ知レル者ナシト空想シテ其坐中ニ沈靜篤厚ノ大人長  
者アラハ必ス我カ不學蒙昧ナルヲ憫笑スヘシ

一會集ノ席ニシテ後レテ談話ノ半ニ來ル人アラハ之カ爲  
ニ前ニ談話セシ事項ヲ述ヘヨ是レ敬禮ノ法ナリ

一我カ職トスル事項ヲノミ談話ス可ラス世人動モスレハ  
談話ノ柄ヲ己カ職トスル事項又ハ我カ喜好スル事物ニ

附會セントスルヲ多ケレモ是等ハ實ニ野鄙ナル行爲ニ  
シテ同席ノ人ニ厭倦ノ意ヲ生セシメ且ツ我カ智識ノ乏  
シキヲ顯ハスモノトス

一己レ談話スルノ際妄ニ笑フハ時トシテ衆人ヲ樂マシム  
ルノ効用アレモ多クハ説ク所ノ事項ヲ混交セシメ却テ  
不快ナル者ナリ故ニ我カ談話ノ時ハ自ラ妄ニ笑フヲ勿  
レ

一我レ獨リ多言シテ衆人ノ談話ヲ攪滅シ或ハ之ヲ妨ケサ  
ルニ注意スヘシ他ヲシテ自己ノ談話ヲ聽シメント欲ス

ルハ人ノ常情ナリ然ルニ我ノミ談話ヲ爲サハ他人ヲシテ甚タ不快ナラシムルニ至ルヘシ

一談話ノ席ニテハ歴史或ハ一代記等ヲ冗長ニ言語スヘカラス必要ニ當テハ之ヲ引證スルモ可ナリト雖モ唯其要領ノミヲ述ヘヨ又前ニ陳述セシ事項ハ已ニ之ヲ聽シ人々ニハ後來再ヒ復タ語ルコト勿レ

一人ト争フコト勿レ若シ他人ノ説ク所我カ意ニ反スルモハ默シテ同意セサレハ可ナリ必ス之ニ抵抗ス可ラス  
一洒落輕口滑稽等時ニ取リテノ興致ヲ添フルコトアレモ或

ハ人ヲシテ誤解セシメ反テ不愉快ヲ生スルコトアレハ務テ之ヲ爲サハルヲ可トス但シ淡泊雅味ニシテ且ツ高尚ナル諧謔ハ大ニ興味アルモノナリ

一鄙シキ俚諺ヲ引用スヘカラス學識アル者ハ俚諺ヲ用ヒストモ充分ニ我カ所思ヲ述ルコトヲ得レハナリ

一辯論ヲ縱横シテ智識ヲ示ス如キコトアルヘカラス學者ヲ装ヒ意味深遠ノ言語ヲ用フルハ反テ大ニ人ノ嫌厭ヲ招クモノナリ

一世俗所謂氣取ナルモノハ其言行風采ニ於テ自然ナラサ



ル特殊ノ方ヲ用ユルヲ云フ蓋シ奇癖、風變リ等ハ往々  
天才ノ士ニ伴フモノナレトモ典雅ヲ貴フ者ハ物ニ注意ス  
ヘキナリ

一諸種ノ人物混集ノ席ニ於テ我カ親友ヲ誹毀スル者アリ  
トモ求テ之ト争辯スヘカラス然レトモ特ニ我一人ニ對シ  
テ親友ヲ誹毀スル者アラハ回護解釋シテ可ナリ然レモ  
是時深ク思慮ヲ回ラシテ憤怒ノ激情ヲ抑制スヘシ  
一人ノ性質情態ヲ聞ク有トモ之ヲ他ノ席上ニ移シテ誇  
説スル勿レ

一衆人ノ面前ニテ故ナク我一身ノ事ヲ談話ス可ラス  
(若シ我カ談話セントスル事項ヲ詳明ニセンカ爲メニ  
之ヲ語ルハ可ナリ)衆人必ス厭倦ノ心ヲ生スヘシ若シ  
好テ之ヲ聞ク人アラハ是レ必ス我ヲ誘テ隱秘ノ事ヲ  
言ハシメ我カ愚骸ヲ見テ以テ弄具トナサントスルニ在  
リ亦タ耻ツヘキノ甚シキモノナリ  
一談話ハ簡短ニシテ明白ナルヲ貴フ紛雜ニシテ冗長  
ナルヘカラヌ又其對スル所ノ貴賤尊卑ニ應シテ自ラ  
分別アルニ注意ス可シ或ハ尊長ヲ朋侶視シ或ハ後進卑

賤ノ者ヲ奴隸若クハ童兒視スルハ供ニ非禮ナリトス  
 一頑傲ヲ以テ風采品格ヲ保持スヘキト思フハ大ニ誤レリ  
 其ノ舉止温良ニシテ天然ニ出ルカ如ク他人ヲ薰陶シテ  
 亦タ斯ノ如クナラシメント欲スルハ是レ則チ高尚ナル  
 威儀ノ精神ナリ

宴會

一饗宴ハ午食若クハ晚餐ニ於テシ其招待狀ハ主人タル  
 夫妻ノ名ヲ署シテ必ス之ヲ一週日前ニ送致スヘシ但シ  
 事情アリテ遅速アルモ二日ヨリ遅ク三週日ヨリ速ク之  
 ヲ出スコ勿レ

一饗宴ニ招待スヘキ賓客ノ撰擇ハ頗ル思考分別ヲ要スル  
 一ナリ社會ニ於テ成ルヘク同地位ノ者ヲ撰フヘシト雖  
 其賓客ハ必シモ舊交ノ知己タルヲ要セス又タ必シモ同  
 等ノ位階ナルヲ要セス蓋シ饗宴ハ賓客互ニ親密ニ接ス

ヘキカ故ニ主人タル者未知ノ人ヲ紹介スルヲ得レハナ  
リ

一饗宴ニ招待セントスル正賓ノ知人或ハ其國語ニ通スル  
者ヲ集メ之ヲ紹介シ宴席ノ興ヲ添ルヲ良トス又々正賓  
ヨリ高位知名ノ士ヲ同時ニ招待シ反テ正賓ノ名譽トナ  
ル場合アリ

一一面識ナキ者ハ之ヲ招待スヘカラス若シ之ヲ爲ントセ  
ハ先其知人ニ依頼シテ紹介ヲ求メタル後ニ於テスルカ  
若クハ其知人ノ友人トシテ知人ニ誘引セシムヘシ

一凡テ招待ヲ受クル片ハ必ス直ニ諾否ノ答ヲ爲スヲ可ト  
ス若シ夫レ命令ノ意ヲ含ミタル招待例ヘハ 天皇陛下  
ノ命ヲ奉シ宮内大臣招待狀ヲ發スルノ類ニ對シテハ不  
參ノ時ノミ其旨ヲ届出ヘシ招待狀ニ返答ヲ要スルコ  
(R. S. V. P.) ヲ記入セサル立食案内狀等ニ對シテハ  
答ヲ爲サ、ルモ妨ナシ

一若シ招待ヲ承諾シタル時ハ決シテ其約ヲ破ルヘカラス  
蓋シ承諾シタル客ノ來ラサルコトアル時ハ意外ノ混雜ヲ  
生スレハナリ

一 舞蹈會ノ招待ヲ受ケタル者ニシテ、舞蹈シ得サル者ハ寧  
ロ之ヲ辭スルヲ良トス何トナレハ、舞蹈ヲ知ラサル者其  
席ニ在ル時ハ大ニ主人ノ配慮ヲ煩ハシ又々舞蹈者ノ興  
ヲ減スル恐レアレハナリ

一 招待ニ應シタル片ハ、預メ着服ヲ考慮セサルヘカラス  
其招待狀中特ニ指定ナキモノハ、禮服ト心得ヨ若シ疑フ  
テ決スル能ハサル片ハ、執事ニ就テ問質セシムヘシ之ヲ  
要スルニ凡ソ宴會ノ服裝ハ其主人ノ服裝ニ同キヲ適當  
トス若シ異ナル片ハ主人ヨリ正シキ服ヲ着スルモ決シ

テ略セルモノヲ着用セサルヲ禮トス

主人ハ賓客ヨリ正シキ服ヲ着シテ接待スルハ、反テ禮ニ  
非サルナリ

一 招待ヲ受ケ宴會ニ列セシ片ハ當日ヨリ一週日間内ニ答  
禮ノ訪問ヲ爲スヘシ之カ爲メ面會ヲ求ムルヲナク單ニ  
名刺ヲ置キ歸ルヲ一般トス若シ事故アリ招待ニ應スル  
能ハサルモ謝禮ノ爲ニ訪問スルハ前ニ同シ

一 親友其他親シキ知己間ニ於ケル食事等ノ返禮ハ之ヲ爲  
スノ必要ナキモノトス而テ後日招待ヲ受ケタル者ニ相

會スルモ前日受ケタル食事ノ禮ヲ述フルモノニ非ス  
 一招待ノ定時ヲ違ヘスシテ行クヲ禮ト爲ス半時間早キモ  
 五分間ヲ遅延スルモ共ニ不敬トス故ニ預メ定時前四五  
 分ノ間ニ到ルヘク注意シテ行クヲ要ス  
 一招待ノ時刻凡三十分前ニ至レハ主人ハ正室ニ出テ接待  
 ノ用意ヲ爲スヘシ  
 一衆賓正室ニ來ル必ス先ツ主人ニ揖謝シテ後ニ禮ヲ來會  
 ノ諸賓ニ行ヒ俱ニ繁雜ナラサル談話ヲ爲スヘシ  
 一主人ハ食堂ノ準備己ニ整頓スルノ報ヲ得ハ來賓ヲ誘導

シテ食堂ニ入り順次ニ其席ニ着カシム此時主人ハ我椅  
 子ノ後ニ起立シ衆賓ヲ待ツニ便宜ナラシメ其着席シ終  
 ルヲ見テ己レモ亦其席ニ着スヘシ  
 一席次ハ來賓ノ資格位置等ニ從ヒ種々ノ差異アリト雖モ  
 何レモ階級ノ尊卑年紀ノ先後等ノ序次ニ基由シ賓客ヲ  
 シテ不快不遇ノ感ナカラシムルニ注意センコトヲ要ス  
 一賓客各自ノ坐席ヲ知ルニ便ナラシムル爲メニ其姓ト尊  
 稱トヲ書スル小札ヲ置テ例トス又多人數ノ宴會ナルハ  
 ハ或ハ食糧ノ略圖ヲ製シテ其席次ヲ知ラシムルコトアリ

一賓客着席スレハ直チニ手套ヲ脱シ檯上ノ巾帨ヲ取り各  
 其膝ヲ覆ヒ以テ喫食ノ準備ヲ爲ス但巾帨ヲ胸間ヨリ掛  
 垂スルハ卑俗ノ所爲ナレハ爲ス可ラス  
 一凡ソ客ヲ饗應スル稍鄭重ナルキハ必ス饌單ヲ食檯上  
 ニ置キ之ヲ見テ預メ配供ノ順序ト其品質トヲ知ルヲ得  
 セシム  
 一食品ハ通例羹汁ヲ初メトシ順次ニ諸種ノ肴ヲ換供シ  
 終リニ糖菓菓實等ヲ薦ム酒ハ羹汁ヲ撤スル後ニ觴ニ  
 滿タシメ漸次各種ノ酒ニ及フモノトス

一羹汁ヲ喫スルノ法ハ通常食匙ノ一側(前縁)ニテ之ヲ掬  
 ヒ他側(後縁)ニテ喫スヘシ食匙ノ尖端ヨリスルハ法ニ  
 非ス而シテ汁ノ減スルニ從ヒ左手ニテ皿ヲ前方ニ傾ケ  
 前ト同法ニヨリ之ヲ盡スヘシ  
 一膳夫ハ肴ヲ盛リタル器ヲ客ノ左側ヨリ薦ム客ハ自ラ匙  
 子ト肉叉トヲ以テ適宜ニ之ヲ擇ミ取り即時ニ食ス可シ  
 膳夫ノ我右側ノモノニ薦ムルノ間其皿ヲ注視スルカ如  
 キハ頗ル野卑ナリトス酒ハ膳夫ノ檯上ニ排置スル盃觴  
 ニ滿酌スルヲ俟テ適宜ニ之ヲ飲ミ麵包ハ肴ト取交セ適

宜ニ喚喚ス可シ

一 食事半ハニ至レハ先ツ主人ハ客ニ對シ次ニ客ハ主人ニ對シ其他賓客相互ニ觴ヲ舉ケ其健康ヲ祝スルモノナリ但シ數種ノ酒アル時ハ此禮ハ「シヤンバン」酒ニテ行フモノトス

一 「シヤンバン」酒ハ膳夫其時機ヲ計リ之ヲ觴ニ滿酌ス正式ノ會ニ在テハ多クハ主人此觴ヲ把リ起立シテ衆賓ニ謝辭ヲ致スヲ常トス是時ニ在テハ衆賓モ亦隨テ起立シ禮意ヲ表スルノ後之ヲ飲ムヲ以テ例トス故ニ是酒ハ觴

ニ滿酌スルモ直チニ飲ム可ラス

一 賓客相互ニ觴ヲ舉クルノ法ハ數等上級ノ者ニ對シテハ起立注目シテ之ヲ舉ケ飲ミ盡シテ後更ニ其人ニ注目シ再ヒ少シク觴ヲ舉ケ之ヲ檯上ニ置キ坐ニ就クヘシ同輩ニハ起立ヲ要セス

一 觴ヲ舉クルノ禮ハ我友情ヲ示スモノナリト雖獻酬ノ禮ハ決シテ之ヲ行フヘカラス是レ我ノ飲ミタル觴ヲ直チニ人ニ與フルハ頗ル禮ヲ欠クモノナレハナリ  
一 此食事ヲ終レハ洗指盥ヲ供ス乃チ適宜ニ指頭ヲ滌淨シ

且僅カニ巾幌ノ一隅ヲ濕シ口ヲ拭フヘシ決シテ口ヲ嗽  
キ含ミタル水ヲ盥中ニ嚙噴スルカ如キ不敬ノ舉動ヲ爲  
ス可ラス

一食饗己ニ畢リ談話亦盡ントルニ方リ主人起立シ食櫃ヲ  
離ル、并衆賓ハ直チニ巾幌ヲ淺碟ノ側ニ疊マズニ置キ  
テ起立シ正室ニ移ル是ニ於テ咖啡若クハ茶ヲ供シ或ハ  
消化ヲ助クル酒類及煙草等ヲ薦ム何レモ適宜ニ喫飲ス  
可シ

一酒及其他ノ食物ハ賓客嗜ミ食スル所ノ適度ニ任カセ之  
ヲ強フルヲ勿レ一度進メテ辭スル時ハ他ノ物ヲ進ムル  
ヲ良トス我亦タ其欲セサルモノヲ進メラル、時ハ叮嚀  
ニ辭退スヘシ之ヲ辭スルモ決シテ無禮ニ非サルナリ  
一穀菓等一切ノ食品甚タ之ヲ嗜好スルモ敢テ狼リニ貪リ  
取リ碟皿ニ堆積スルカ如キ鄙野ノ態ヲ爲ス可ラス  
一凡ソ肉ヲ口ニ容ルニハ毎ニ肉又ヲ以テス庖刀ハ唯肉ヲ  
割クノ用ニ供スルノミ液躰ノ菓子等ニハ菓子七ヲ用ユ  
ヘシ

一氷製ノ菓子ヲ喫スルニハ右手ニ七ヲ執リ左手ニ干菓子



若クハ麵包ノ小片ヲ取リテ氷菓ノ皿中ヲ滑走セサル様ニ爲ス可シ

一瀉汁及ヒ野菜ハ必ス皿中ニ盛ル肉類ノ傍ニ置クヘシ其上ニ載スヘカラス

一羹汁ヲ喫シタル後匙ヲ皿中ニ置キ其他ノ食品ニ在テハ肉又及ヒ庖刀ヲ併セテ右ヨリ左ニ斜ニ置クカ或ハ之ヲ十字ニセヨ是レ膳夫ガ皿ト庖刀肉又等ヲ同時ニ持去ルノ便ヲ得ル爲メナリ

一魚類ヲ食スルニハ右手ニ肉又ヲ操リ左手ニ麵包ノ小片

ヲ持シ肉ヲ解スルヲ助ケ又麵包ヲ喫スルニハ之ヲ咬ミ或ハ切ルヲナク手ヲ以テ之ヲ擘裂クヲ要ス又庖刀ヲ以テ殺ヲ口ニ致スモノアレハ鄙野ノ至リ敢テ爲ス可ラス

一刀石柏ヲ食スルニハ指頭ヲ以テスルモ敢テ失態ト爲サ

レハ其食ス可キ部分ヲ切り肉又ヲ以テ之ヲ啖フヲ可トス又諸品ヲ食スルニ肉又ヲ用ヒナガラ又指ヲ觸ルナキヲ要ス

一核有ル果實ヲ混有セル物品ヲ食スルニハ務メテ其核ヲ

口中ニ容レサルニ注意ス可シ若シ誤テ口ニ入ル、片  
 ハ指頭ヲ以テ窈ニ之ヲ除去スルヲ要ス決シテ碟皿中ニ  
 吐棄スル勿レ魚類ノ骨ヲ口中ニ容レタル時亦然リ  
 一総テ食物ノ品質ヲ知ラスシテ之ニ着手ス可ラス各種ノ  
 穀菓ヲ悉ク食セサルモ決シテ失禮ニ非ス之ニ反シテ  
 一タヒ着手セル食品ヲ嫌忌シ其皿ヲ排斥スルハ食品ノ  
 善良ナラサルヲ示スニ同シク途ニ不敬ニ陥ルヲ以テ尤  
 モ注意ス可シ食品ヲ取ルノ過多ニシテ終ニ食シ盡サ、  
 ルモ亦同シ

一退散、已レ上客タル時ハ食後凡ソ一二時間計リニ於テ  
 ス可シト雖己ヨリ高級者アル時ハ其去ルヲ待テ辭スル  
 ヲ禮トス若シ早ク歸去セントスル片ハ務メテ之ヲ陰密  
 ニスルヲ善トス何トナレハ若シ公然ノ式禮ヲ爲シテ退  
 ク片ハ其例佻客ニ及フヲ以テナリ故ニ偶然主人ニ面接  
 スレハ謝告セサルヲ得スト雖凡若シ然ラサレハ謝セス  
 シテ去ルモ敢テ禮法ヲ欠クナシ又退歸ヲ迎フル車馬  
 等來レハ家僕竊カニ之ヲ其客ニ告クルヲ要ス舞踏會夜  
 會等ニ在テモ亦同シ之ニ反シテ快樂ノ至リ己レ未タ歸

ルヲ欲セザルモ決シテ遲留シテ興盡ルニ至ル可ラス  
 一客ノ辭スルニ際シテハ成ルヘク送り出テ、便利ヲ與フ  
 ルヲ良トス殊ニ外套帽子等ヲ取り客ヲ助クルハ家僕ノ  
 任ナレモ客ノ高級ナルカ若クハ階級ニ著シキ等差ナ  
 キ限リハ自ラ客ヲ助クルヲ良トス而シテ外套ヲ着セシ  
 ムルニハ其襟或ハ肩ヲ兩手ニテ取り客ノ後ロニ立チ其  
 廻ス手ヲ袖ニ入レ得ル如クシ客既ニ手ヲ袖ニ入ル、片  
 ハ外套ノ襟ヲ取りテ之ヲ引上ケ客ヲシテ外套ノ装着ヲ  
 容易ナラシメ後一手ヲ以テ外套ノ襟ヲ取り他手ヲ以テ

外套ノ内部ヨリ上衣ノ下端ヲ取り兩手ニテ上下ニ引キ  
 外套ト上衣トヲ正シク合附セシムヘシ

一凡ソ飲食ヲ爲スハ極メテ和緩ナルヲ要ス之ヲ急キ忽々  
 無言ニ食スルカ如キハ極メテ野卑ナリトス故ニ肉類ヲ  
 切ル片七刀ノ皿ニ觸レテ聲ヲ爲サ、ル様注意シ酒或ハ  
 羹汁ヲ喫スルニ唇舌ノ鬧聲ヲ慎メヨ若シ之ヲ止ムル能  
 ハサル片ハ巾帨ヲ以テ口ヲ掩フ可シ又口中ニ食物ヲ含  
 ミナカラ人ト談話ス可ラス又椅子ヲ斜欹シ或ハ動搖シ  
 或ハ肘ヲ檯上ニ置ク等總テ妄意ノ舉動ヲ爲サ、ルヲ要

ス但シ一手若クハ兩手ノ手首ヲ檯上ニ掛クルハ差支ナ  
キモノトス

一 食事中若シ 誤テ杯觴ヲ轉覆シ或ハ皿碟ヲ墜下スル等  
ノ事有ルモ必スシモ主人ニ鄭重ナル謝辭ヲ致スヲ要セ  
ス蓋シ此等微小ノ過失ハ主人固ヨリ意ニ介セサル者ト  
爲セハナリ然レモ若シ誤テ他人ノ衣服ヲ綻裂シ或ハ之  
ヲ汗ストキハ 謹テ之ニ過失ヲ謝セサル可ラス  
一 會集席上ニ於テ耳語シ或ハ口吻ニ物聲ヲ爲シ或ハ手ヲ  
以テ耳或ハ齒ヲ弄シ或ハ頭顱ヲ搔撫シ或ハ噎屢等ノ

粗野ナル行爲ヲ慎シム可シ然ラサレハ竟ニ諸客ノ擯棄  
ヲ受ルニ至ル是等ノ事ハ平常ト雖モ非禮不敬ノ行爲ニ  
シテ飲食ノ時ハ殊ニ忌惡スヘキノ醜狀トス若シ鼻水  
ノ出ル時ハ直チニ手巾ヲ以テ之ヲ拭去ルヘシ此事ハ  
如何ナル貴人ノ前ニ於テ妨ナシ

一 酒ヲ飲ムヲ必ス適量ニ過キサル様注意ス可シ然ラサレ  
ハ席上ノ規則ヲ忘却シ失儀違禮ノ羞辱ヲ避ク可ラス  
何レノ場合ト雖決シテ酩酊スヘカラス

一 舞踏會及夜會等(食立)ニ於テ食饗既ニ備ハルノ報ヲ聞

カハ徐カニ其室ニ至リ適宜ニ飲啖シ終レハ再ヒ正室ニ  
 復リ適宜ニ談話シ運動シ尊長ノ散歸スルヲ待テ徐カニ  
 辭シ去ルヘシ凡ソ此等ノ會ハ夥多ノ人集合スルヲ例ト  
 スレハ尤モ喧鬧ノ言動ヲ慎ミ殊ニ食席ニ就クハ傍人  
 ト肩摩肱觸セサルニ注意ス可シ  
 一 通常立食場ハ殺菓陳列櫃、飲酒分與場、食器配與場及  
 各人ノ隨意使用シ得ヘキ數多ノ食櫃ヲ設ケアルモノト  
 ス故ニ今一例ヲ示セハ左ノ如シ

食器配與場ニ至リ食器ヲ受領シ殺菓陳列櫃ニ至リ嗜

好スル食品ヲ取り飲食分與場ニ至リ酒ノ配與ヲ受ケ

後食櫃ニ就キ飲食スルカ如シ

一夜會園遊會其他立食ノ饗宴ハ通常全客員ノ半數ニ應ス  
 ル殺菓ヲ用意シアルモノナル故久シク陳列場ノ附近ニ  
 留マルハ他人ノ妨害トナルモノナレハ殺菓ヲ取りタル  
 後ハ直チニ其位置ヲ去リ食櫃ニ於テスヘシ又一時ニ多  
 量ヲ取ラス小量宛數回ニ取ルヲ良トス是等ノ會ノ本趣  
 ハ食スルニ非スシテ談話舞踏及遊戯若クハ交際ヲ主ト  
 スルモノナレハ能ク其主旨ヲ誤ラサルニ注意センコトヲ

要ス凡ソ其國文明ノ程度ハ宴會ノ景況ニ由テ概見スルヲ得ルト云フ其レ慎マサルヘケンヤ

吸烟

- 一 吸烟ハ場所ト場合トヲ問ハス隨意ニ之ヲ爲スハ甚々忌悪スヘキノ事タリ之ヲ嗜ムモノ多ケレモ亦嗜マサルモノモ少カラズ故ニ公會其他群集ノ場所等他人ニ烟氣ヲ及ホス所ニ於テハ務メテ吸烟ヲ慎ムヘシ
- 一 特ニ吸烟所ノ設ケアル所ハ決シテ其場所ノ外ニ在テ吸烟ス可カラス
- 一 貴顯及尊長ト對話スル所ハ決シテ己レ先ツ吸烟ス可ラス又途上吸烟スルニ方リ相知ノ人ニ遭遇スル時ハ禮ヲ

行フニ先チ必ス烟草ヲ口ヨリ取り去ル可シ

一招待ヲ受ケタルカ若クハ訪問ノ際主人ヨリ烟草ヲ薦メラル、時ハ其内ノ一本ヲ取り數本ヲ取ルヘカラス而シテ主人其他同客ヨリ木燧マツチニ火ヲ點シテ之ヲ進スメラル、時ハ禮ヲ述ヘテ其木燧ヲ受取り煙草ニ火ヲ付クルヲ禮トス

一歐米各國ノ風習ハ婦人所在ノ場所ニ在ラ吸烟スルハ無禮ノ甚シキモノトス故ニ外國婦人ト室ヲ同フシ又ハ同行スル并ハ彼ノ習慣ニ讓リ敢テ吸烟スルコト勿レ是レ

彼ヲ禮シテ己ヲ高カラシムル行爲ニシテ交際上宜シク然ルベキ所ノモノトス

古禮一斑



# 古禮一斑

序

曩ニ陸軍士官教授編纂ノ曲禮一斑ヲ本校生徒ニ領チ參考ニ供セシム是陸軍禮式外ナリト雖モ泰西禮法ノ我國ニ適用スヘキ者ヲ蒐輯シ頗ル處世ノ道ニ補アルヲ以テナリ然レモ一國自ラ一國ノ禮アリ其國ニ處ル者固ヨリ其禮ニ從ハサルヘカラス况ヤ今日本邦ノ如キ諸般ノ風俗ハ依然固有ノ面目ヲ存シテ洋風ニ移易セサル者十ノ八九ニ居ルニ於テヤ而シテ輒近本邦ノ禮類廢シ之ヲ講スル者僅ニ專門者流ニ止マリ其他ハ即チ任意苟作シテ復々意ヲ留メサ

ルニ至ル是豈禮ヲ知ルモノト謂フヘケンヤ是ニ於テ陸軍  
歩兵中尉塚本芳郎同澤三郎ニ命シ所謂専門家小笠原清務  
氏ニ就キテ小笠原禮法ヲ講肄シ且ツ其大要ヲ録シテ冊子  
トナサシメ名ケテ古禮一斑ト曰フ以テ生徒ニ領布ス生徒  
タル者彼曲禮一斑ト并講兼識シ時ニ應シテ之ヲ用レハ則  
チ内外公私ノ交際ニ於テ兩ナカラ其宜ヲ得テ士人ノ禮節  
ヲ失ハサルニ庶幾カラン乎

明治廿九年七月

陸軍中央幼年學校長

粟屋

### 古禮一斑目錄

坐作進退	一
拜禮	三
物品授受	七
賀儀葬祭	九
物品觀覽	十一
宴席程儀	十三

頁 一 三 七 九 十一 十三



附 注意事項  
錄

二

二十七  
二十一

父 子 元 旦 之 禮



第一圖



第二圖

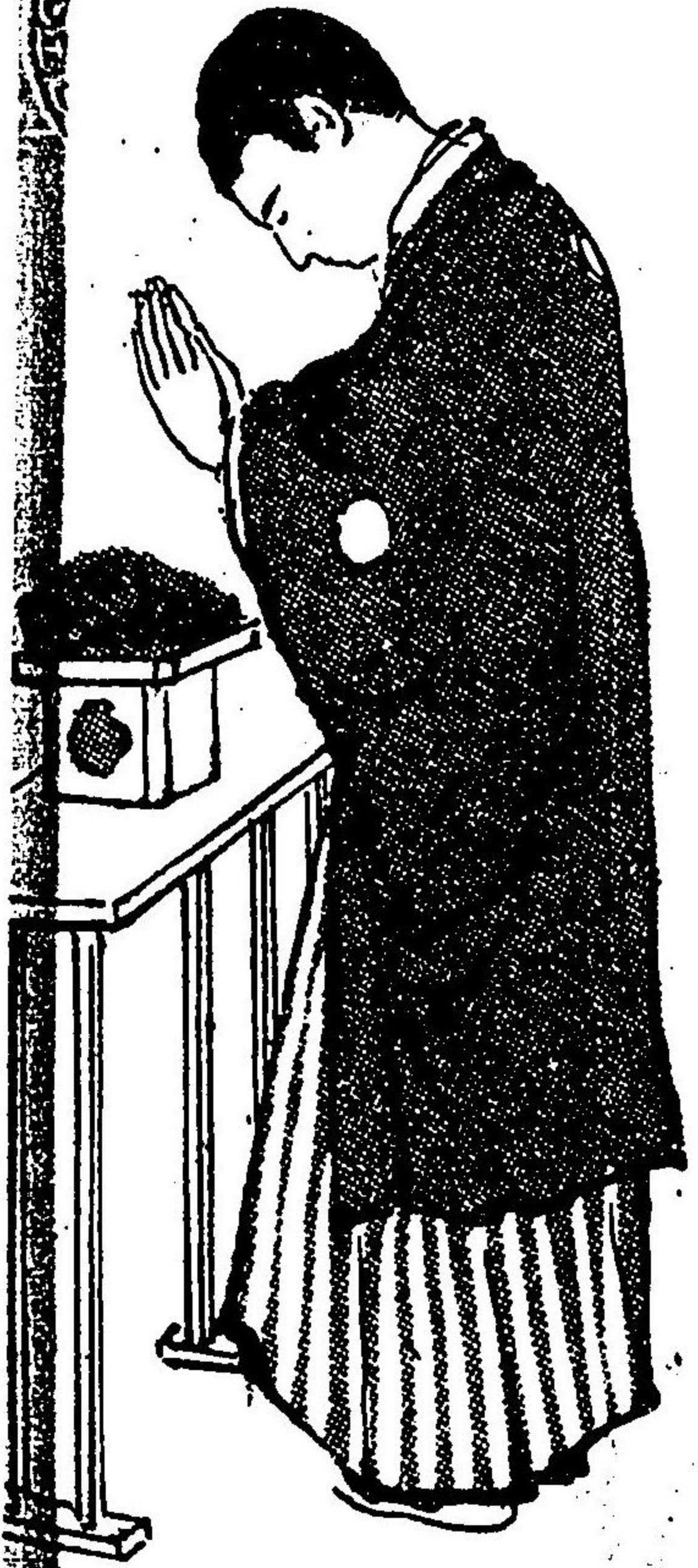
(1)



(2)



第三圖



第二圖



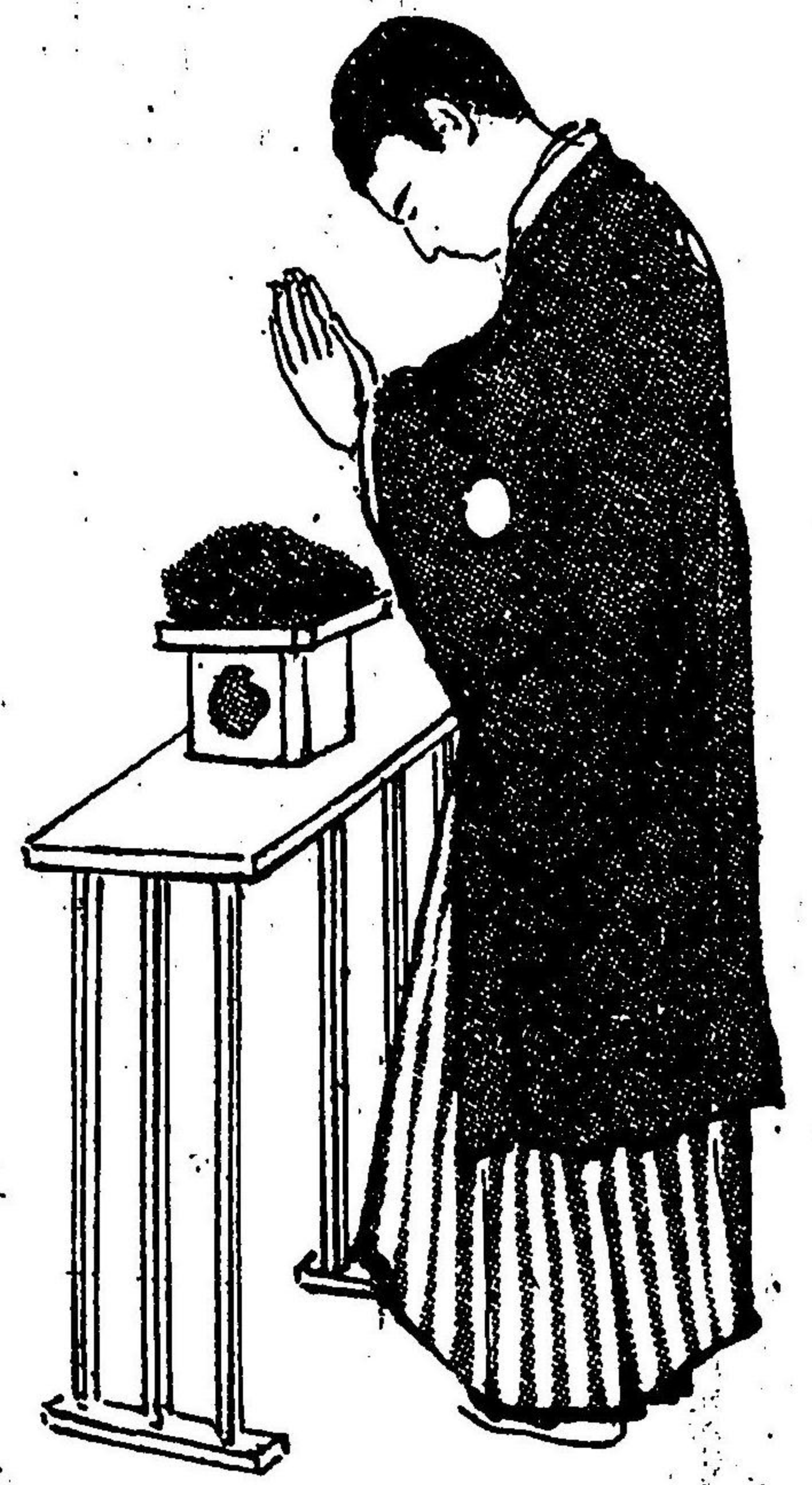
(1)



(2)

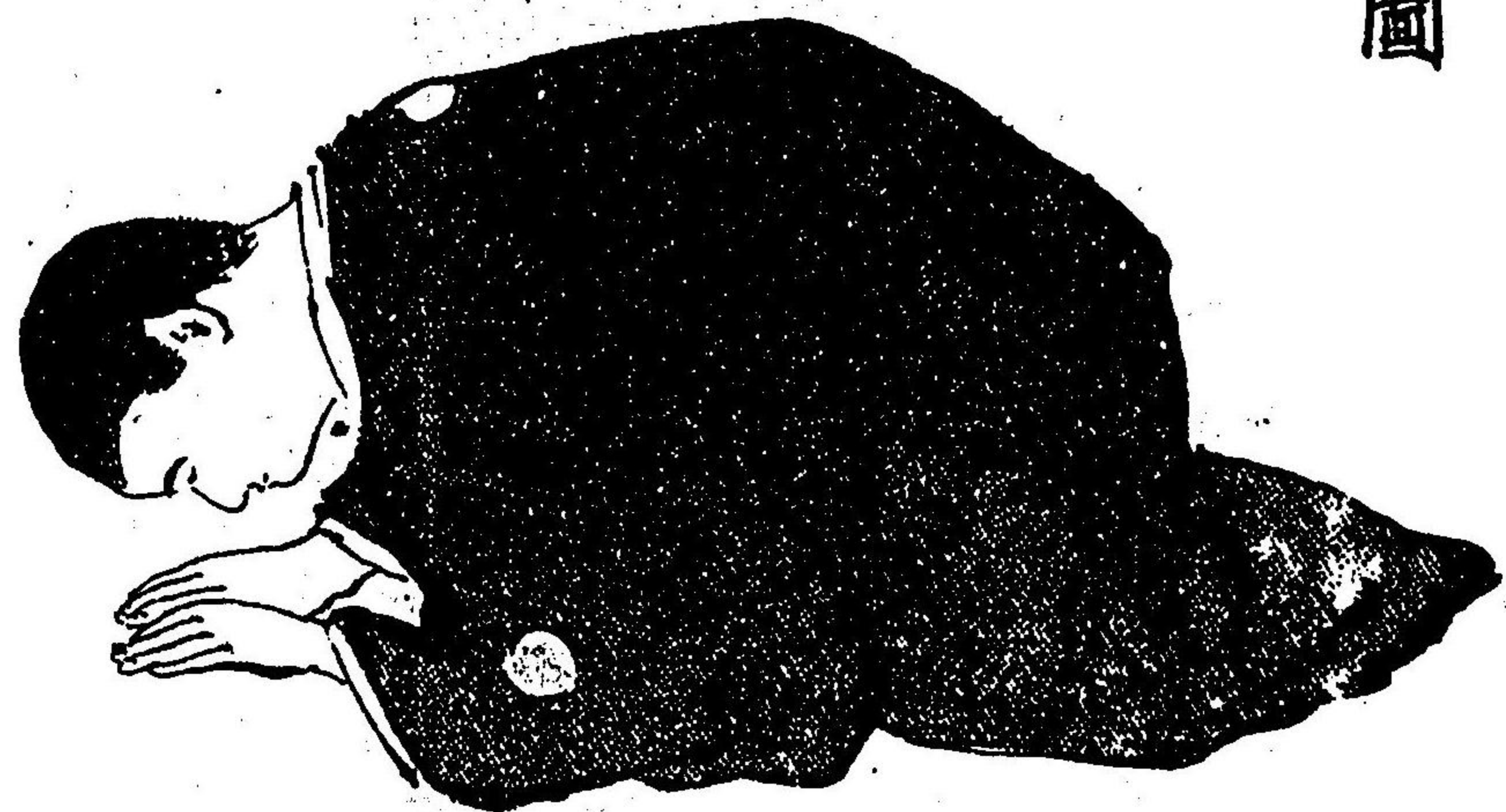


第三圖

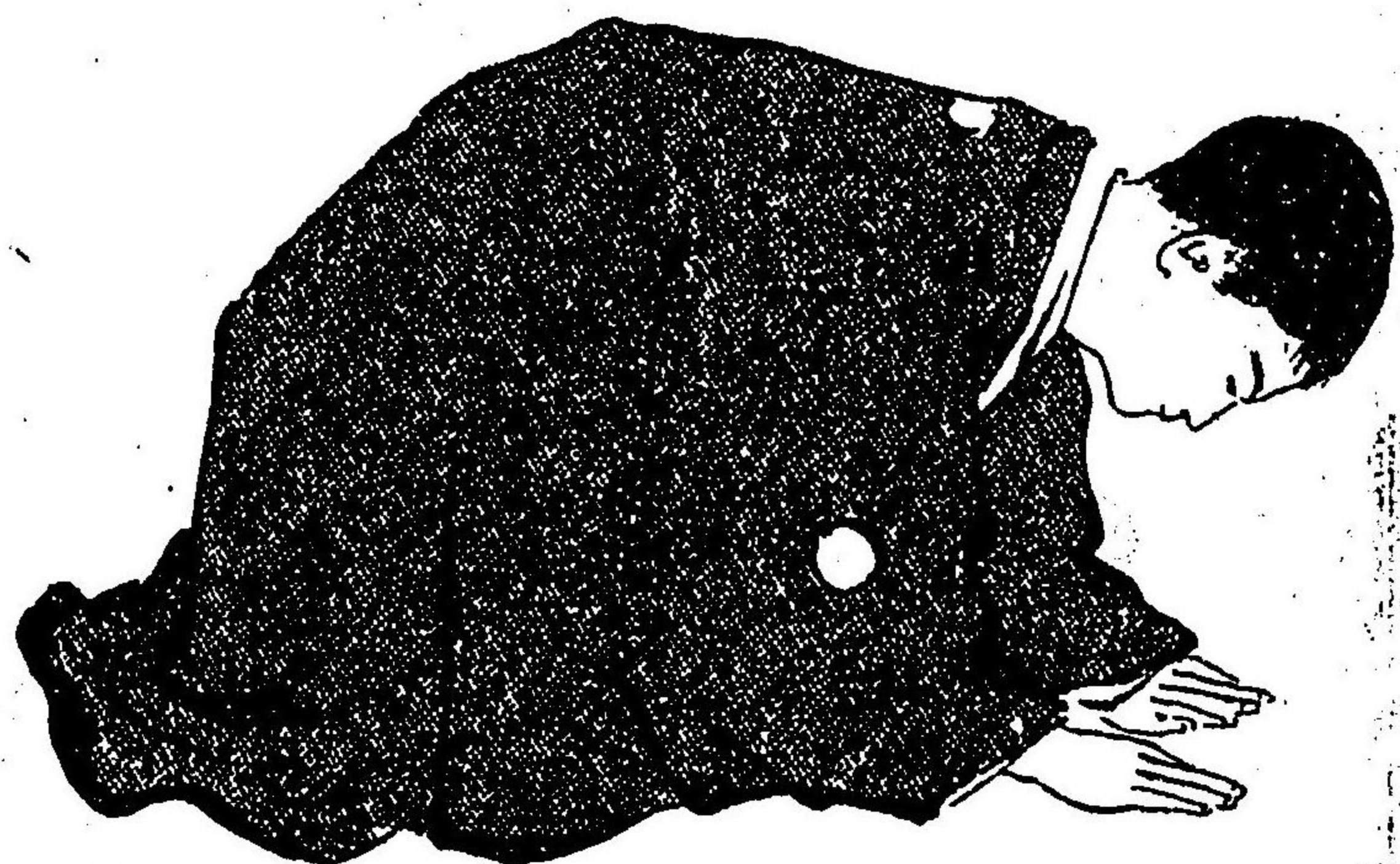


第四圖

(1)



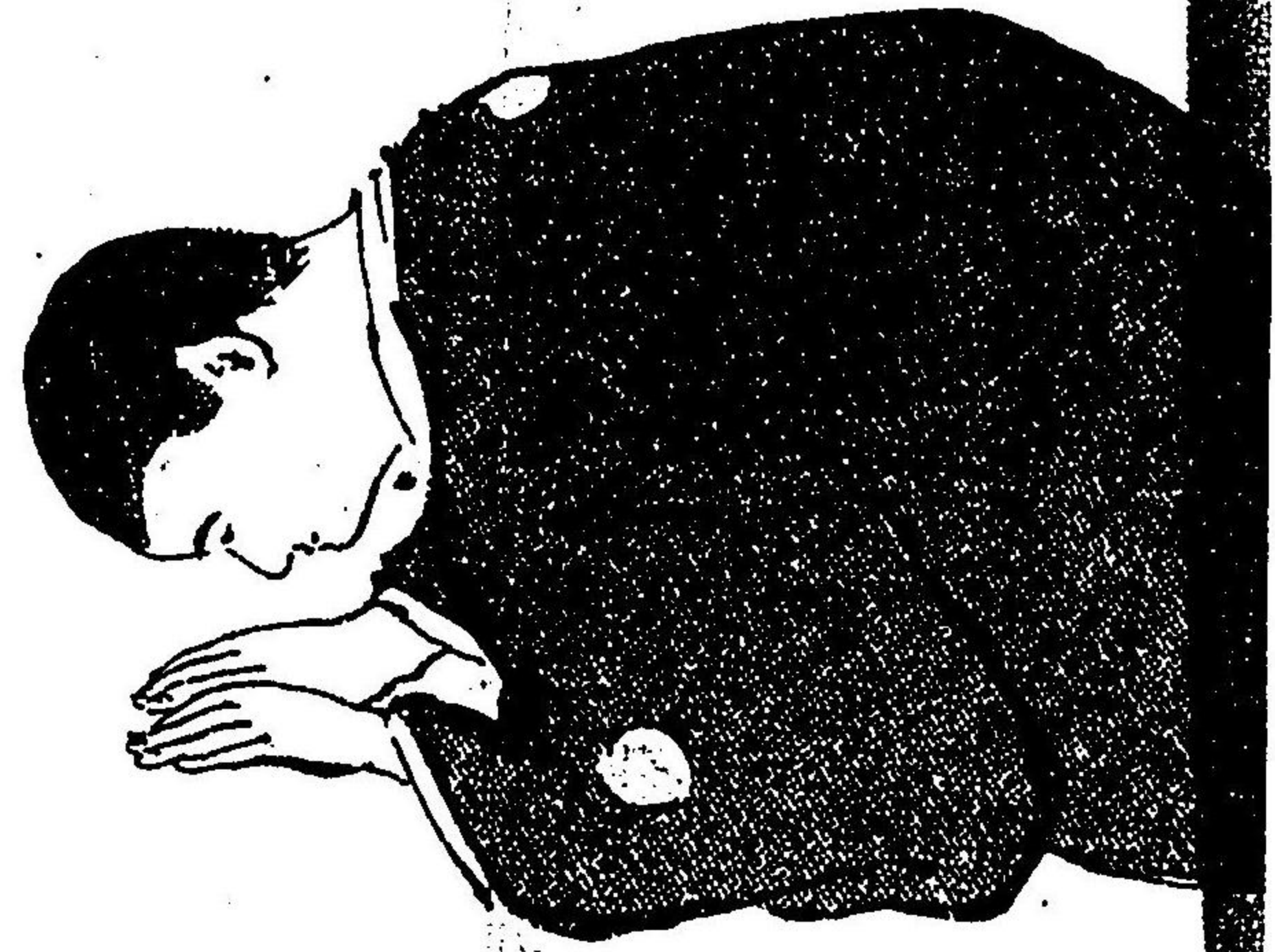
(2)



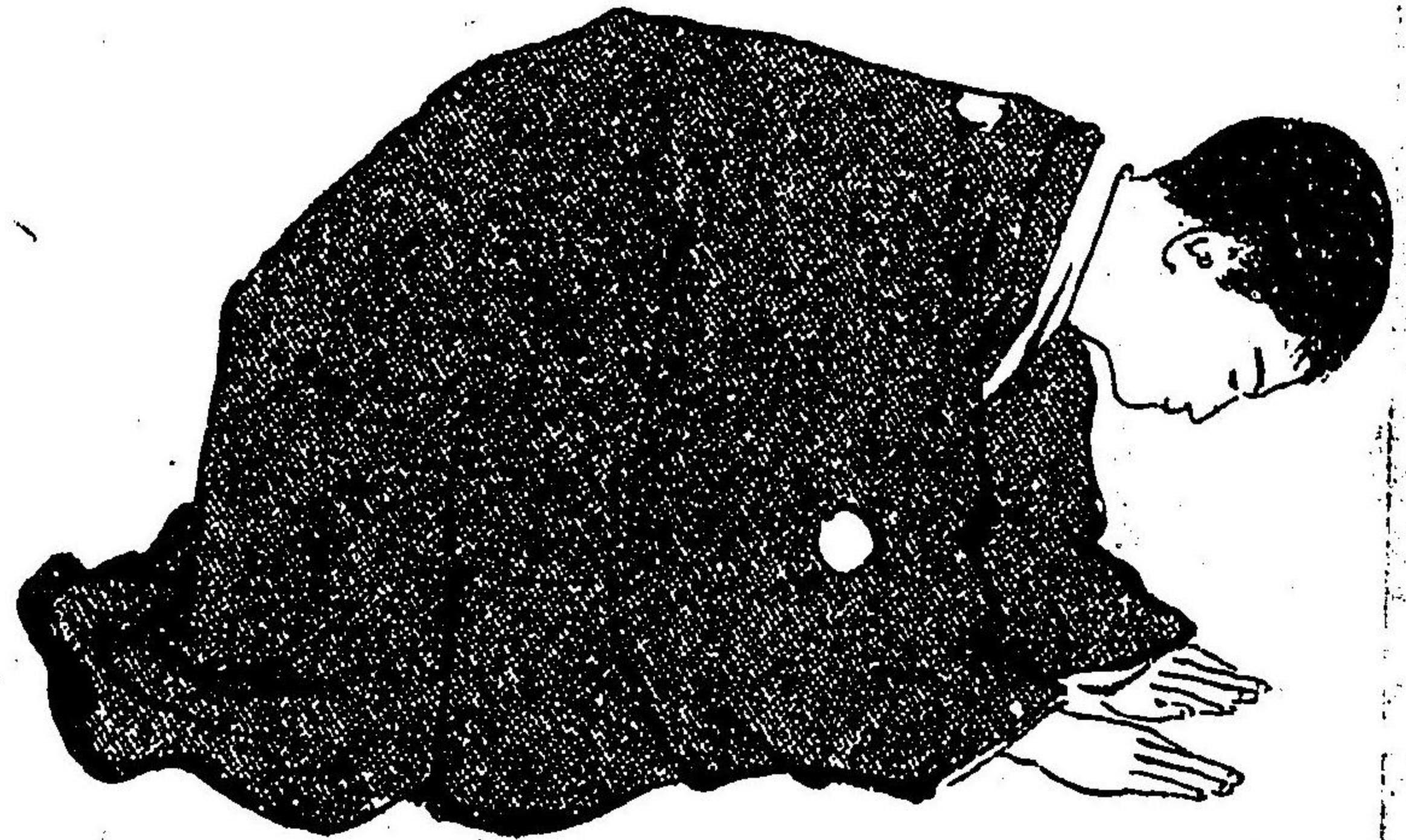
(3)



(1)



(2)



(3)

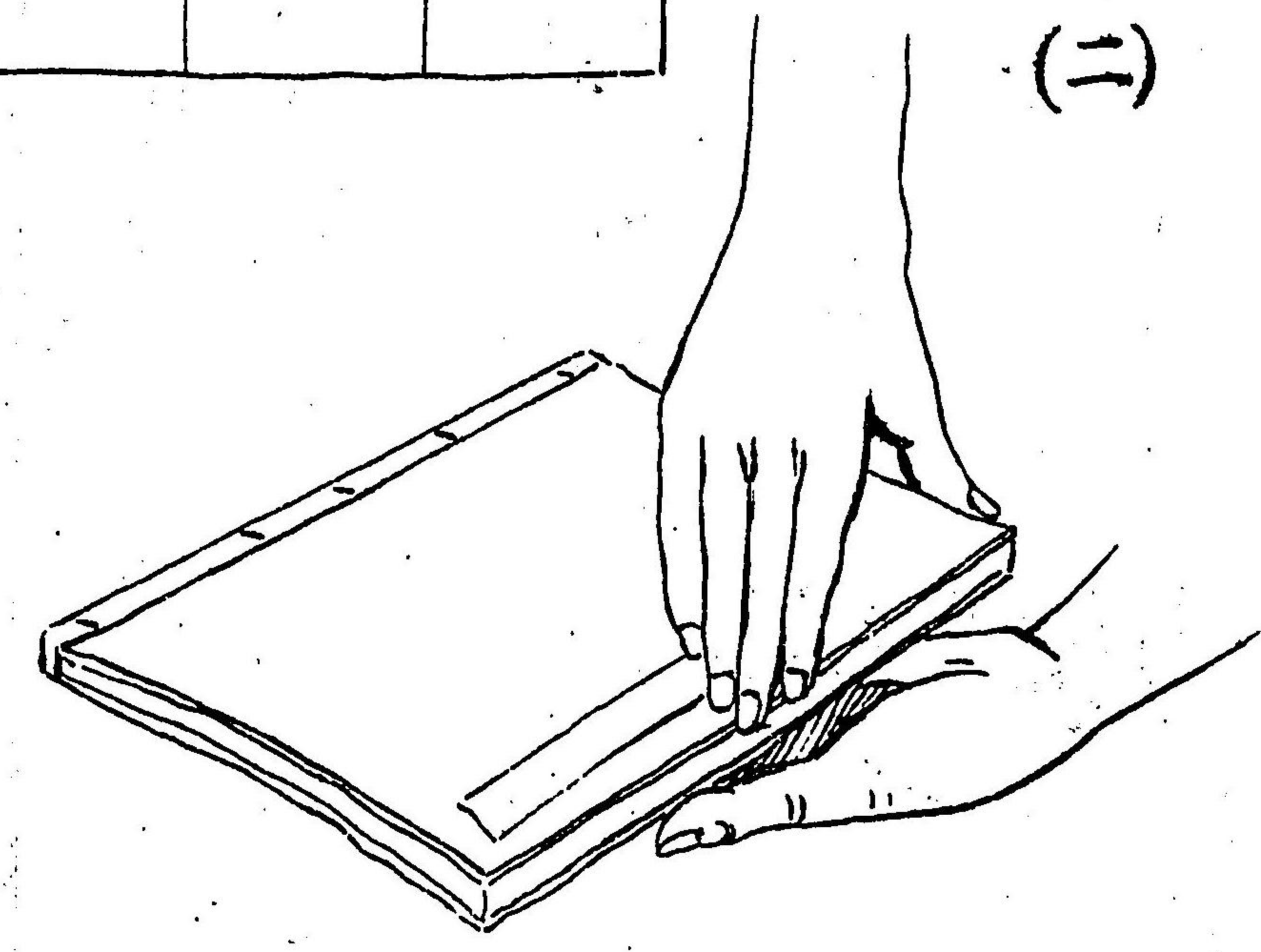
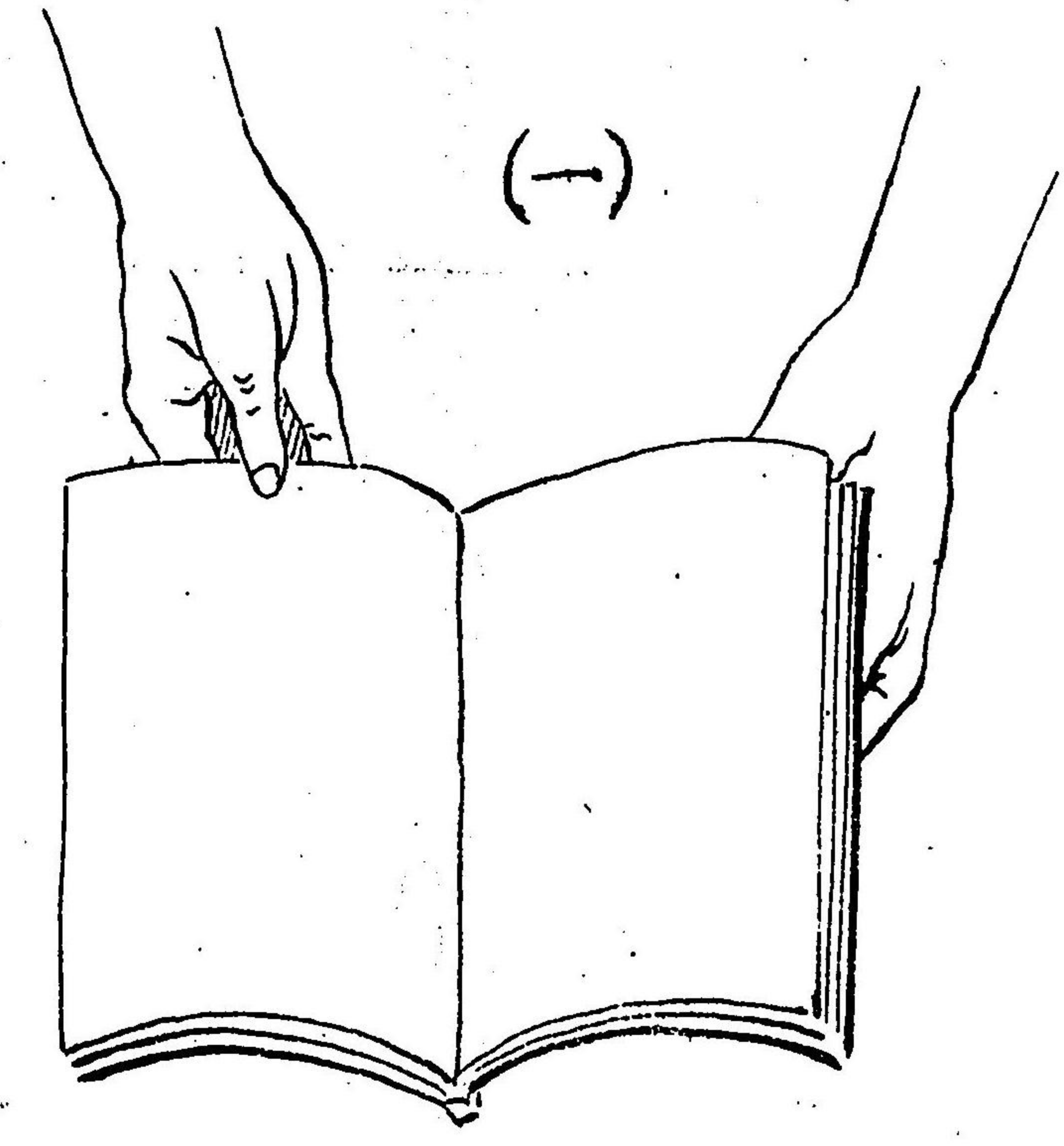
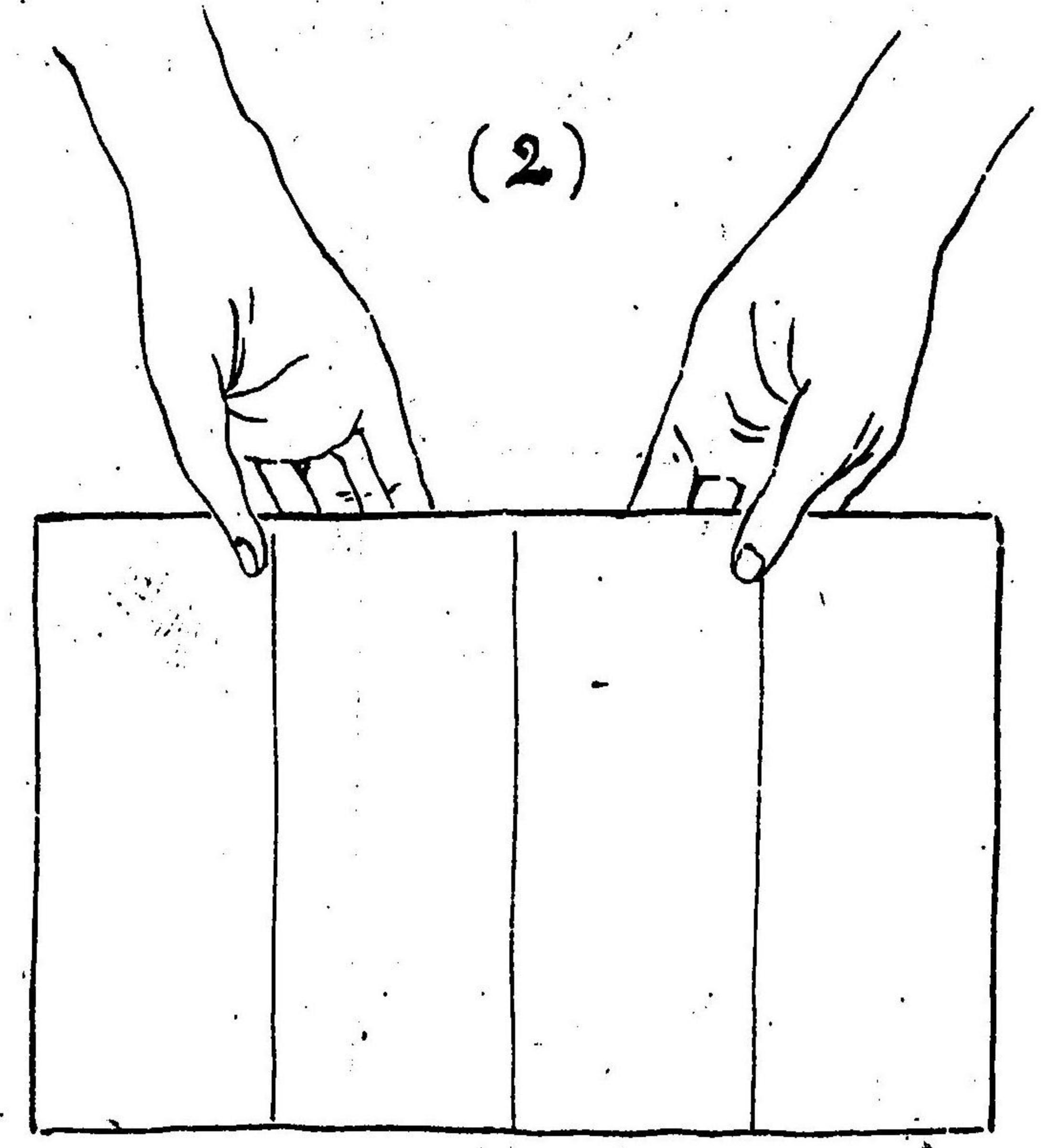
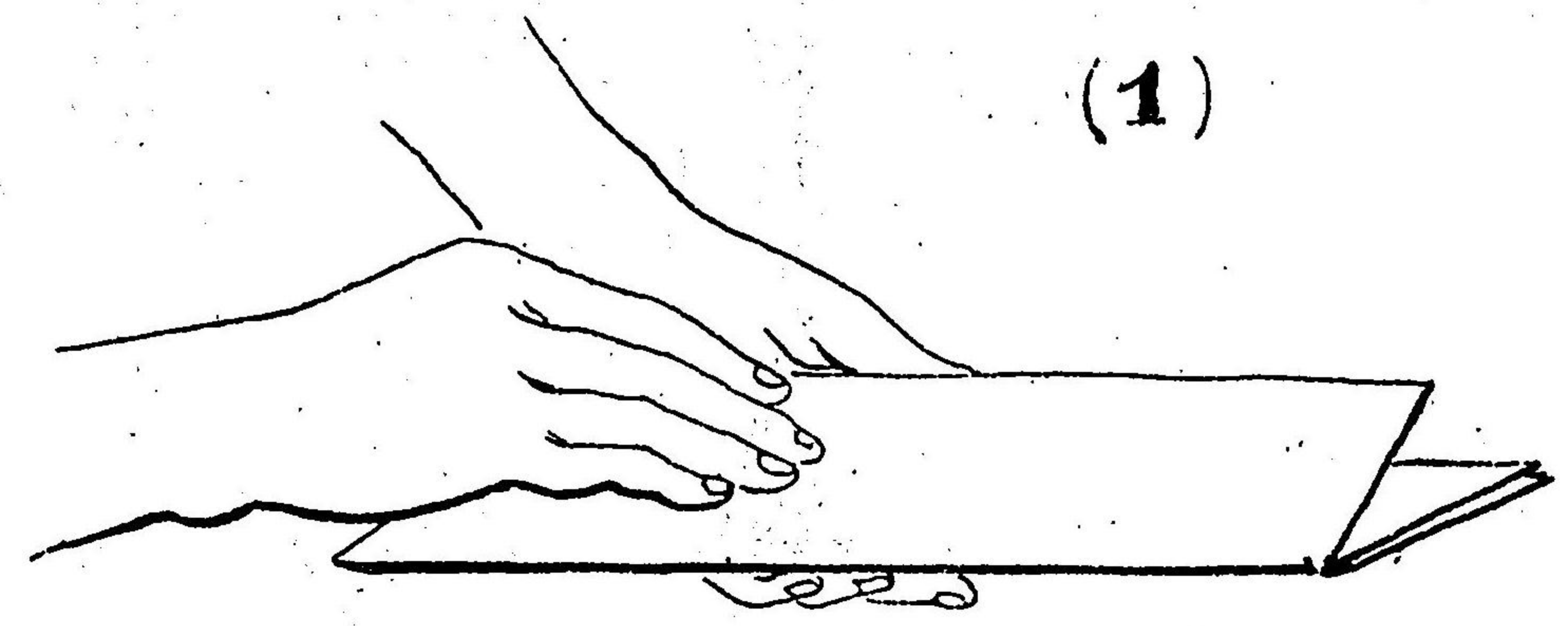


(4)

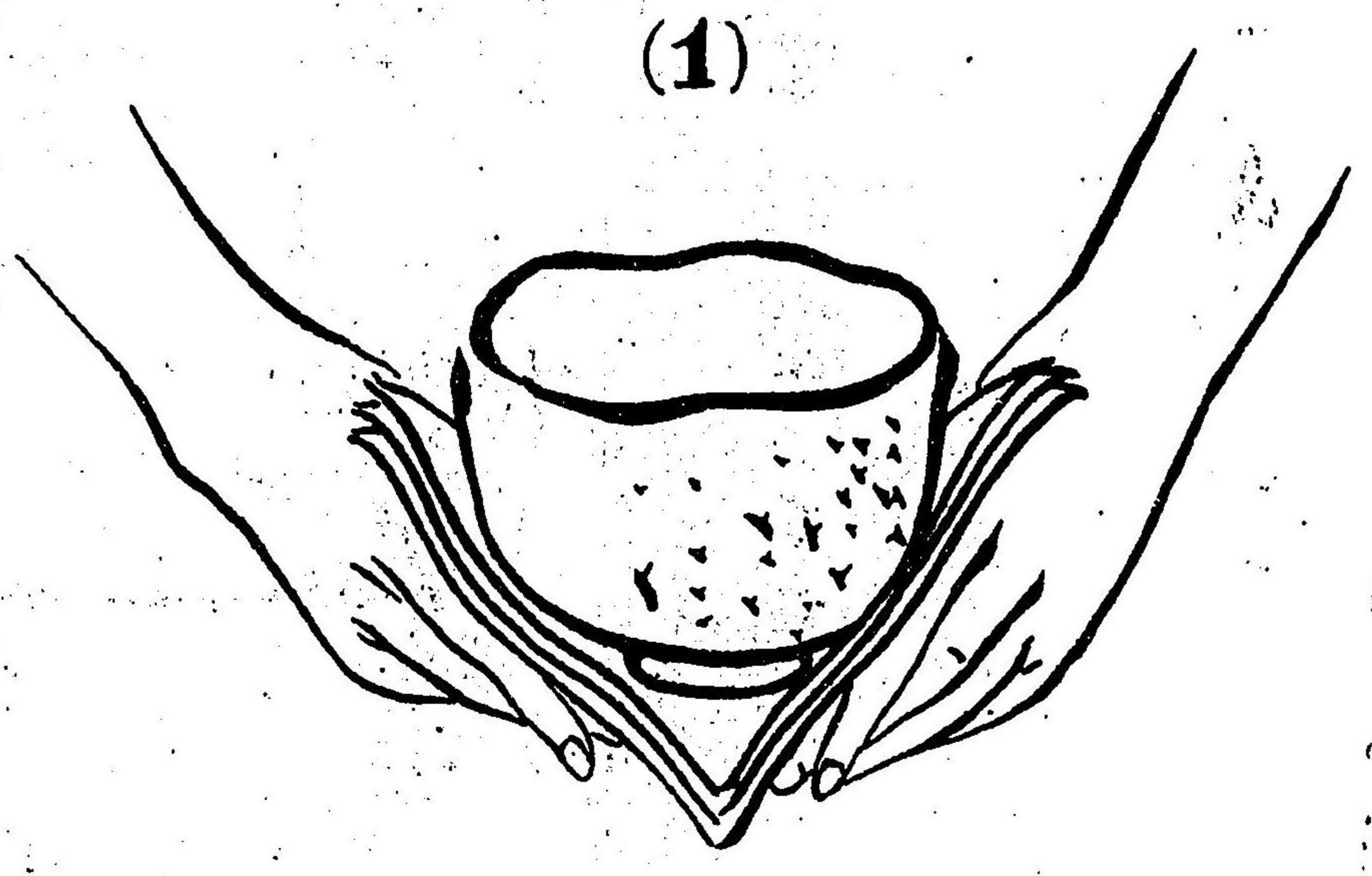




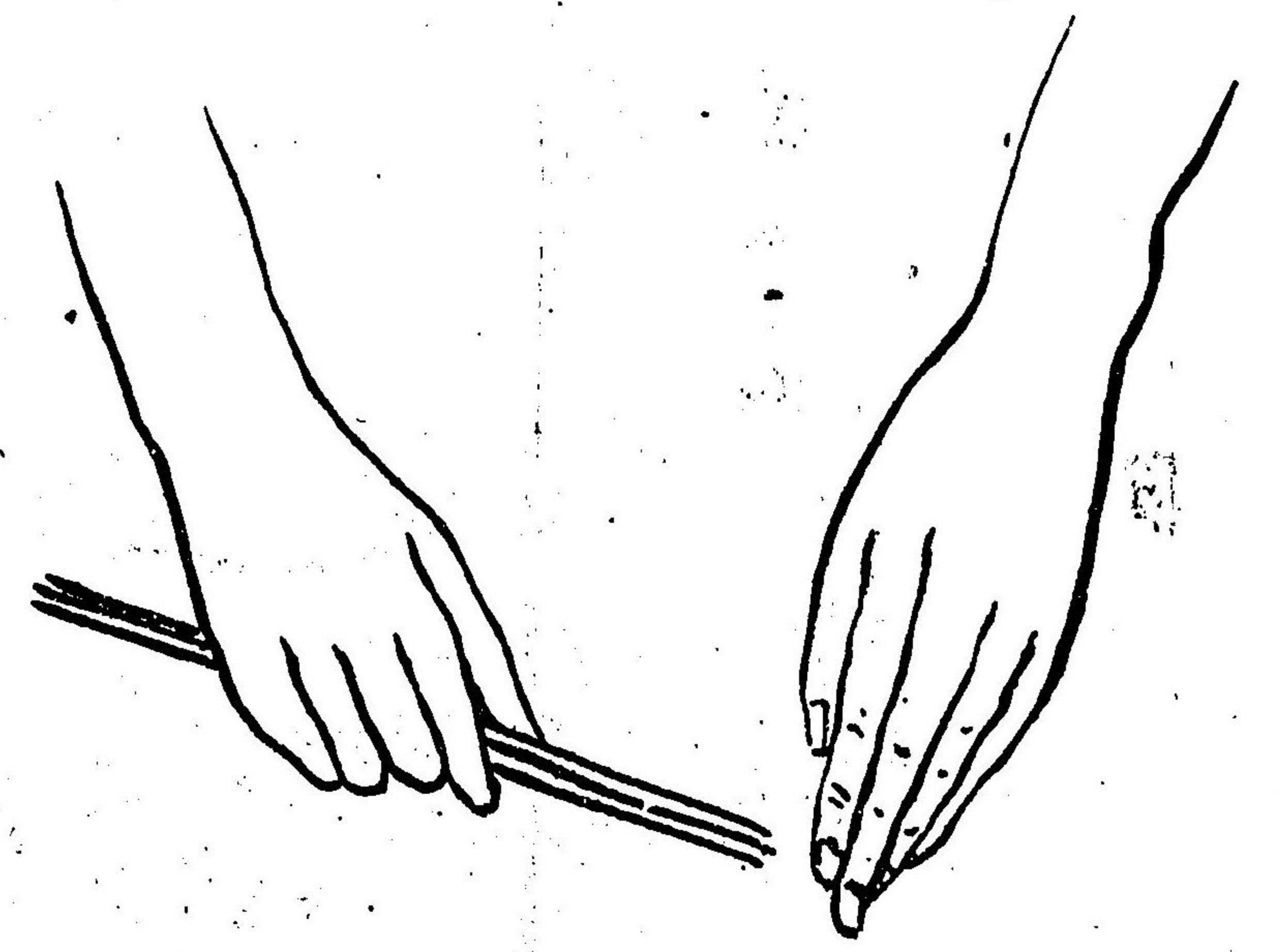
第五圖



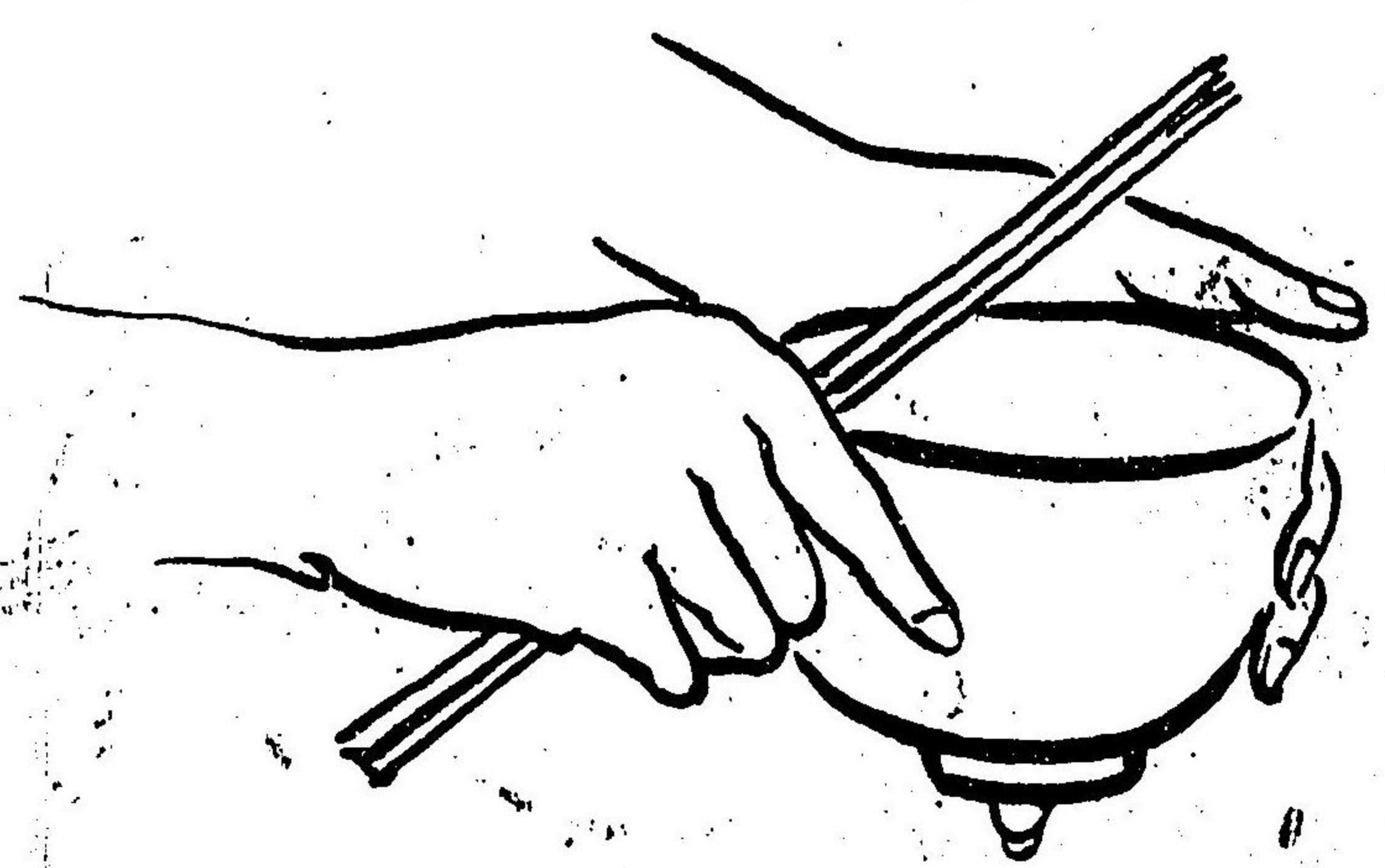
第七圖(甲)



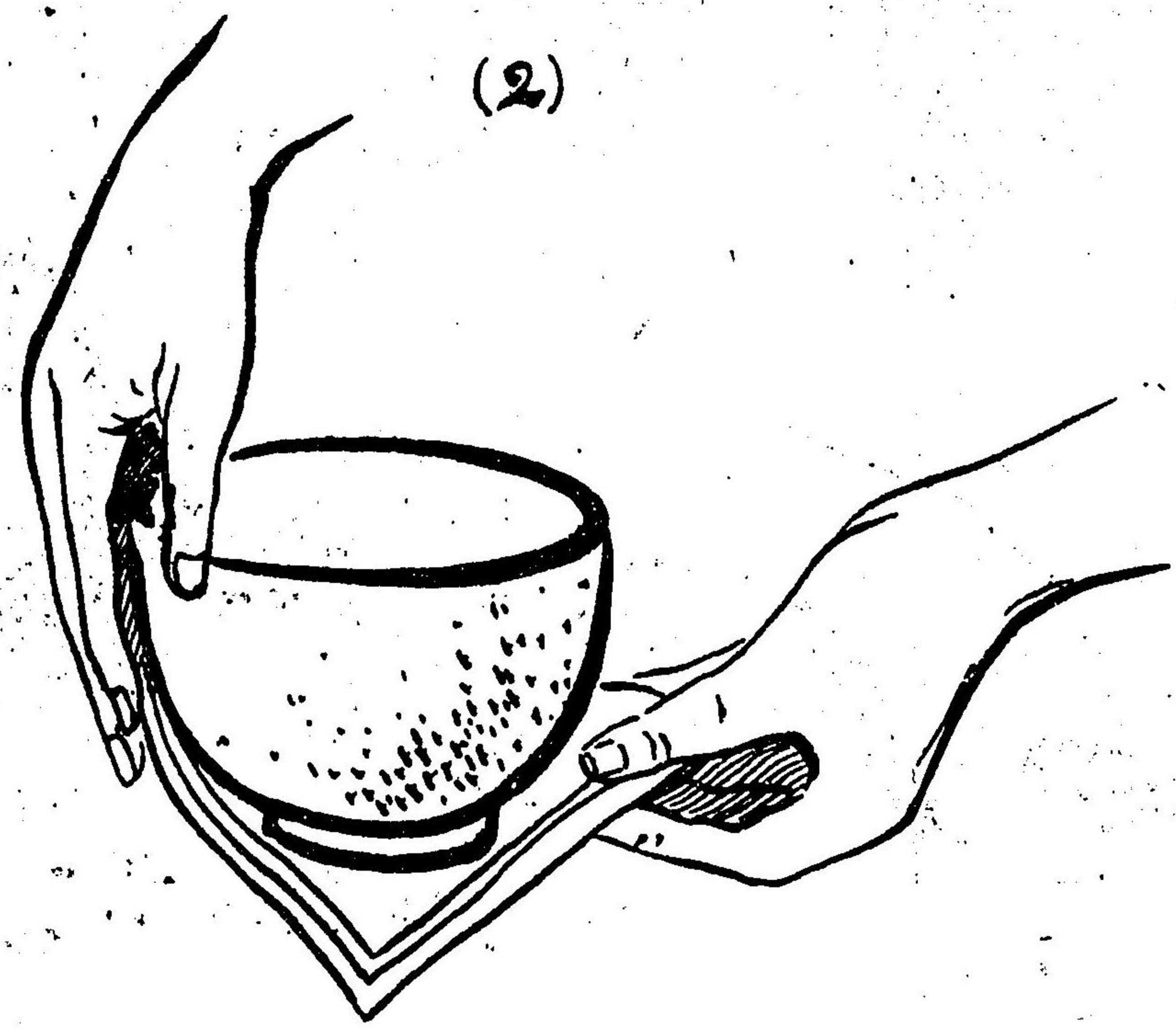
第八圖



第九圖



(2)

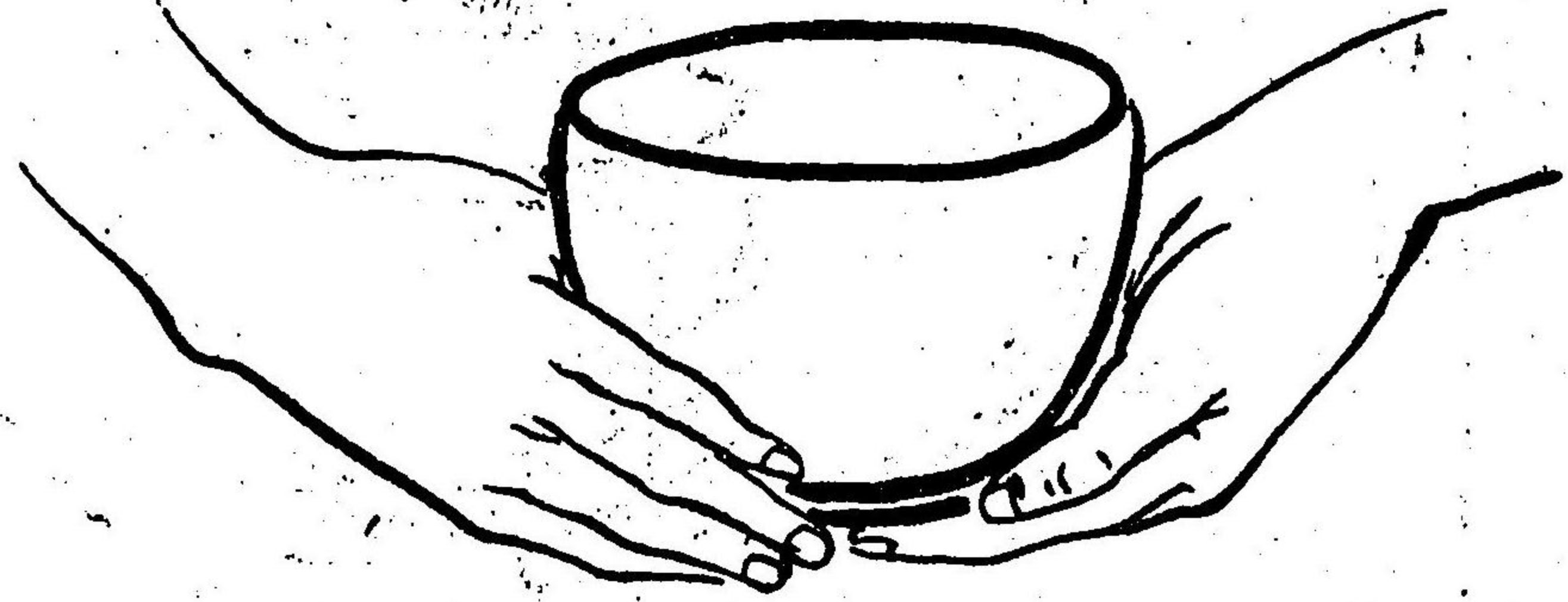


第七圖(乙)

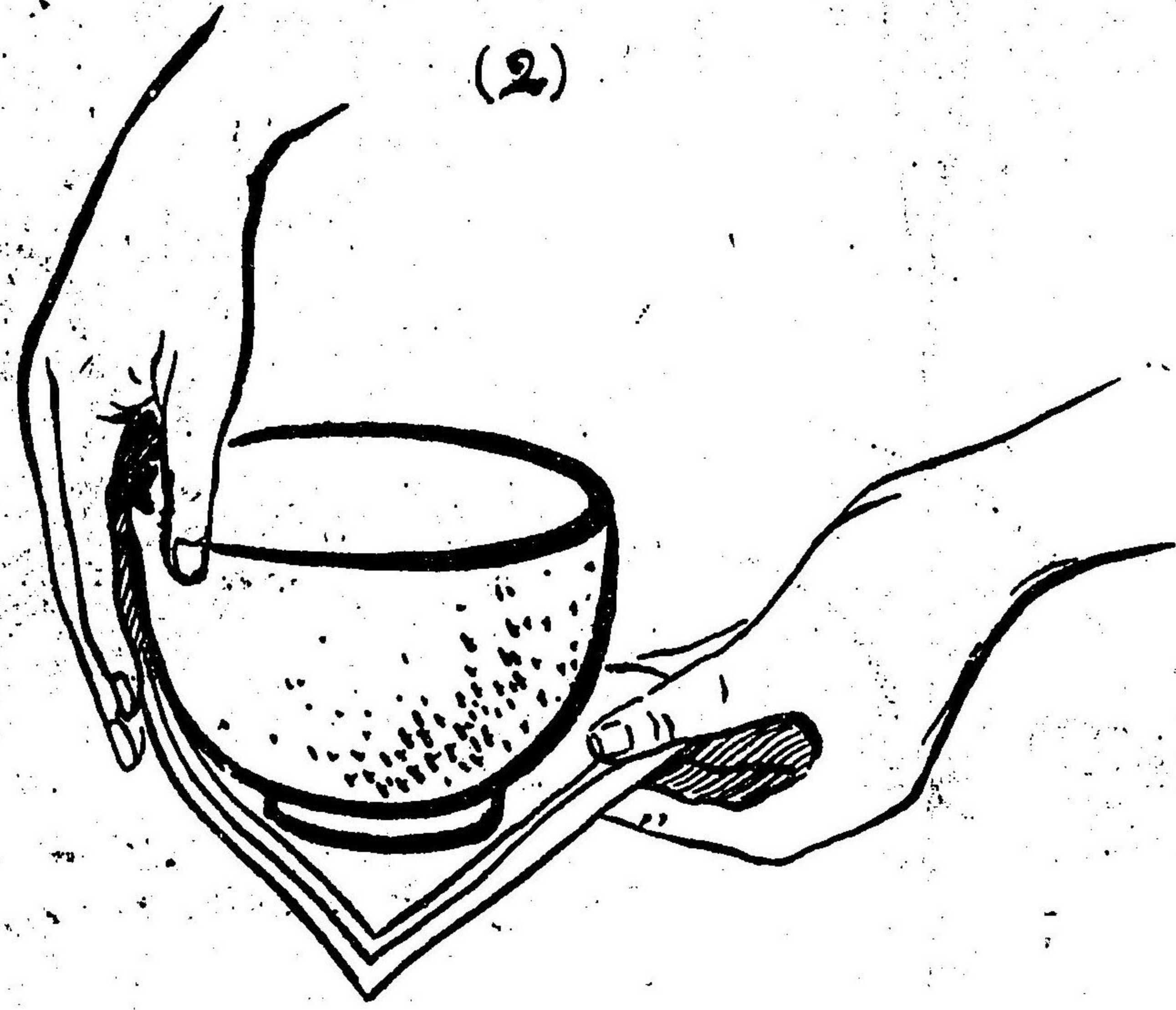


第十圖

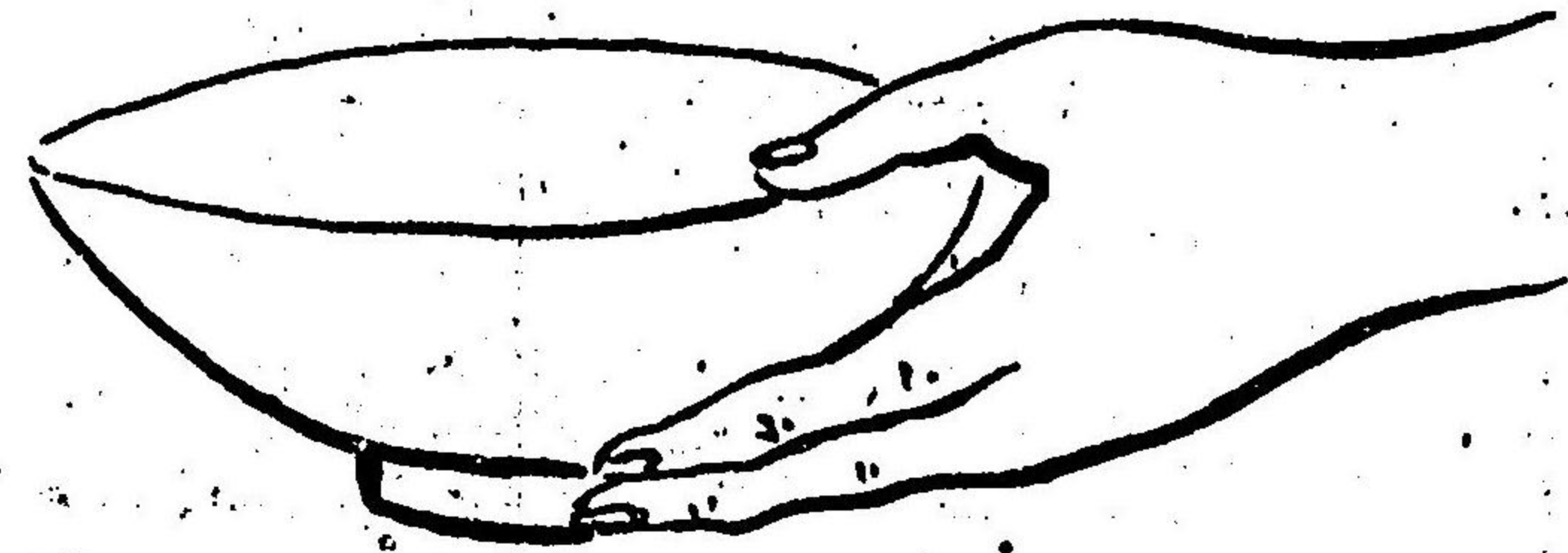




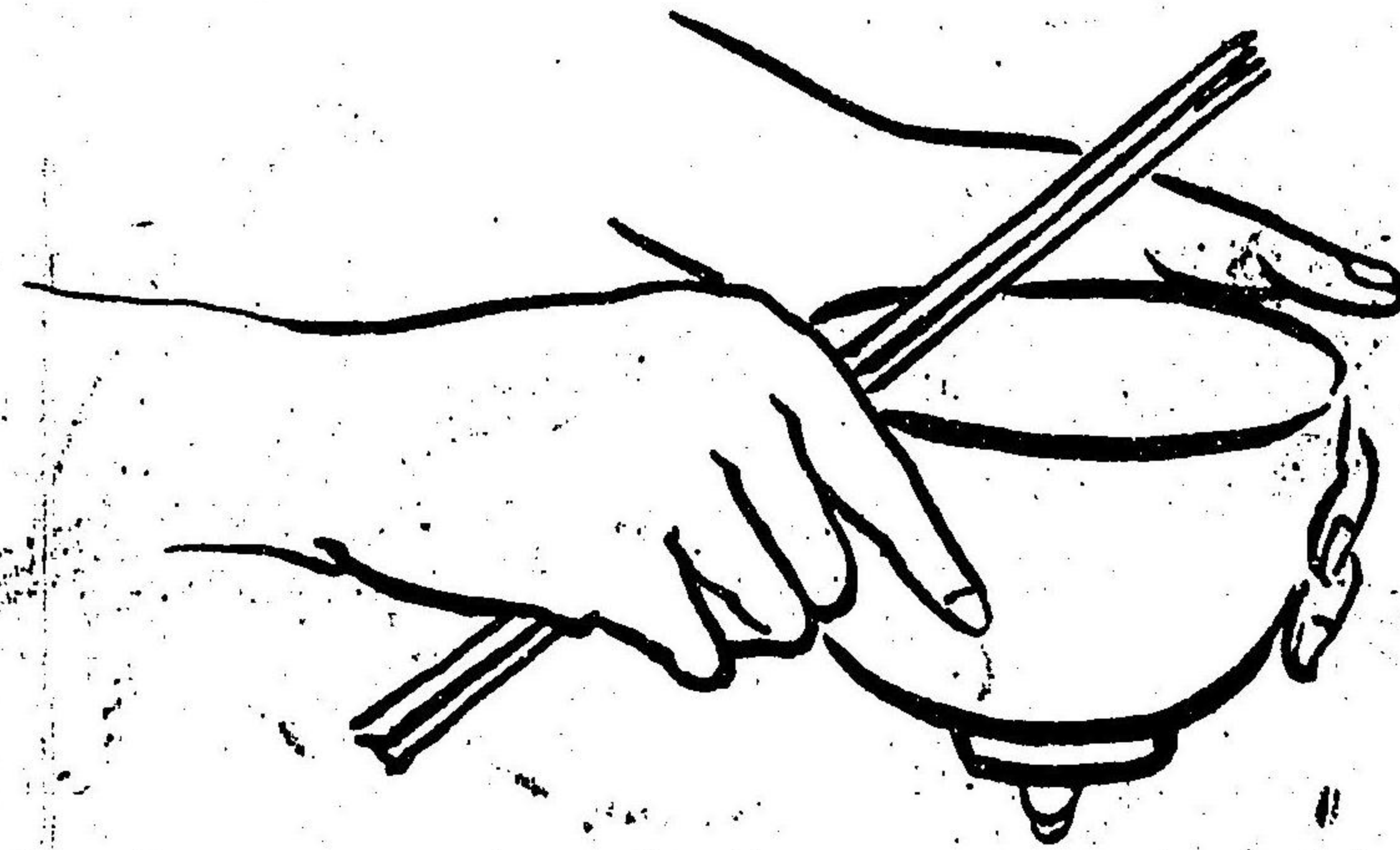
第七圖 (乙)



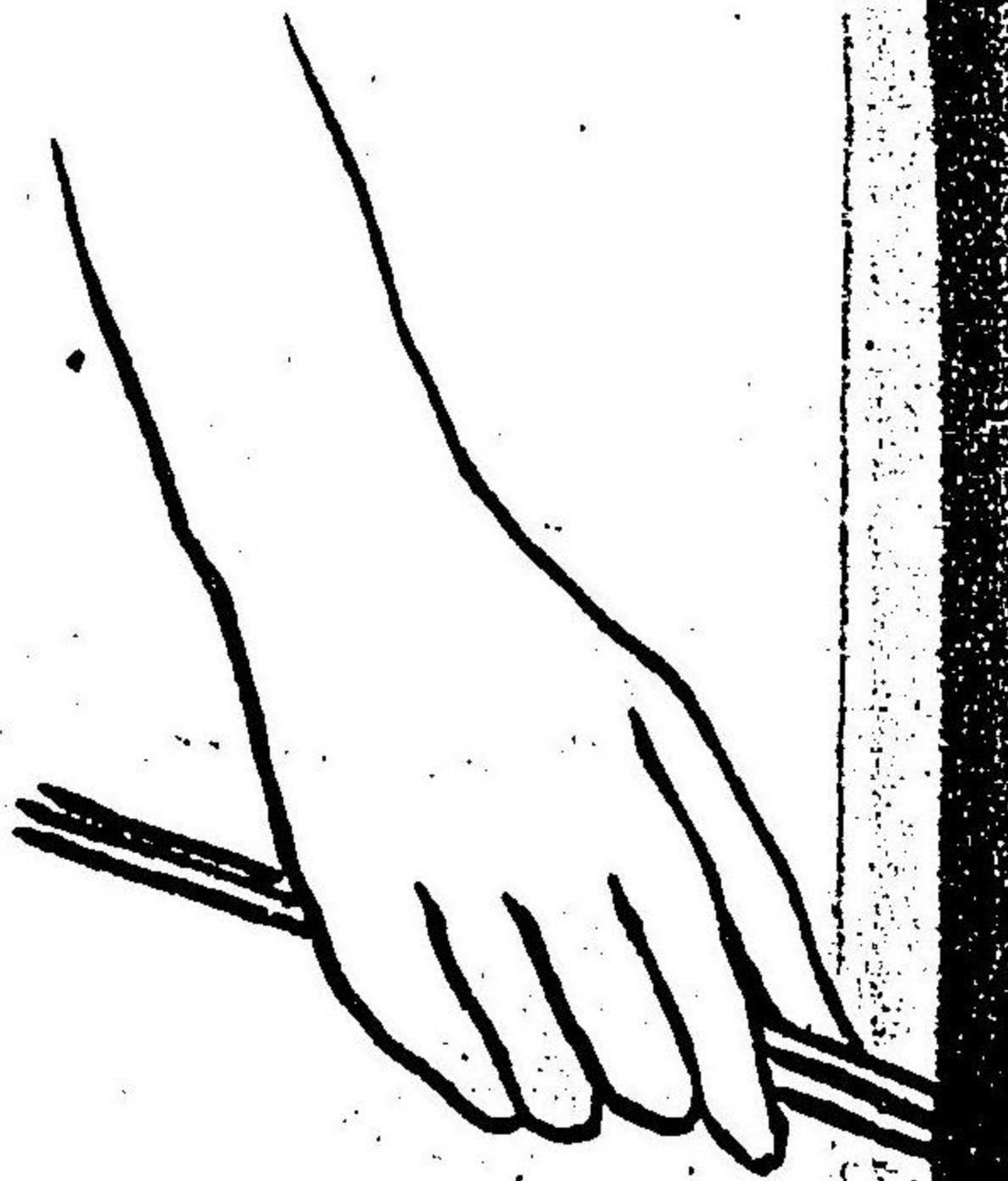
(2)



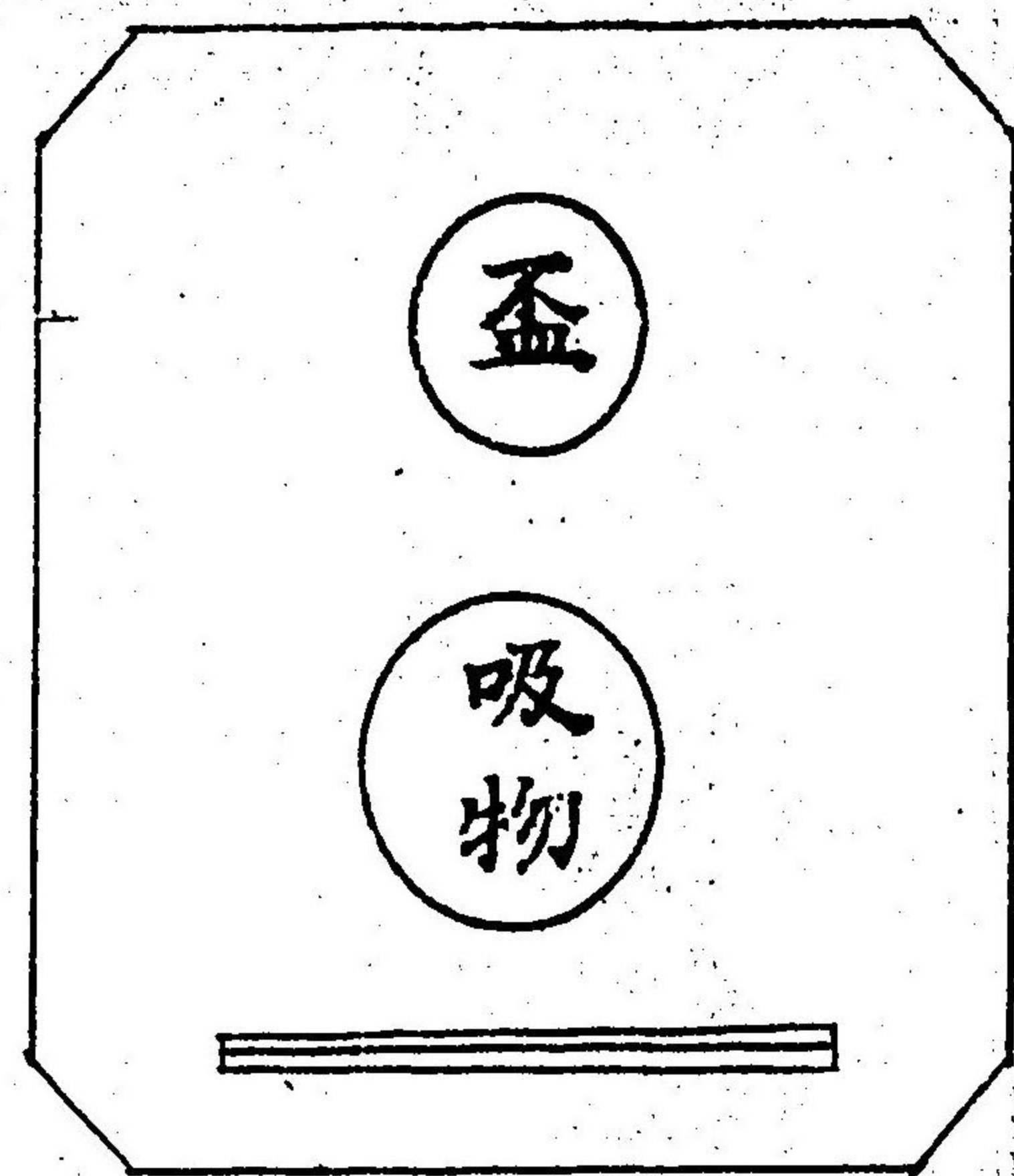
第十圖



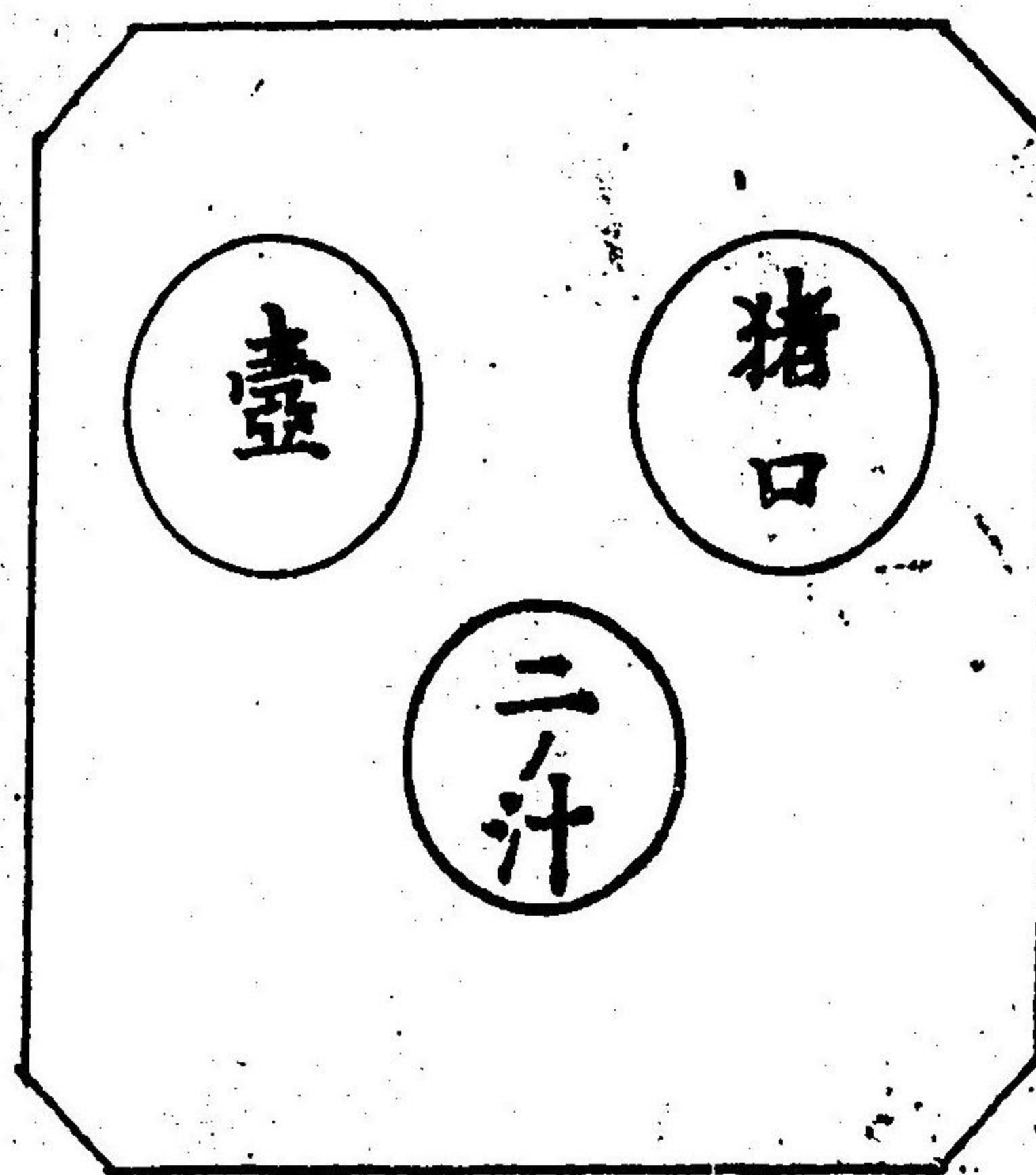
第九圖



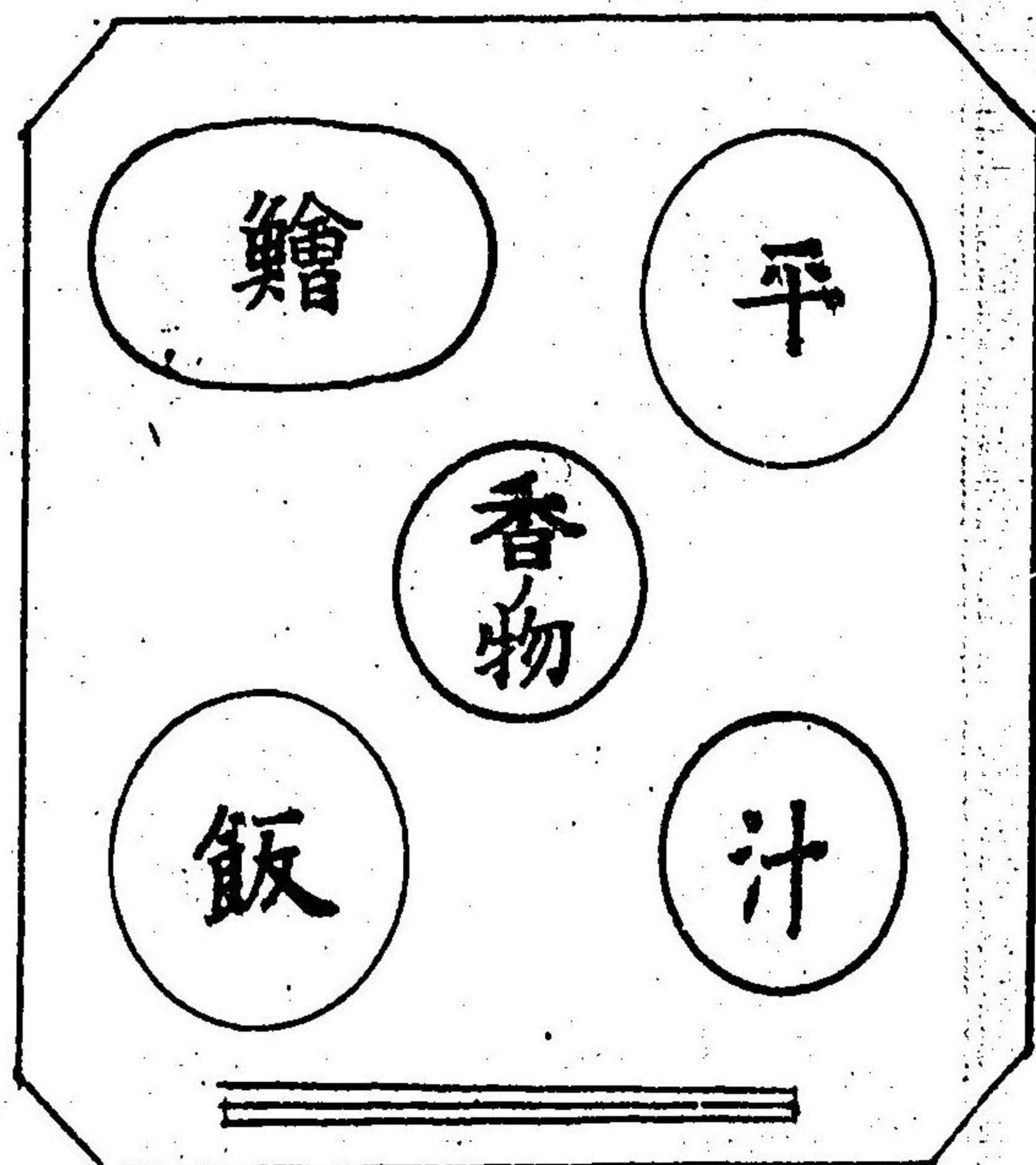
第十一圖



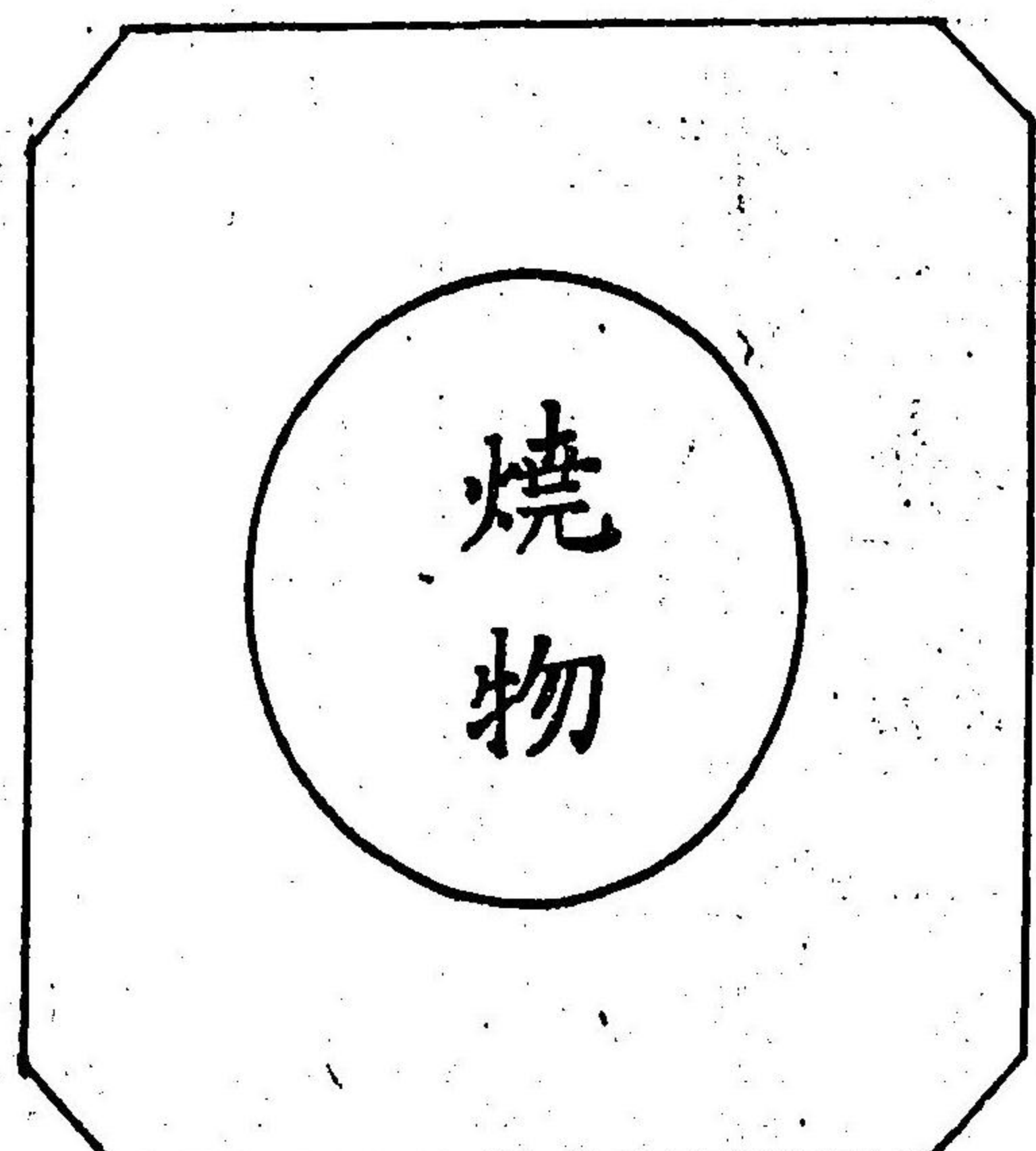
膳物吸



膳ノ二



膳本



膳ノ三

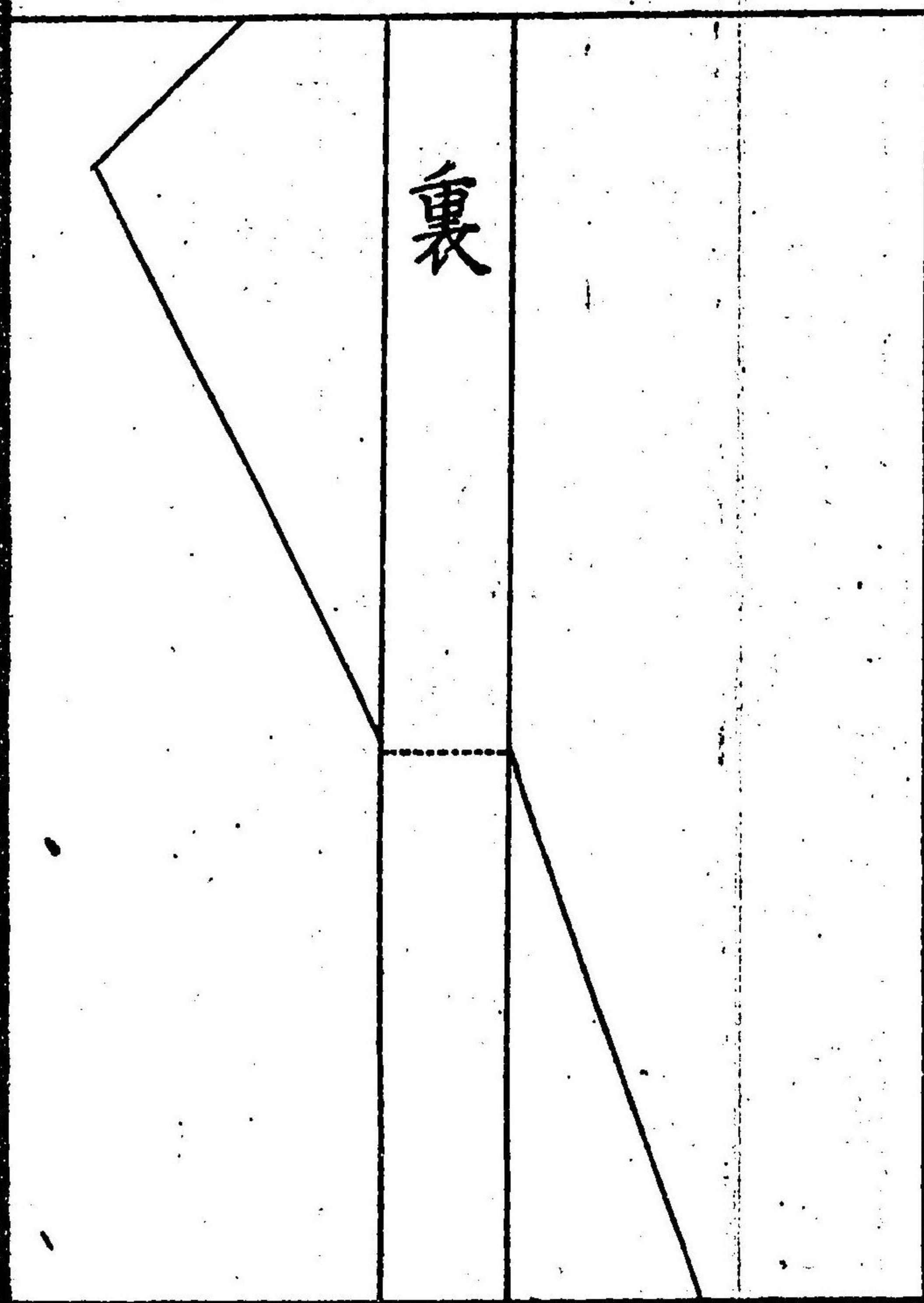
第十二圖

表

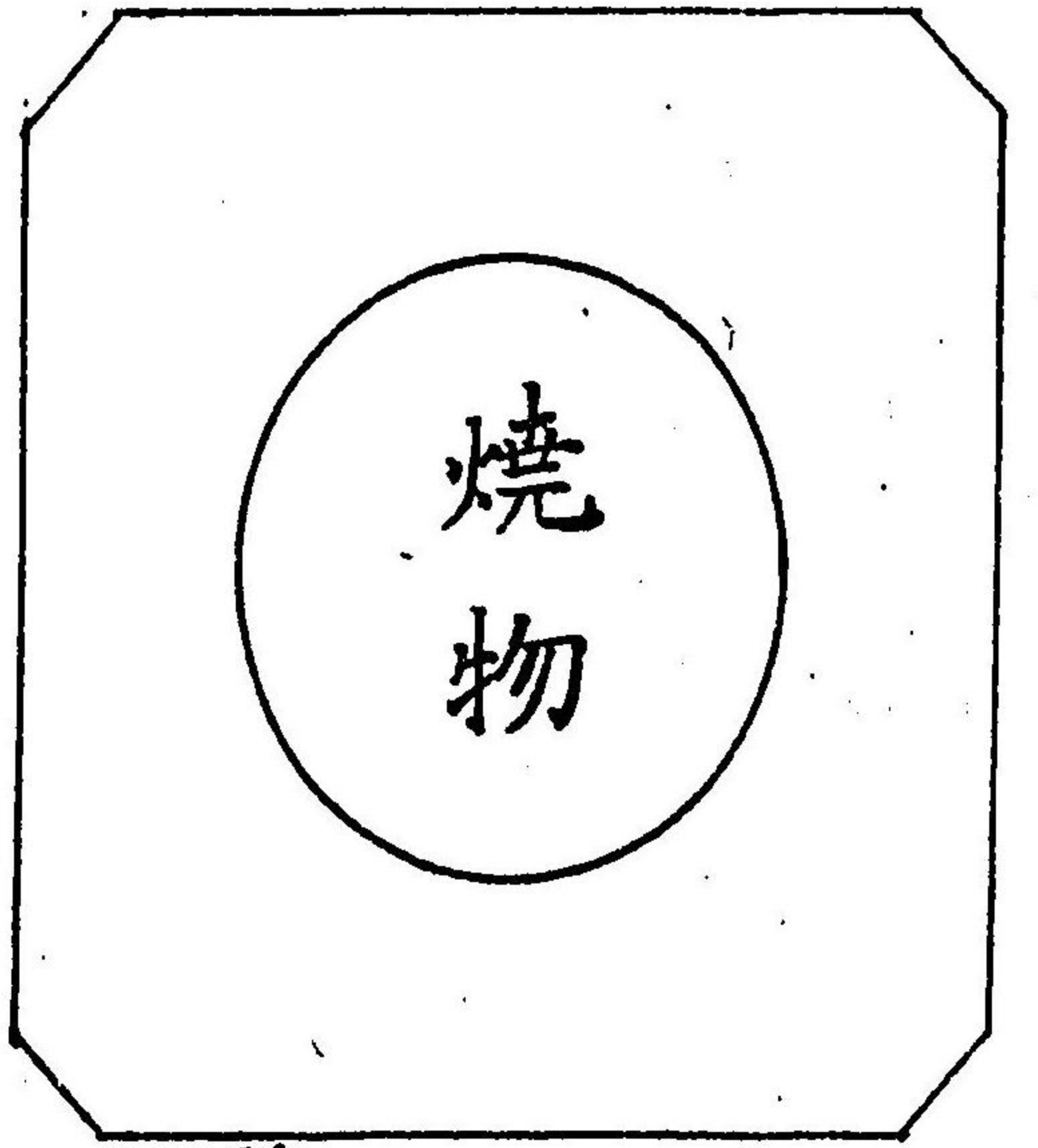
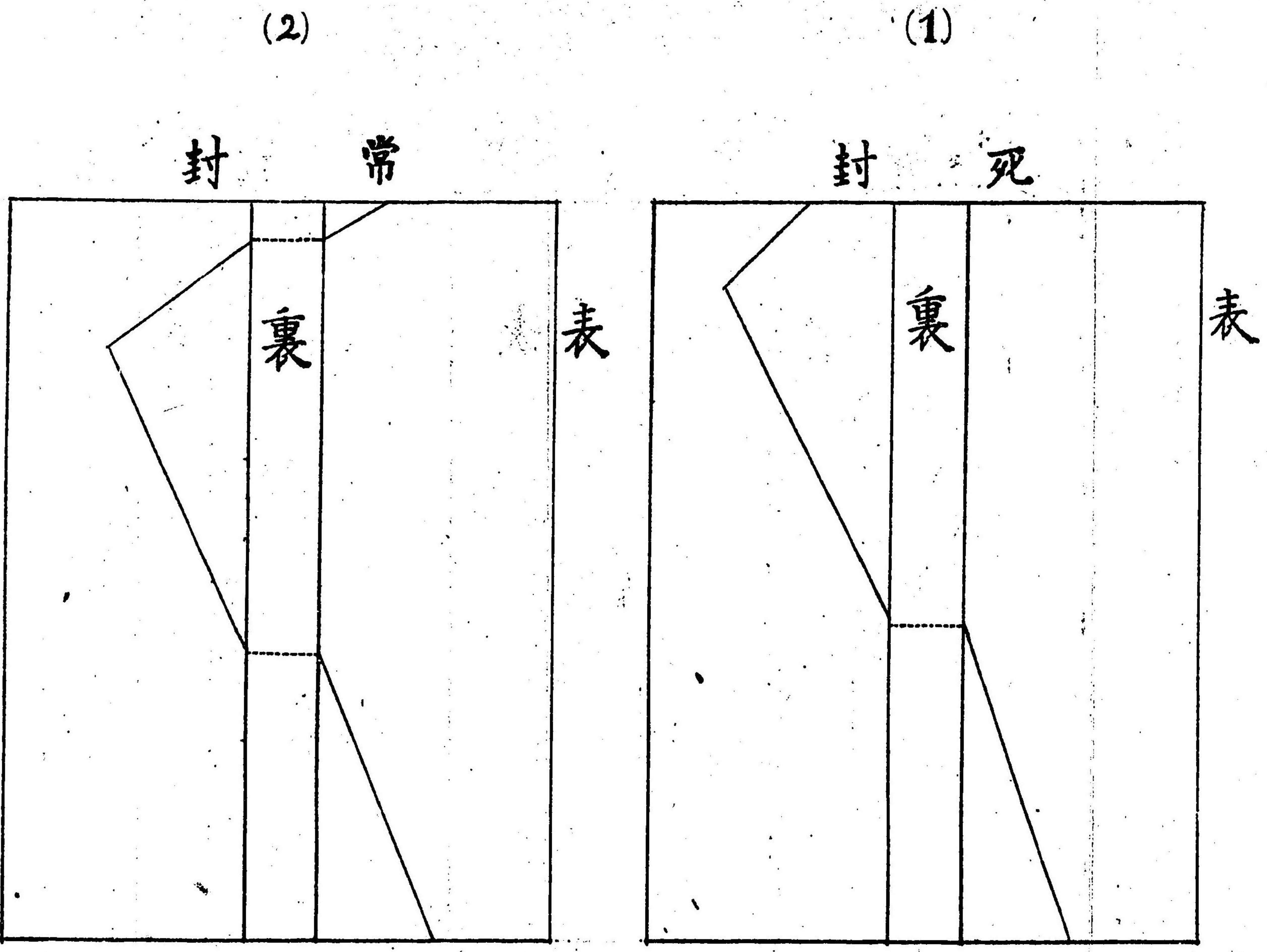
(1)

封 死

裏

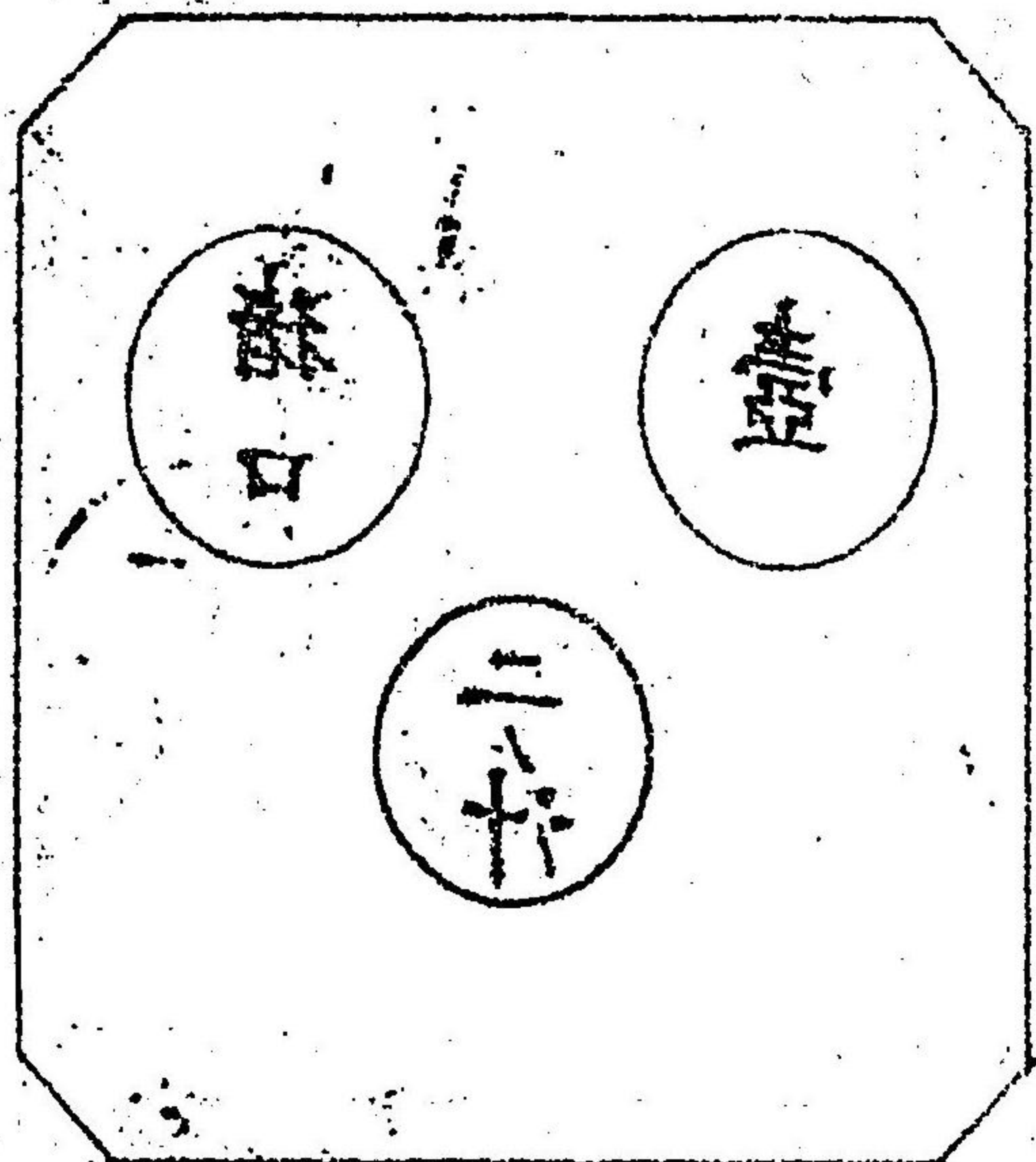


第十二圖



膳ノ三

第十一圖



古禮一斑

坐作進退

- 正坐 一 正坐ハ端正ニシテ威容アルヲ要ス其作法ハ左足ノ拇指ヲ右足ノ拇指上ニ重テ兩膝ヲ掌大ニ開キ腹部ヲ張り臂ヲ過度ニ張ラスシテ兩手ヲ膝ノ上ニ置クヘシ(第一圖)
- 起立 一起立スルニハ兩手ヲ膝ノ上ニ置キ足ノ爪先ヲ立テ下座ノ足ヨリ起ツヘシ
- 着座 一 着座スルニハ上座ノ足ヲ引キテ後正座ノ姿勢ヲ取ルヘシ

退座

一退座スルニハ可成上座若クハ他人ノ方ニ我背後ヲ向ケサル様引キ退キテ立ツ可シ

行進

一室内ヲ行進スルニハ兩手ヲ手掛ニ(禮家ノ術語ニシテ股ノ上部ヲ云フ)置キ腰ヲ据テ一步ヲ一ト息ニ歩ミ敷居ヲ踏ミ物ヲ跨キ若クハ躓ク等ノコトナキニ注意スヘシ

着眼

一正座スルニハ行進スルニモ必ス前面ヲ正視シ眼球ヲ上下左右ニ轉ス可カラス又人ノ書簡ヲ披見シ及飲食スル附近ニ在ル片ハ勉メテ他方ニ着眼ス可シ

建具

一障子、襖ヲ開閉センニハ先ツ跪キ引手ヲ以テ少シク

開キ次ニ下ヨリ三四寸程ノ處ニ手ヲ當テ、全開シ之ヲ閉ツルニハ大部分ヲ閉チタル後引手ヲ以テ密閉ス可シ又屏風ヲ立ツルニハ中央ヨリ二分シテ後チ左右ニ披クモノトス屏風二個以上アル片ハ書ハ畫ヨリ墨色畫ハ彩色畫ヨリ上ニ置クヘク山水一雙ナラハ山ヲ上トシ水ヲ下トス可シ(第二圖)

拜禮

一神前ニ拜スルニハ拍手二回シテ後チ手ヲ合掌シテ下腹ノ前ニ來タスト同時ニ少シク頭ヲ垂レ上體ヲ傾ケテ再

神拜

拜シ神前ヲ退クニハ先ツ一步斜メニ卻キテ後チ背後ニ向ク可シ(第二圖)

玉串

一玉串ヲ神前ニ供スル時ハ兩手ニテ其本ヲ把リテ進ミ右手ニテ旋ラシ其本ヲ神前ニ向テ兩手ヲ以テ臺上ニ供シ

然ル後チ神拜スヘシ

一坐禮ヲ分チ三等トス合手禮、雙手禮、指建禮是ナリ各々

上輩、等輩、下輩ニ對スルニ從テ異リ而シテ總テ三息

ヲ以テ之ヲ行フモノトス(第四圖)

別ニ又拓手禮ナルモノアリ位置著ク高キ人ト對話ス

坐禮ノ種類

賓客

ル片等ニ用フルモノトス

一賓主ノ應接ハ其身分ニ應シテ差アルハ勿論ナレ凡筆輩

以上ノ宅ニ行キタル片ハ我カ爲メニ設ケラレタル席若

クハ相當ト思惟スル位置ノ稍下方ニ坐シテ禮スヘシ而

シテ相當ノ席ニ着スルヲ勸メラレタル片ハ強テ辭讓ス

可ラス又總テ着座スルニハ建具ノ閉開或ハ通行ヲ妨ケ

サル様ニ注意スヘシ

主人

一客アル片ハ主人ハ上輩ニ對シテハ玄關マテ等輩ニ對シ

テハ次ノ間マテ出迎ヘ自ラ案内シテ之ヲ客室ノ上席ニ



就カシメ主人ハ下座ニ在テ禮スヘシ還ル時ハ上輩等輩  
共ニ主人先キニ進ミテ玄關マテ送り下座ノ方ヘ斜メニ  
跪キ客等輩ナレハ亦主人ニ對シテ跪キ互ニ一禮シテ  
別ヲ告クルモノトス

一人ノ前後ヲ通過スル時上輩ナレハ跪キテ指建禮ヲ行ヒ  
等輩ナレハ兩手ヲ膝頭マテ下ケ一禮シテ過クルモノト  
ス

一人ト行逢フ片ハ互ニ左ノ方ヘ斜メニ避ケ其方ニ向テ禮  
ス可シ

前後  
通過

行逢

同伴

一尊長ト同伴スル時夜間、雪路若シクハ端艇ニ乗ル時等  
ノ如キハ先行スヘシ其他總テ不慮ノ患ナカラシムル様  
注意ス可シ

物品授受

一辭令書及書翰ヲ授クルニハ何レモ字頭ヲ我方ニ爲シ  
右手ニテ上方ヲ持チ左手ヲ添ヘテ之ヲ渡ス可シ又之  
ヲ受クルニハ左ノ掌ニ受ケ右ノ手ヲ添ヘ辭令書ハ右  
下則チ我カ姓名ノ方ヲ少ク低下シテ折目ノ處ヲ兩手ノ  
指ニテ保持ス可シ又書翰ハ右手ニテ其下端ヲ持チ先ツ

辭令  
書翰

書物

表書ヲ見次ニ裏及封ヲ見若シ上官ニ代テ受領スル等  
ノ場合ニ於テハ某殿ヨリ某殿宛ノ書翰正ニ受領スル  
旨ヲ陳述ス可シ(第五圖)

硯

一 書冊卷物等ハ標題ヲ我カ見ル如クニシテ兩手ニテ持チ  
出テ跪キテ一旦之ヲ前ニ置キ更ニ字頭ヲ我カ方ニ爲シ  
兩手ニテ進ムルモノトス  
一 硯箱ハ其ノ向キヲ我カ方ニナシ其上ニ料紙ヲ載セ兩手  
ニテ持チ出テ前ニ置キ料紙ヲ載セタル儘蓋ヲ取リテ右  
ノ脇ニ置キ墨ヲ磨リ筆ヲ墨汁ニ浸シ而シテ後チ硯箱ノ

收撤

方向ヲ轉シテ進メ次ニ料紙モ硯箱ノ蓋ニ載セタル儘方  
向ヲ轉シテ進ムルモノトス

又物

一 右等ノ物品ヲ撤スルニハ總テ之ヲ進ムル時ト其順序ヲ  
反對ニスルモノトス  
一 小刀ノ類ハ總テ刃部ヲ上ニシテ尖頭ヲ我カ方ニ向ケ右  
手ニテ其柄ヲ待チ受領者等輩以上ナル片ハ我カ持チタ  
ル指ヨリ上ノ方ヲ執ラシムル様ニス可シ扇子モ亦之ニ  
準ス

賀儀葬祭

古禮一斑

注意

一 吉凶相問ハ禮ノ大ナルモノナレハ衣服言行共ニ注意ス  
可キモノトス

一 祝賀殊ニ出陣等ニ在テハ打鮑勝チ栗昆布ヲ以テ酒肴ト

ス総テ祝賀ニ在テハ凶兆トナルヘキ言行ヲ慎ムヘキ

モノトス

吊問

一 喪家ヲ吊スルハ喪事ヲ助クルニアラサレハ玄關ニ於

テ申置ヘシ主人モ面會スルヲ失禮トス而シテ吊問及ヒ

會葬ノ歸路他家ヲ訪フハ其家ニ對シ非禮ノモノトス

會葬

一 葬儀ニ會スルハ悲哀ノ情ヲ表スルヲ要ス其式神葬ナ

ルハ神前ニ進ミ先ツ玉串ヲ供シテ後チ拍手拜禮各一

回ヲ行フヘシ佛葬ニ在テハ香包ヲ持參スルヲ敬ノ至レ

ルモノトス然ルハ之ヲ出シ左手ニ持チ右手ニテ香ヲ

撮ミ之ヲ燒キテ拜禮ス可シ

但葬儀ノ拍手ハ「シノビ」ト云ヒテ音ノセザル様ニス

刀劍

一人ノ刀劍ヲ一覽スルハ總テ服紗又ハ紙ヲ以テ之ヲ扱

フヘシ若シ中身ヲ視ント欲スルハ其許可ヲ乞フモノ

物品觀覽

トス而シテ他人ニ中身ヲ視セシメント欲スル片ハ鯉口  
 ヲ緩メテ出スヲ例トス然レモ主人之ヲ爲サ、ル時ハ先  
 ツ之ヲ緩メ之ヲ抜クニハ右手ニ欄ヲ持チ左手ニ鞞ヲ執  
 リ刀背ニ滑走シテ抜キ指表指裏ト見而シテ尖頭ヲ鞞ヨ  
 リ脱スル時一禮スルヲ古ヘ武士ノ作法トス若シ發言ス  
 ル片ハ鼻口ヲ掩ヒ息ノ掛ラサル様ニ注意ス可シ  
 一掛物ヲ觀ルニハ床ノ間ヨリ少ク隔リ三幅對ナレハ通常  
 ハ中央ヨリ下座上座ト順ニ觀ルヘシ然レモ下座ヨリ始  
 ムルハ主人ヲ敬スルノ意ニシテ主人ハ上座ヨリ觀ルヲ

床物

書類

一人ノ書籍等ヲ看ルニハ下端ヲ右手ニテ開キ先ツ初ヲ見  
 次ニ終次ニ中央ヲ披見シ而ル後チ隨意ニ見ルベシ（第  
 六圖）

宴席程儀

煎茶  
 一茶ヲ受クルニハ右手ヲ以テ茶臺若クハ茶碗ヲ取り左手  
 ヲ添ヘテ一旦下座ノ方ニ置キ座中ヲ見合セ之ヲ飲ミ終

抹茶

リテ臺ノ上ニ置クヘシ  
 一濃茶ヲ受クルニハ先ツ左掌ヲ以テ之ヲ承ケ右手ノ拇指ト食指トニテ服紗ノ彼方ノ角ヲ撮ミ茶碗ト共ニ左掌ノ上ニ旋ラシテ我カ方ニ來タシ服紗ノ下ヨリ茶碗ノ右側ニ右手ヲ添ヘテ之ヲ戴キ一旦膝ノ上ニ置キ而シテ後チ飲ムヘシ(第七圖)  
 一菓子ハ總テ茶ニ先チテ喫スルモノナリ先ツ紙ヲ出シテ下座ニ置キ其上ニ一二個ヲ採リ兩手ノ指頭ヲ以テ適宜ニ割リ左手ニテ喫スヘシ

菓子

受膳

探箸

一膳ヲ供シ來ラハ指建禮ヲ爲シ等輩以上ノ人配膳ヲ爲ス  
 片ハ拓手禮ヲ爲スヘシ  
 但熨斗ノ受方モ亦本文ニ同シ  
 一箸ヲ探ルニ右ノ拇指ト他ノ四指ト共ニ箸ノ中央ヲ持右膝ノ上ニ執ル之ヲ箸構ヘト謂フ次ニ左手ヲ左膝ノ上ニ仰ムケ右手ヨリ箸ヲ受ケテ之ヲ撮ミ而シテ右手ハ箸ヲ持チ換ヘテ其中央ヲ持ツ可シ深ク敬意ヲ表スル片ハ箸ノ稍下部ヲ探ルモノトス又上輩ハ左ノ手ヲ添ヘスシテ右手ノミニテ扱フヘシ

左手ヲ使用スルノ際ハ必ス箸構ヘニ返リ又食ヲ中止スル  
ル片ハ箸ヲ膳縁ニ掛ク之ヲ箸休メト謂フ全ク食ヲ終ル  
片ハ之ヲ掛ケスシテ始メノ如ク膳ノ縁邊ニ揃ヘ置クヘ  
シ(第八圖)

吸物

一吸物ハ酒ニ先チテ喫スルモノニシテ右手ヲ以テ蓋ヲ取  
リ左手ヲ添ヘテ翻ヘシ之ヲ膳ノ右方ニ置キ次ニ箸ヲ取  
リ箸構ヘヲ爲シ箸ヲ持タル儘右手ニテ椀ヲ取り左手ニ  
持チ先ツ汁ヲ吸ヒ一旦膝ニ執リ箸ヲ持換ヘ次ニ實ヲ食  
シ再ヒ膝ニ執リ又初ノ如ク汁ヲ吸ヒ畢リテ椀ヲ膳ノ上

受酒

ニ置クヘシ(第九圖)

一酌人前ニ來ラハ下座ノ人ニ一禮シテ左手ニ盃ヲ採リ  
右手ヲ添ヘテ酒ヲ受ケ飲ミ終リテ盃ヲ吸物椀ノ傍ニ  
置クヘシ酌ノ少量ヲ望ム片ハ盃ヲ低下スルモノトス  
又盃ハ位置卑キモノヨリ位置高キ人ニ呈スルモノニア  
ラス尊長ヨリ指授セラレタル盃ハ兩手ニテ受ケ一禮シ  
テ酌人ヨリ酒ヲ受クヘシ若シ返盃スルトキハ盃洗ニテ  
洗滌シ若シクハ紙ニテ清拭シ而シテ後チ進ムヘシ盃ノ  
禮ハ上輩ハ眼ノ下等輩ハ眼ノ通迄下輩ハ眼ノ上迄盃ヲ

喫飯

上ルナリ但左リ手ニ盃ヲ受右手ヲ着キ受クヘキ者ナレ  
 ト誤チナカラン爲ニ右手ヲ添ルナリ著ク己レヨリ位置  
 高キ人ニハ返盃ハセサルモノナレトモ望マルトキハ  
 臺ニ据テ返進スヘシ(第十圖)  
 一飯ヲ喫スルニハ右手ニ箸ヲ持チ左ノ拇指ヲ少ク椀ノ縁  
 ニ掛ケ餘ノ指ニテ椀ノ底ヲ持チ初メニハ二箸二回目ヨ  
 リハ三箸宛食スルモノトス  
 但蓋ヲ取ルノ法ハ三ノ膳マテ出セシ時左方ノ蓋ハ左  
 手ニテ取り右手ヲ添ヘテ左ニ右方ノ蓋ハ右手ニテ取

食饌  
順序

リ左手ヲ添ヘテ右ニ置クヘシ其順序ハ飯汁平二ノ汁  
 坪トス  
 一食饌ノ順序ハ先飯ニ汁又飯ニ汁ヲ食シ次ニ平次ニ鱈次  
 ニ二ノ汁次ニ壺次ニ猪口次ニ燒物トス必ス飯汁ヲ食シ  
 テ後一菜ヲ食スヘシ一周食シタル後ハ右ノ順序ニ拘ラ  
 ス適意ノ物ヲ食スヘシト雖菜ヨリ菜ヘ移リ食ス可ラス  
 (補註)正式即チ二汁五菜三汁七菜等ノ食膳ニハ總テ  
 飯ヲ先ニシ酒ヲ後ニス因テ左ニ二汁五菜ヲ進  
 ムル順序ヲ附記ス(第十一圖)

本膳ヲ進メ次ニ二ノ膳三ノ膳ヲ出シ飯并ニ汗ノ替  
 リヲ進メ既ニ飯ヲ辭スレハ吸物膳ニ盃ヲ据ヘテ出  
 シ次ニ酒ヲ進メ次ニ取肴ヲ出シテ酒ヲ進メ又取肴  
 ヲ出シテ酒ヲ進メ酒ヲ辭スルニ及ヒ吸物膳ヲ撤シ  
 次ニ三ノ膳二ノ膳ヲ撤シ次ニ湯ヲ進メ次ニ蒸菓子  
 ヲ撤シ次ニ干菓子ヲ出シ濃茶ノ碗ヲ撤シ次ニ薄茶  
 ヲ出シ次ニ薄茶ノ碗ヲ撤ス  
 但シ此次第ハ先ニ飯ヲ出シ之ヲ再進シテ後チ辭  
 スルニ至テ乃チ酒殺ヲ進ム是ヲ中酒ト云フ中酒

終レハ吸物膳三ノ膳二ノ膳及蓋迄ヲ撤シテ後湯  
 漬ヲ進ムルナリ此時ニ猶ホ本膳ヲ殘シ置ク理由  
 ハ客人酒後ニ湯漬ヲ食スル爲メ少シク飯ヲ餘シ  
 置クヘキ者ナレハナリ(飯ヲ餘サスシテ湯ノミヲ受クルモ妨ケナシ)且湯  
 漬ヲ食シ又湯ヲ飲ム時ハ香ノ物ヲ食シテ外ノ菜  
 ヲ食セサルモノニシテ次ニ湯ヲ吞ヘシ  
 三汁七菜等モ右ニ準ス

注意ノ事項

一 宴席等ニ於テ注意スヘキ事項左ノ如シ

宴席注意



一箸ニテ飯ヲ椀中へ押付ケ或ハ食物ヲ妄リニ口中へ押込ミ若クハ箸ヲ口中ニ深ク入レテ甜リ又ハ箸ニ附着セル飯粒等ヲ口ニテ取ル等ノコトヲ爲スヘカラス

二一ノ菜ヲ食セント欲シテ箸ヲ下シタル後チ空シク止メ若シクハ何レヲ食センカト箸ヲ按シテ躊躇スル等ノコトヲ爲ス可ラス

三汁ノ再進ヲ受ル時一旦膳ニ置カスシテ直ニ吸フヘカラス

但シ何品ニテモ全シ

四膳ノ向ニ在ルモノハ必ス手ニ取揚ケテ食ス可シ箸ヲ以テ直ニ之レヲ挾ミ若シクハ右方ニアル物ヲ左手ニテ取り左方ニアルモノヲ右手ニテ取ル等ノコトヲ爲ス可ラス

五俯向キテ餘念ナク食シ若シクハ物ヲ食スル間椀ノ上ヨリ諸所ヲ視回シ又ハ羹ノ椀底ヲ慢リニ探ル等ノコトヲ爲スヘカラス

六魚肉ノ全部ヲ食スルモ妨ケナシト雖右頭ニナラサル様ニ反シテ食スヘシ

七香ノ物ハ湯漬ノ時食スヘキモノニシテ決シテ其前ニ食シ又ハ湯漬ノ中ニ入レテ食ス可ラス

八雜煮餅ヲ食スルニハ先ツ汁ヲ吸ヒ次ニ餅ヲ食シ又汁

ヲ吸フモノトス而シテ餅、蒲鋒其他總テ之レニ類ス

ル物ノ一部ヲ食シタルキハ其殘部ノ新月狀ヲ爲サ、

ル様ニ注意スヘシ

九楊枝ヲ使用スルキハ之ヲ右手ニ持テ左手ヲ以テ口ヲ

掩ヒ少ク下座ヘ向ヒ靜カニ使フヘシ

十喫煙ハ尊長ノ前ニ在テ喫ス可カラス之レヲ喫スルニ

ハ許可ヲ乞フモノトス煙管ヲ以テ直ニ唾壺ヲ敲ク可

ラス之ヲ左掌ニ受ケテ灰殻ヲ落ス可シ又唾壺ニ唾ス

ルニハ手ヲ以テ口ヲ掩フヘシ又洩ヲ拭フニハ下座

ノ背後ニ向テ音ノ高カラサル様ニス可シ

一書簡ハ前ヲ二折半末ヲ一折半明ケ置クヘシ而シテ又悔

狀ニハ吊詞ノ外決シテ他ノ用事及追書ヲ認ム可カラス

且宛名ノ脇付ヲ記サス之ヲ封スルキハ死封ニスルモノ

トス故ニ平常ノ書簡ニ在テハ死封ヲ忌ム(第十二圖)

一風呂敷ニ物ヲ包ムニハ姓名等ノ記號ヲ與ニシ其包ミノ

古體 一巻

書翰

風呂敷

殘部ヲ内ニ折リ込ミテ下方ニ垂レサル様ニス可シ

古禮一斑畢

古禮一斑附錄

拜スル様

拜スルニハ兩手ヲ膝ノ左右ニ着キ一度眼ヲ其人ニ着ケ然ル後チ拜スヘシ

但シ上輩ニ對シテハ手ノ指先ヲ向フニナシ臂ヲ張ルナク左右ノ拇指ト食指ト中指等ヲ突合セテ拇指ト食指ノ中間ニ鼻ヲ入レ腰ノ高クナラヌ様ニ背ヲ平ラカニシテ拜スヘシ是ヲ合掌禮ト云フ

同輩ニ對シテハ手ノ指先ヲ稍ヤ内方ニ向ケ左右ノ間ヲ

古禮一斑附錄

五寸程開キテ着キ頭ヲ低ル、下ヨリ凡ソ五寸ノ所ニシテ拜スヘシ是ヲ双掌禮ト云フ

下輩へ對シテハ兩手ノ指先ヲ兩股ノ中央ニ着キ上躰ヲ少シク前ニ傾クヘシ是ヲ指建禮ト云フ

此ノ拜スル様ハ上中下ノ三等ニ分チタルタメニ合掌禮ヲ上輩へトシ双掌禮ヲ同輩へトシ指建禮ヲ下輩へ對スルトス

合掌禮

兩手ハ膝ヲ擦リツ、指尖ヲ股ノ中央ニ下ケ兩膝ノ側ニ掌

ヲ少シク屈シテ着キ上輩ノ膝ニ着眼シ空氣ヲ吸ツ、頭ト同時ニ兩手ハ輕ク地ヲ擦リ前ニ出シ兩食指ヲ接シ臂ハ側方ニ張ル事ナク地ニ着ケ同時ニ襟元ノ上輩ニ見サル様腰ノ上ラサル様ニシテ頭ヲ下ケ其鼻ヲ兩食指ト拇指ニテナス三角形内ニ入レ空氣ヲ吹キ(此間姿勢ヲ保チ)禮ヲナシ然ル后亦空氣ヲ吸ツ、頭ヲ起ス同時ニ兩手ハ始ノ如ク兩膝ノ脇ニ着ク

双掌禮

先ツ互ニ眼ニ着眼シ股ヲ擦リツ、兩手ヲ股ノ中央ノ處ニ

下ケ然ル后合掌禮ノ如ク行フ但シ兩手ハ接着セス約五寸程雖シ頭ハ地ヲ離ル、約五寸ノ處マテ下ケ双掌禮ヲナス  
指建禮

股ノ中央ニ兩手ヲ下ケ諸指ヲ並ヘ指尖ヲ地ニ着ケ甲ヲ前ニシテ手ヲ建テ眼ヲ下輩ノ頭ニ注キ上躰ヲ少シク前ニ傾ケ指建禮ヲナス

拓掌禮(上輩ト對話スル片等ニ用ユ)

兩手ヲ股ノ頭ニ並ヘ着キ頭ヲ手ノ巾ニ準シ下ケテ禮ヲスヘシ

但シ跪キテ禮スル片ハ之ヲ中禮ト云

爪甲禮(上々輩ノ禮)

兩手ヲ股ノ中間部ニ置キ指ノ爪先ヲ着キ甲ヲ前ニシ頭ヲ少シク前ニ傾ケ禮ヲナス

但指建禮ヨリ下輩ニ屬スル禮也

膝匍前進

拓掌ヲナシ下座ノ手ヲ前ニ出シテ着キ次ニ下座ノ膝ヲ進メ前ニ着キタル手ニ觸ル、マテ出ス上座ノ手ト膝ヲ進ムルハ右ノ如クニシテ交互前進ス

膝匍退却

退却ハ前進ト全ク反對ノ動作ヲナス即チ上座ノ膝ヨリ手  
次ニ下座ノ膝ヨリ手トノ順序ニ退却ヲ行フ  
匍匐

下坐ノ手ヲ進メ上座ノ膝ヲ進メ次ニ上座ノ手ヲ進メ下坐  
ノ膝ヲ進メ交互此ノ如クシテ前進ス退クハ上坐ノ膝ヲ引  
下坐ノ手ヲ引次ニ下坐膝ノヲ引上坐ノ手ヲ引交互スヘシ  
膝行

兩足ヲ爪立テ下坐ノ足ヲ前ニ踏出シ足尖ニカヲ入レ上坐  
ノ膝ハ地ヲ擦リツ、前ニ踏出シ右ニ於ケルト同要領ニテ  
交互前進ス

開キ様(上坐下坐)

腰ヲ起シ右(左)足ヲ右(左)方ニ轉シ次ニ左(右)足ヲ右  
(左)足ニ揃ヘ腰ヲ踵ノ上ニ置ク  
廻リ様(上坐、下坐)

右(左)膝ヲ少シク上ケ腿ヲ左(右)踵ノ上ニ載セ左(右)足  
ハ地ヲ擦リツ、躰ヲ右(左)方ニ轉ス  
起ッ様

起ツニハ兩足ヲ膝ノ上ニ置キ腰ヲ切リツ、足ノ爪先ヲ立  
テ下坐ノ足ヲ前ニ出シ躰ノ起ツニ隨ヒ上坐ノ足ヲ前ニ揃  
ヘ全ク起出シ兩踵ヲ地ニ付ケ腰ヲ据エ肩ヲ平ラニシ臂ヲ  
張ラス縮メス手ヲ輕ク手懸ニ置キテ頭、頸ヲ真直クニシ  
正面ニ向ヒ左右ヲ見ルヘカラス

進ム様

進ムニハ下坐ノ足ヨリ踏出シ踵ヲスリツ、歩ミ上躰ハ起  
チタルト同様ニ保チ眼ハ凡ソ三間許隔タル所ニ着クヘシ  
坐スル様

坐スルニハ上坐ノ足ヲ一步退キ下坐ノ足ヲ引付ケ更ニ上  
坐ノ足ヲ引キ跪キツ、下坐ノ足先ニカヲ入レテ上坐ノ膝  
ヲ下座ノ膝ニ揃ヘ左ノ足ノ拇指ニ重テ坐シ上躰ハ下腹  
ニカヲ入レ正シク保チ頭ハ直眞ニナシ眼ハ凡ソ八九尺ノ  
所ニ着ケ兩手ハ諸指ヲ揃ヘテ少シク屈メ股ノ上ニ置クヘ  
シ

起チ還ル様

腰ヲ立テ足ヲ爪立テ兩手ヲ膝ノ脇ニ着キ上坐ノ膝ヨリ引  
キ上坐ノ手ヲ引キ次に上手ノ膝ヲ上坐ノ膝ニ並ヘ下坐ノ

手ヲ引キ全ク腰ヲ起スル同時ニ兩手ノ股上ニ上ケ上坐ノ  
 足ヲ直角程チヨクカク下坐ノ方向ニ開キ直チニ上坐ノ足ヲ下坐足  
 ニ寄セヨ爪立ツマダテタル踵ノ上ニ腰ヲ置キ而シテ新方向シンホウナル下  
 坐ノ腰ヲ少シク舉ケ上坐ノ膝ハ地ヲ擦リツ、稍々直角ニ  
 廻リテ腰ヲ立下坐ノ足ヲ踏ミ出シテ起チ又下座ノ足ヨリ  
 行進ヲ始ム  
 起立シアル時ノ轉回テンクワイ  
 下座ノ足ヲ前ニ出シ其中央ヲ上座足ノ爪先ニ接シ次ニ上  
 座足ヲ引キ其中央ヲ前ノ下座足ノ踵ニ接シ次ニ此下座足

ヲ上坐足ニ揃フ

行逢ユキアヒノ禮

上輩ヘハ六七尺前ニ於テ右ノ足ヲ下座ノ方ヘ一步引キ左  
 ノ足ヲ右ノ足ニ揃ヘ兩手ヲ膝マテ下ケ躰ヲ前ニ屈メ上輩  
 ノ至ルヲ待ツマ既ニシテ上輩其前ヲ過キントスル片先チツ注  
 目モクヲナシ次ニ兩手ヲ膝頭ノ上マテ下ケテ敬禮ヲ行フ禮畢オハ  
 ツテ膝マテ兩手ヲ上ケ前ノ如ク上輩過キ去ラハ元ノ如ク  
 兩手ヲ手掛ケニ復シ左ノ足ヨリ進行ヲナスヘシ  
 同輩ヘハ約三尺程隔テ、互ニ左足ヲ斜メ左ニ踏出シ右足



ヲ揃へ互ニ正對注目シ然ルノチ后膝マテ兩手ヲ下ケ一禮ヲナシ次ニ左足ヨリ行進ヲ始ムヘシ

下輩ニ對シテハ別ニ足ヲ開カス其儘兩足ヲ踏ミ揃へ注目ヲナシ然ル後少シク腰ヲ屈メ一禮シテ行進ヲ始ムヘシ人ノ前マへヲ過スクル様

上輩ノ齊頭ゼイト約二步程前ニ止マリ下坐ノ足ヲ下座ノ后ノ方ニ斜ニ一步開キ上坐ノ足ヲ下座ノ足ノ踵ト稍々四モクトナシ跪キ下座ノ膝ハ地ヨリ少シク舉アケ下座ノ手ハ股上ニ置キ上座ノ膝ヲ地ニ着ケ此方ノ手ハ膝頭ノ脇ニ着キ注目

ヲ行ヒ頭ヲ下ケテ敬禮ヲナシ次ニ躰ヲ起スト同時ニ下座ノ足ヲ踏出シテ起立シ躰ヲ前ニ屈メテ下座ノ足ヨリ三步進行シ身躰ヲ眞直ニナス

同輩ニ對スルハ上座ノ足ヲ一步引キ跪キ注目ヲナシ股ノ脇ニ指先ヲ着キ一禮ヲ行ヒ下座ヨリ立チ躰ヲ眞直ニシテ下座ノ足ヨリ行進スヘシ

下輩ニ對スルハ其齋頭ノ稍後方ニテ止マリ注目ヲナシ然ル后躰ヲ少シク屈メテ一禮ヲ行ヒ下座ノ足ヨリ行進スヘシ

人ノ后ヲ過クル様

上輩ニ對シテハ其ノ後方ニテ停止シ前通りノ如クナシ一  
禮畢テ后チ下座ヨリ三膝進ミ下座ヨリ起立シ下ノ足ヨリ  
行進ス

同輩ニ對シテハ同輩ノ前通りノ如クシテ二膝進ミ立チテ  
行進ス但シ后通りハ前通りヨリ敬シテ通ルヘシ

障子襖ノ開閉

障子、襖ヲ右ヘ開カントスルニハ左ノ方ニテ若干歩前ニ  
跪キ二膝進ミ左ノ手ニテ引手ヲ取り少シク開キ其手ヲ反

シテ縁ヲ持チ(凡ソ半身)開キ次ニ右手ニテ開クヘシ夫ヨ  
リ起立シテ二歩前ヘ進ミテ柵ヲ越シ三步進ミ右廻リヲナ  
シ障子襖ノ方ニ向ヒテ跪キ左手ヲ逆手ニシテ中央閉サシ次  
ニ右手ヲ以テ全ク閉ツヘシ

賓客送迎

上輩ニ對スル送迎  
上輩來臨ノ報ヲ得ルヤ主人ハ直チニ玄關ニ出迎ヒ入口ニ  
テ左ノ手ヲ一步下ヘ開キ右足ヲ揃ヘ右ノ足ヲ一步引キ跪  
キ客人レハ中禮ヲナシ客亦跪キテ中禮ヲナス是ニ於テ主

人ハ先ツ立テ客ヲ客室ニ導ク客之ニ隨フ主人ハ客座ノ榻外ニ斜ニ開キ上座ヘ向ヒ斜ニ跪キ右手ヲ着キ左手ヲ出シテ客ノ入室ヲ進ム客ハ榻外ニ跪キ挨拶ヲナシ客室ニ進ミ坐ニ就ク主人ハ客室ノ榻ヨリ三步進ミテ止リ客ニ斜對シテ坐シ合掌禮ヲ行フ客ハ指建禮ヲナス主人ハ指建禮ヲナシ先ツ口ヲ開キ應對ヲナス又客ノ言ヲ聞ク片ハ右手ニテ雙指禮ヲナシ左手ハ指建禮ヲナシ謹聽ス

客歸ラントスルヤ主人ハ先ツ執事ヲ呼テ供ノ用意ヲナサシメ用意備ハルヲ知レハ合掌禮ヲ行ヒ客ハ指建禮ヲナス

主人先ツ立チテ客ヲ導キ立關ニ於テ左ノ足ヲ一步下ヘ開キ右足ヲ揃ヘ左ノ足ヲ一步引キ跪キ兩手ヲ着キ客ノ來ルヲ待ツ客前ニ至レハ中禮ヲ行フ客モ跪キテ中禮ヲ行ヒ立テ歸途ニ就ク

同輩ニ對スル送迎

客ノ來ルヤ執事ハ立關ニ出テ、客ヲ迎ヘ客ヲ客室ニ導クハ前條主ノ客ヲ迎ヘシニ同シ但シ客ノ坐ニ就クヤ執事ハ二ノ間ニ於テ合掌禮ヲ行フ

主人ハ客室ニ出テ客ニ正對シテ坐シ互ニ先ツ注目シ双手

禮ヲ行フ然ル後應對スル法ハ前條ニ同シ  
客歸ラントスルヤ主人ハ執事ヲ呼ンテ供ノ用意ヲ爲サシ  
ム執事ハ供ノ用意調ヒタレハ其旨ヲ述ヘ立關ニ至リ下ヘ  
跪キ客ノ歸ルヲ待ツ

主客ハ互ニ双掌禮ヲ行ヒ主人ハ先ニ立關ノ下坐ニ跪キ客  
來ラハ中禮スヘシ

客ハ主人ニ就キ退キ主人ノ前ニ向ヒテ跪キ中禮ヲ爲シ退  
キ尙ホ執事ノ前ニテ禮ヲ爲シ退出ス

主人ハ客ノ執事ニ禮スルヲ見レハ退却ス

但シ下坐ノ足ヨリ立チ下坐ノ足ヨリ進行シ上ノ足ヲ

退キ跪ク等ハ常例故略ス

物品薦撤

熨斗進メ様并ニ收メ様

熨斗ヲ三方ニスエ左手狭間へ入レ右手ヲ右ノ縁ニ添へ上

坐ノ中央ニ至リ跪キ二膝進ニ隨ヒ三方ヲ下ケ而シテ之ヲ

置キ兩隅へ兩手ヲ添へ少シク而シテ進メ兩手ヲ着キ二膝

退キ下坐ノ方へ開キ廻リテ下坐ノ足ヨリ立チ下坐ノ方へ

サケテ歩ミ柵ノキハニテ正面ニ向ヒ跪キ禮シ再ヒ下坐ノ

足ヨリ進ミ出テ跪キ兩手ヲ着キ二膝進ミ兩手ニテ三方ヲ少シク前へ引寄せ元ノ如ク持チ二膝退キ下坐ノ方へ開キ廻リテ還ル可シ

但物品ヲ薦撤スルタメ下ヨリ進ミ上ヨリ退キ二膝進退スルコト及下坐へ廻リ還ル事皆同シ以下略ス

菓子進メ様并ニ收メ様

菓子ヲ鉢ハチニモリタルヲ前ニスエ兩手ニ持チテ出テ受クル人ノ前二尺程前ニ跪キ膝進メ之ヲ置キ兩手ニテ少シク進メ兩手ヲ着キ二膝退キ下坐へ開キ廻リテ還ルベシ

收ムルキハ常ノ如ク出テ、跪キ兩手ヲ着キ二膝進ミ膳ヲ少シク前へ引寄せ兩手ニ持チテ二膝退キ下坐へ開キ廻リテ還ル可シ

茶進メ様并ニ收メ様

茶碗ヲ臺ダイニ載セ蓋ヲナシ兩手ニテ持チ前ノ如ク出テ、之ヲ置キ左手ヲ茶臺へ添へ右手ノヒトサシユビ食ヒトサシユビ指アキユビトアキユビ拇指アキユビニテ蓋ノ取ト手テ、ツツヲ撮ユグミ湯氣ユグノ茶ニ落オチサル様前方ヨリ右、回シテ取リ茶臺ノ右側上ニ持タセ右手ノ他三指ト左手ニテ茶臺ヲ持チ進ム客直チニ臺ト共ニ取ルルハ蓋ヲ左手ニ移シ(或ハ

其儘(右(左)手ヲ着キ左(右)手ニテ蓋ヲ茶臺ノ下坐へ置  
キ還ルヘシ收ムル時ハ臺ヲ膝ノ前ニ置キ下坐ノ手ニテ蓋  
ヲ取り右手ニテ取手ヲ撮ミ左ノ手ヲ臺ニ添へ蓋ヲシテ還  
ルヘシ

但シ蓋ナキトキハ茶碗ヲ臺ニノセ兩手ニ持テ前ノ如  
ク出テ、之ヲ進ム客直チニ茶碗ヲ取ル片ハ臺ヲ持チ  
テ還ルヘシ客直チニ取ラサル片ハ臺ノ儘前へ置キ還  
ルヘシ客臺ト共ニ取ル片ハ其儘還ルヘシ

煙草盆進メ様并收メ様

煙草盆ノ内ニ火壺ヒツボヲハ客ノ左ノ方ニ唾壺ツバツボヲ右ノ方ニシテ  
之ヲ兩手ニ持チテ出テ進ム可シ

收ムル片モ同シ心得ナリ

火鉢進メ様并ニ收メ様

大カタ煙草盆ニ準ス火鉢ノ足三ツアルモノハ二ツヲ客ノ  
前へ向ケ一ツヲ向向ムカフムキニナシテ置クヘシ

書籍進メ様并ニ收メ様

書籍標題ヲ我見ル如クニシテ左ノ手ニスエ右手ヲ添へ  
持チテ出テ進メントスル片右手ニテ右手前ノ隅スミヲ取り左

手ニテ左向フノ隅ヲ取り標題ヲ客ニ向フル如ク回シテ右手ノ上ニ載セ左手ヲ左隅ニ添へ右向ノ隅ヨリ左向フノ隅左手前ヨリ右手ノ方トノ順序ニ地上ニ置キ兩手ニテ進メ還ルヘシ收ムルハ左手ニテ隅ヲ取り右手ノ上ニ据エニ膝退キ廻ルト同時ニ標題ヲ我方ニ轉回シテ左手ニ載セ右手ヲ添ヘテ立ち右ノ添手ヲ手懸ニヲキ還ルベシ

但シ歩ム時ハ手ヲ添ヘルニ及ハス冊數多キ時ハ手ヲ添ルコトアリ

料紙硯箱進メ様并ニ收メ様

硯箱ヲ料紙ノ上ニ載セ左ノ手ニ据へ右手ニテ隅ヲ持ち出テ前ニ置キ先ツ硯箱ヲ持ちテ我左ノ方ニヨセ左手ヲ以テ料紙ノ向中央ヲ右手ヲ以テ手前ノ中央ヲ持ち折目ヲ客ノ右ニスル如ク轉回シ兩手ニテ受クル人ノ左ノ方ニ進メ次に硯箱ヲ正面ニセヨ蓋ヲ左ニ取リテ同シク右ノ脇ニ進メ(蓋ノ上ニ模様アルモノハ其儘伏セ廻シテ進メ蓋ノ上ニ模様ナキモノハ仰ムケテ置キ仰ムクル時向ヘヨリ廻シ進ムヘシ)ニテ手ヲ着キ右手ノ拇食中ノ三指ニテ水滴ヲトリテ水ヲ注キ次ニ三指ニテ墨ヲトリ硯ノ中ニ持來シ表ヲ客

ノ方ニシテ握リノ字状ヲ寫ス如ク墨ヲ磨リ筆ヲトリテ  
右、手前、左ノ三方ニテ墨汁ヲ浸シ料紙ノ如ク轉回シテ料  
紙ト蓋トノ中央ニ進ムヘシ

但小紙ハ硯箱ノ上ニ乗セ持チ出テ料紙ヲ先ニ取廻シ  
進メ次ニ硯箱ヲ扱フヘシ

收ムルトキハ料紙ヲ手前へ引寄せ順ニトリ廻シ次ニ硯箱  
ヲモ引寄せ順ニ取廻シ蓋ヲ引寄せ順ニ廻シ蓋ヲスヘシ蓋  
ヲ仰ムケル時ハ引寄せ向へ廻シ蓋ヲナシ料紙ノ上ニ載  
テ元ノ如ク持チテ還ルヘシ

但小紙ハ硯箱ヲ扱ヘシ后料紙ヲ取廻硯箱ノ上ニ還ク  
帽子進メ様並ニ取リ様

帽子ノ中へ左手ヲ据へ眉庇ヲ手前ニシ(前方ヲ我方ニシ)  
右手ヲ添へ進ミ客前ニ於テ右手ニテ后口ヲ持チ右ニ轉回  
シテ眉庇(前)前方ニ向ケ右手ヲ添へテ進ム

客ハ右手ニテ眉庇(前部)ヲ持チ之ヲ受ク同輩ハ右手ニ眉  
庇ヲ持チ左リ手へ据受クヘシ  
授受捧呈

立禮辭令書授ケ様並受様



授者ハ左手ニテ下ヲ持チ右手ニテ中程ヨリ上ヲ持チ（拇  
指食指中指ニテ持ヘシ）左ノ手ヲ手懸ニ置キ授クヘシ受  
者ハ進ミ出敬禮シテ下足ヨリ三足進ミ左手ノ上ニ受ケ右  
手ニテ其下ヲ持チ戴キ上座ヨリ三足退キ右手ニテ右端ヲ  
持チ左ノ指ニテ順次ニ扱キ右方ヲ少シク下ケ一見シテ元  
ノ如ク疊ミ上面ヲ前ニムケル如ク廻シ右手ニテ持チ左手  
ヲ下ニ添ヘ后左手ヲ膝マテ下ケ敬禮シ上ヘ廻リ退クハ  
二三通モ一度ニ授ケラル、トキハ前ニ準シテ數通ヲ一時  
受ケニ通ツ、之ヲ扱キ見了リタルモノハ順次ニ下タヘ

重子而シ右ノ手ニ持チ換ヘ敬禮シテ退クヘシ

但シ開キタル辭令ハ左手ノ拇指ト食指ニハサミ右手  
ヲ添ヘ受ク

書簡受渡様

書簡ノ受渡ハ辭令書ノ授受ニ同シ

但シ表ヲ見裏ヲ見ルト開封セサルト右手ヲ仰ムケ下  
ヲ持ツトヲ異ナリトス

掛物扱ヒ様

掛物ト又竿トヲ臺ニノセ床ノ前ニ跪キ臺ヲ右ニ置キ右手

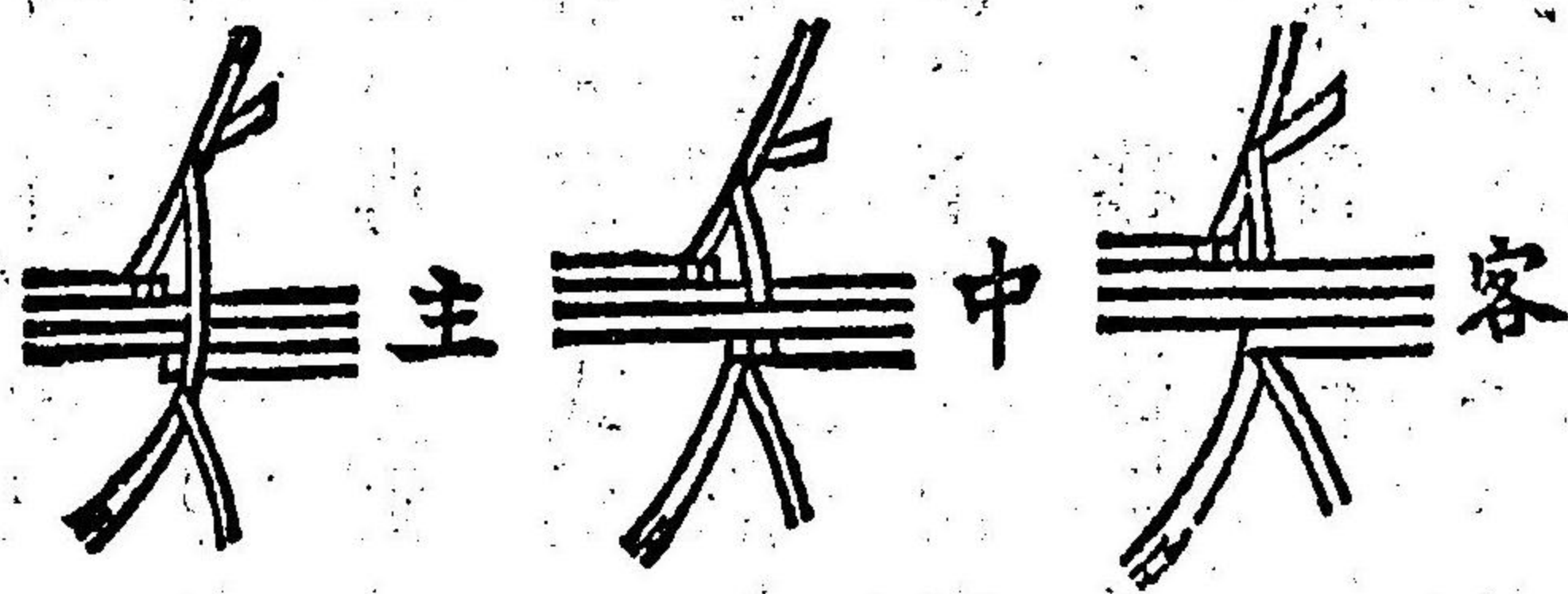
ヲ伏セ左ノ手ヲ仰ムケテ軸ヲ持チ床前ニ持チ來シ懸物ヲ  
 横ニシ懸緒ヲ右手ニテ解キ三輪トナシ兩手ニテ床上ニ  
 文字ノ邊マテ扱ギ右手ニテ風帶ヲ整ヘ右手ニ又竿ヲトリ  
 左手ノ拇食指ト懸物トノ間ニ挾ミ矢筈ヲ懸緒ニ挾ミ（懸  
 緒ヲ下坐ハ寄セヘシ）右手ニテ左手ノ上部竿ヲ持チ下坐  
 シ足ヨリ立チツ、掛物ヲ起シ折釘ニカケ右足ヲ少シク右  
 方ニ踏開キ竿ヲ懸物ノ右ニテ壁ニ立テ掛ケ足ヲ揃ヘ兩手  
 ニテ軸ヲ持チ二膝退坐シツ、扱ギ左手ニテ軸ノ中央ヲ持  
 チ右手ヲ床上ニ着キ左手ヲ伸シテ軸ヲ放チ一覽ヲナス異

狀ナギ時ハ左ノ手ヲ着キ右ノ手ニテ取臺ニ置キ臺ヲ持チ  
 還ル可シ

但シ三軸ノ時ハ中客主トノ順序ニ懸ケ客居ノ懸緒ハ  
 客居ニ寄スヘシ

收ムルトキハ又竿ヲ臺ニ載セ持チ出テ床ノ前ニ跪キ臺ヲ  
 右ノカタニ置キ竿ヲ取り壁ニ立テ懸ク右手ヲ着キ左手ニ  
 テ軸ノ中央ヲ持チ躰ヲ起シ右手ニテ軸ノ右左手ニテ左ヲ  
 持チ兩手ニテ卷キツ、起立シ左手ニテ軸ノ中央ヲ持チ右  
 足ヲ右方ニ踏開キ右手ニテ竿ヲトリ足ヲ揃ヘ左手ノ拇指

ト懸物トノ間ニ持チ操リ上ケ懸緒ニ挾ミ折釘ヨリ之ヲ外  
 シニ足退キ坐シツ、右方ニ倒シ床上ニ置キ竿ヲ左方ニ送  
 リ右手ヲ以テ臺上ニ置キ右手ニテ軸ノ右端ヲ持チ左手ニ  
 テ左端ヲ持チ兩手ニテ卷キ風帶ヲ右手ニテ元ノ如クシ然  
 ル后左手ノ指先ニテ懸物ヲ堅テ、持チ右手ニテ懸緒ノ紐  
 ヲ小指ニ挾ミ拇指食指中指ニテ掛物ヲ持チ兩手ニテ回シ  
 后掛物ヲ横ニナシ緒ヲ結ミ<sup>ヒナガタ</sup>縦形ノ如シ  
 三軸ノ懸物ヲ見ル様并ニ見セシムル様  
 主ハ竿ヲ右手ニ持チ客ノ前ニテ一端竿ヲ后ロニ置キ見ス



客  
 へキ旨ヲ述テ一禮シ床前ニ跪キ懸物ノ配  
 置ヲ見后下坐ノ方ニ開キ跪キ竿ヲ后ロニ  
 置キ客ノ正面ニ對坐敬禮ヲナシ懸物一覽  
 ヲ薦メ主ハ客ニ先立チテ下坐ニ就ク  
 客ハ床ノ正面ヲ四五尺ノ處ニ跪キ中禮ヲ  
 ナス  
 主ハ客ニ接近ヲ進ム  
 客ハ式退ノ上摺<sup>シキダイ</sup>揆<sup>アイサツ</sup>シテ三尺程ノ處ニ坐シ  
 下坐ヨリ覽ントス

主ハ上坐ヨリスルヲ乞フ

客ハ下ヨリ見ントス

主ハ再ヒ上坐ヨリスルヲ乞フ

客ハ三度式退ニテ御免ト挨拶シ中ノ懸物ヨリ一覽ヲ始ム

其法軸表装ト下ヨリ上ニ覽上ケ見風シ落款ヲ覽次ニ書

書ヲ下ヨリ上へ又見風シ夫ヨリ巨細ニ見畢リ一禮シテ上

下ト移リ覽畢テ一禮ヲナシ元ノ坐ニツク

花ノ飾リ様

花臺ヲ兩手ニテ持テ進ンテ床ノ中央ニ置キ退却シ再ヒ花

瓶ヲ持テ進ミ床前ニ跪キ書様模ヲ正面ニスル如ク注意シ

花臺ノ上ニ置ク

花ヲ見ル様

見様式退懸物ト同様異ナルハ主水指ヲ持チ花瓶ニ水ヲ入

レ客ヲ進メ客ハ花臺ヨリ花瓶ヲ覽次ニ花ノ幹ヨリ見上

又見ヲロシ流シ止メニ至ル迄ヲ覽一禮シテ坐ニ復ス

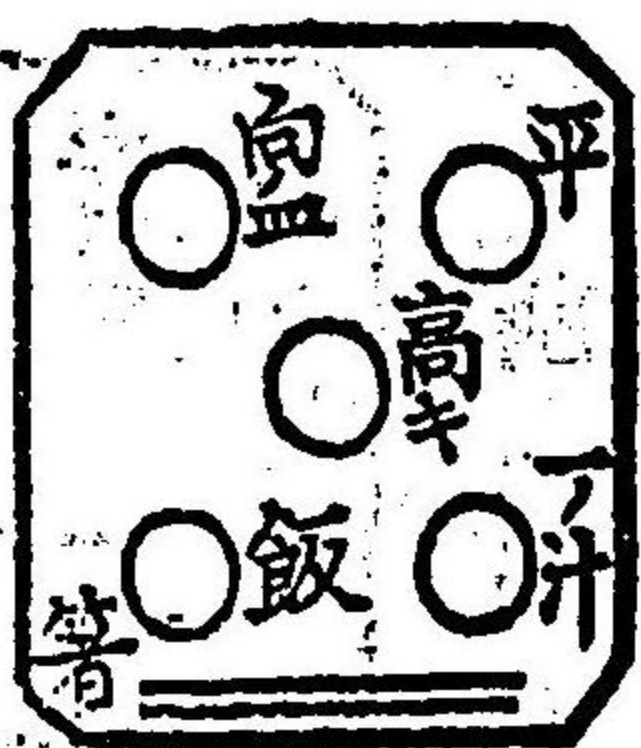
撤シ様

飾リ着ケニ正反シ先ツ花瓶ヲ收メ次ニ花臺ヲ撤ス

本膳進メ様

本膳ヲ兩手ニ持チ柵ノ外ニテ中坐シ夫ヨリ進ミ出テ客ノ前ニ跪キ膳ヲ置キ飯碗ノ蓋ヲ取り客ノ左ニテ膳ノ脇ニ置キ膳ヲ客前ニ進メ(客ハ一禮ヲナシテ受クヘシ)退クヘシ但客ニ菓子ノ進メアルトキハ下坐ヘニテ膝斜ニ開キ本膳ヲ置キニテ膝開キ正面ニ向ヒ菓子膳ヲ持テ上座向ヒ本膳ヲ持チニテ膝開キ正面ニ向ヒ本膳ヲ置キ飯碗ノ蓋ヲトリテ進メニテ膝斜ニ開キ菓子膳ヲ持退ヘシ

本膳



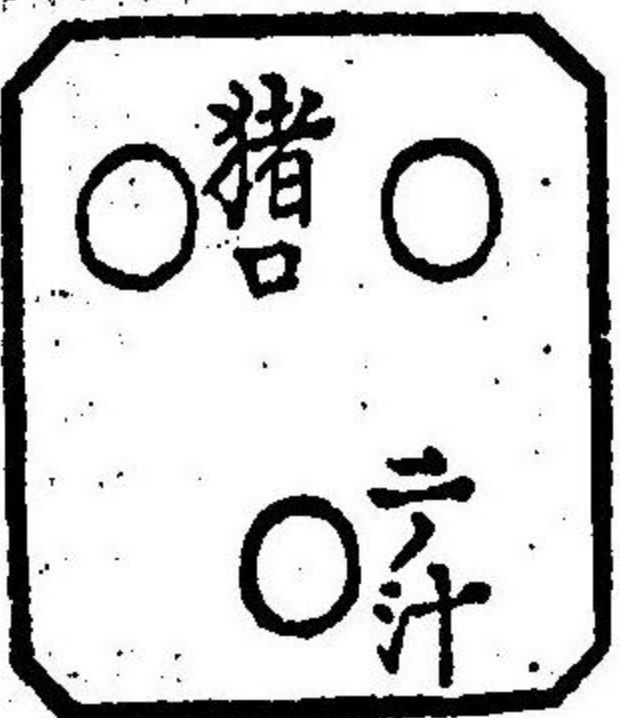
膳ノ左右ノ縁ヲ持ツ時上輩ニハ兩手ヲ膳ノ縁ヘ握エ捧ゲル様ニ肩ト平衡ヘイコウニ持ヘシ同輩ニハ膳ノ縁ノ横ニ兩手ヲアケ縁ノ上ニ拇指ノ出ヌヨフニシテ進メルコ、ロモチニテ乳ノ通リト平衡ナル可シ而シテ客ノ前ヘ跪キ下座ヨリニ膝進ミツ、下ケテ客前ニ置キ兩手ニテ膳ノ客前ノ隅ヲ持チテ進ムヘシ以下略ス

退ク時ハ上坐ヨリ二膝退キ上坐ニ廻リテ立チ退クヘシ以  
下略ス

二ノ膳ノ進メ方ハ本膳ニ同シ

但シ榻前ヲ中坐スルヲナク直ニ客前ニ至リ客ノ右ニ  
本膳ト并ヘ進ムヘシ

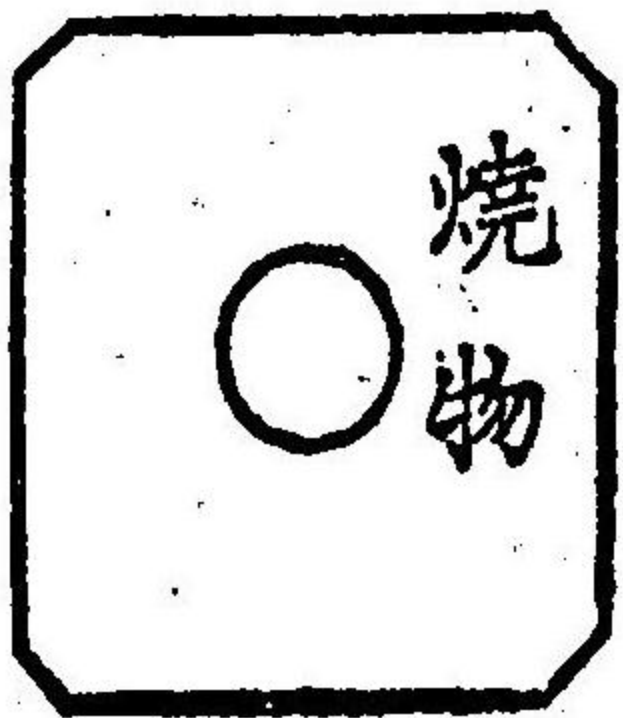
二ノ膳



三ノ膳ノ進メ方ハ二ノ膳ニ同シ

但シ客ノ左リヘ本膳ト并ヘ進ムヘシ

三ノ膳



三ノ膳ノ進メ方ハ二ノ膳ニ同シ

但シ客ノ左リヘ本膳ト并ヘ進ムヘシ

客配膳ノ終ルヲ見レハ一汁、平、二ノ汁、壺ノ順序ニ蓋ヲ  
取ル其取方ハ糸轡ノ手前ノ方ヲ拇指ト食指トニテ撮ミ他  
ノ指ハ揃ヘテ伸シ手前ヨリ上ケ平ノ膳ニ落チサル如ク開

古禮一斑附録

キ膳ノ右左側ニ置クヘシ

箸ノ取り様

右ノ手ニ箸ヲ取り（上輩ハ手ヲ着カス同輩ハ左ノ指先ヲ着キ下輩ハ手ヲ着クヘシ）一旦膳ノ上ニ置キ箸搦ヲナシ夫ヨリ左膝ノ上ニ左手ヲ指先ヲアヲムケテ持添ヘ右手ヲ持直シ（上輩ハ左手ヲ添ヘズ右手ノミニテ持直スベシ）食スベシ

但シ箸ヲ休ムル時上輩ハ膳ノ前縁ニ沿ヒ右縁ニ懸ケ置キ同輩ハ汁椀ト平トノ間ニテ右縁ニ懸ケ下輩ハ汁

椀ト飯椀トノ間ニシテ手前ノ縁ニ懸ケ置クヘシ  
飯ノ喰様

右ノ手ニ箸ヲ持テ左ノ手ニ椀ヲ持テ初メニ箸喰ヒ二度目ヨリ三箸宛食スヘシ

飯椀ヲ持ツニハ左手ノ拇指ヲ椀ノ縁ニ懸ケ食指ト中指ニテ外ノ「フクラ」ヲ押ヘ無名指ト小指ニテ内ノ「フクラ」ヲ押フヘシ（食器ノ持チ方ハ皆同シ）  
汗ノ吸様

右手ニテ箸搦ノ儘ニテ拇指ト食中指ニテ椀ノ右縁ヲツマ

ミ左手ニ据へ兩手ニテ汁ヲ吸ヒ次ニ箸ヲ持直シ實ヲ食シ

又汁ヲ吸ヒ元ノ所ニ置クヘシ

廻リ物喰様スハモクヒヨ

飯ニ汁再ヒ飯ニ汁ヲ食シ次ニ平ヲ食シ次ニ繪ナマスヲ食シ次ニ

二ノ汁次ニ壺次ニ猪口チヨク次ニ燒物ト云フ順序ニ食スヘシ一

廻終リテ後ハ心マカセニ何品ナリトモ食スヘシ然レトモ

菜ヨリ直ニ菜ニ移リ食スヘカラス必ス飯汁ヲ食シ次ニ廻

物ヲ食スヘシ

但シ平、繪、壺、猪口、燒物等ハ手ニ取ラスシテ食スヘ

シ(平壺ツユナルトキハ手ニ持チ食スヘシ)

飯ノ再進

臺ニ飯鉢ヲ据へ其手前ニ杓子ヲ置キ兩手ニ持チ柵ノ外ニ

テ中坐シ臺ヲ下へ置キ手ヲ着キ上坐ヲ伺ヒ蓋ヲ取り(飯

鉢ノ蓋ヲ受クヘキ人膳ヲ持チ此所マテ並ヒ出テ蓋ヲ受ケ

還ルナリ)杓子ヲ伏セ飯鉢ノ中へ入レ夫ヨリ臺ヲ持チテ

進ミ客ノ前ニテ上坐ノ方へニタ膝斜ニ開キ置キ手ヲツキ

二膝開キ客ニ向ヒ飯椀ヲ左ノ手ニ持ツイトツコニ糸底ヲ拇指ト食

指ニテ摘マミ他ノ指ヲ伸シ之ヲ据へ右ノ手ヲ添ヘテ受取



リ飯鉢ノ方へ二膝開キ飯臺ヲ引キナカラ坐シ三杓子シヤクンモ盛リ又臺ヲ先へ出シナカラヒザマヅキ二膝開テ正面へ向ヒ左ノ手ニ持チシ糸底ヲハナシ兩手ヲフセテ進メ又二膝開キテ臺ヲ持チ還ルヘシ

客ハ箸ヲ置キ左手ニテ膝ノ向フ縁マテ出シ又受クルモ同法ナリ

汁ノ再進

膳ヲ持チ出テ客ノ正面ニ進ミ椀ヲ受ケテ退キ而シテ再進ヲ盛リテ替蓋ヲナシ持チ出テ客前ニ跪キ左リノ膝ヲ立テ

左リノ手ニテ膳ノ縁ヲ持チ膝ニモタセ右手ニテ蓋ヲ取り膳ノ縁ニ懸ケ左ノ膝ヲ着キ兩手ニ膳ヲ持チ進ムヘシ客ハ右手ニテ汁椀サシヲ持チ膳ノ凡央ニ置クヘシ

次ニ飯ノ三進ヲ出シ又汁ヲ出スヘシ

但客飯ヲ辭スレハ汁ヲモ出スニ及ハス

吸物膳并酒ノ進メ様

客ノ飯終ルヲ見レハ吸物膳ニ吸物ト盃ヲ載セ本膳ノ前ニ進メ次ニ爛鍋カンナベノツルヲ右手ニテ上ヨリ持チ左ノ手ヲ右手ノ下ニ添ヘトシキミ柵ノ外ニテ中坐シ爛鍋ヲ下へ置キ兩手ヲ着

キ客ノ方ヲ伺ヒ夫ヨリ客ノ前へ進ミ跪キ客盃ヲ出シタル  
トキ鼠尾ソビ、馬尾バビ、鼠尾ニ斟ツキ客ノ盃ヲ下クルヲ見テ止メ退  
クヘシ

吸物ヲ食スル法ハ汁ノ食シ方ニ同シ酒ヲ受ルハ左手（女

右手）ニシテ其持方ハ椀ト同様ナリ（右手ヲ着キ左手ニテ受ク

タノニ右手ヲ添ヘルナリ

トリザカチス、メヨ

取肴進様  
取肴ハ之ヲ小皿ニ盛り膳ニ据ヘテ出テ客ノ前ニテ膳ヲ上  
坐ノ方へ斜メニ開キ置キ兩手ニテ小皿ヲ取り吸物膳ノ上

坐ノ方ニテ手前ノ隅ニ置キ後チ斜ニ開キ膳ヲ持チ還ルヘ  
シ

但シ吸物及肴二種ヲ出シ吸物ニテモ肴ニテモ進ムル

毎ニ必ス酒ヲ進ムヘシ

酒ヲ進メ客ノ辭スルニ至テ止ム

客ノ酒ヲ辭スルハ配膳者ハイゼンシヤノ二ニ間ニアルトキ辭スヘシ

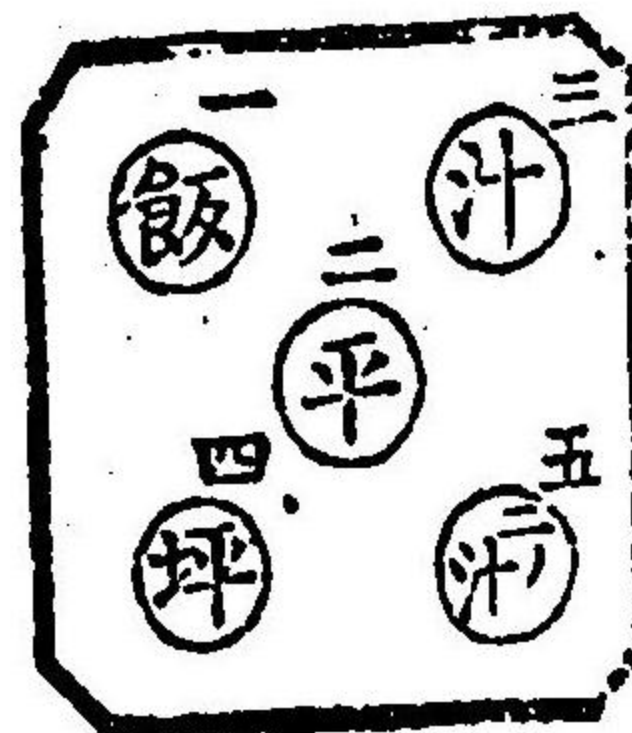
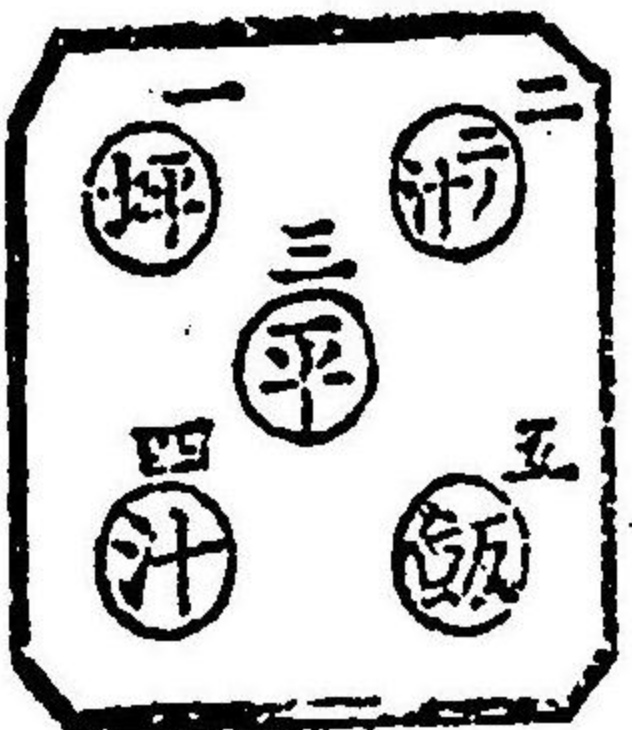
客ノ酒ヲ辭スルヤ配膳者ハ吸物膳二ノ膳二ノ膳ノ順ニ撤  
スヘシ

吸物膳ヲ撤スレハ其蓋ヲ撤シ三二ノ膳ヲ撤スレハ膳ノ蓋

ヲ撤ス

各蓋ノ撤シ様

蓋ヲ撤スルニハ膳ヲ持チ客前ニ出テ左リノ方ニ斜ニ膳ヲ置キニタ膳上ノ方ニ轉シ左手ヲ以テ坪ノ蓋ヲ取り膝ノ前ニテ右手ヲ添ヘニタ膳左ニ轉シテ蓋ヲ置キ坪二ノ汁平汁飯椀ト順序ニ取り圖ノ如ク並ベ置キ(左リ頭ノ坪ハ右ニ反ス)持還ルヘシ



湯ノ進メ様

湯桶ノ手ヲ右手ニテ持チ左手ヲ下ニ添ヘ出テ柵ノ外ニ中座シ湯桶ヲ下ニヲキ兩手ヲ着キ客ノ方ヲ伺ヒ夫ヨリ客ノ前ニ進ミ跪キ左手ヲ口ノ下ニ當テツキ退クヘシ  
 客ハ左手ニテ椀ヲ持チ湯ヲ受ケ膳ノ上ニ置キ箸ヲ取り湯漬ヲ食シ次ニ汁椀ヲ取り實ヲ食シ又湯漬ヲ食シ次ニ香ノ物ヲ食シ終ル又候湯斟ヲ持出シ進メ方ハ前同斷ナリ  
 客ハ箸構ヲナシ其儘椀ニ入レ「の」ノ字ヲ畫キテ箸ヲ膳ノ上ニ置キ湯ヲ吞終リ全ク箸ヲ納ムヘシ

菓子ノ進メ様

配膳者ハ客ノ箸ヲ納ムルヲ見レハ蒸菓子ヲ持出シ客前ニ  
跪キ下座ノ方斜ニ菓子ヲ置キ本膳ヲ上坐ノ方斜ニ移シ菓  
子ヲ進メ本膳ヲ持チ還ル可シ

ゴイチャ  
濃茶進メ様受様

フッサ  
服紗ヲ廣ケ向ヨリ手前ヘニツニ折リ次ニ右ヨリ亦タニツ  
ニ折リ左手ヲ斜メニ服紗上ニ置キ右手ヲ添ヘテ左手ノ上  
ニ置キ右手ヲ以テ茶碗ヲ取り之ヲ載セ右手ヲ添ヘテ進ミ  
客ノ前ニ跪キニ膝進ミ茶碗ヲ兩手ノ食指ト拇指ニテ伏テ

客ニ進メ蒸菓子ヲ持チ還レヘシ客ハ左手ノ食指ト拇指ニ  
テ服紗ノ手前隅ヲ持チ他ノ指ヲ底ニアテ右手ニテ向ノ隅<sup>スミ</sup>  
ヲ持チ之ヲ受ケ右手ヲ引キナカラ廻シテ飲口ヲ我方ニ向  
ケ同時ニ茶碗ヲ左掌上ニ置キ右手ヲ添ヘ載セ然ル后股上  
ニテ茶碗ヲ廻シ茶ヲ混ゼ飲ミ終リ下坐ヘ茶碗ヲ置キ次ニ  
服紗ヲ置ベシ

ヒツグシ  
干菓子ノ進メ様并濃茶撒シ様

ムシ  
蒸菓子ノ進メ様ニ同シ

菓子ヲ進ムレハ茶碗ヲ收メテ還ルベシ

但右ノ手ニテ服紗ヲ引寄せ左手ノ掌へ据へ次ニ茶碗

ヲ其ニ据へ他ノ扱ヒハ前ニ同シ

薄茶進<sup>ウスチャ</sup>メ様受ケ様并干菓子撒シ様

濃茶進メ様ニ同シ進ムレハ菓子ヲ收メテ還ルヘシ

但服紗ヲ使用セス

客ノ受ケ様飲ミ様ハ濃茶ヲ受クル時左手ヲ茶碗ノ下ニシ

右手ノ指ニテ配膳ノ方ニアル飲口ヲ持チ受ケ他ノ扱ヒハ

濃茶ニ同シ  
薄茶撒シ様

右ノ手ニ茶碗ヲ取り左手ノ掌ニ据へ持歸ルベシ

刀劍視<sup>トケンミヨ</sup>様

一人ノ刀劍ヲ一覽スルトキハ總テ服紗ヲ以テ之ヲ扱フヘ  
シ若シ中身ヲ視ント欲スルトキハ其許可<sup>キョカ</sup>ヲ乞フモノトス  
而シテ他人ニ中身ヲ視セシメント欲スルトキハ鯉口<sup>コヒグチ</sup>ヲ緩  
メテ出スヲ例トス然レトモ主人之ヲ爲サハル時ハ先ツ之  
ヲ緩メ之ヲ扱クニハ右手ニ欄<sup>ツカ</sup>ヲ持チ左手ニ鞘<sup>サヤ</sup>ヲ執リ刀背  
ニ滑走シテ扱クヘシ而シテ尖頭ヲ鞘ヨリ脱スル時一禮ス  
ルヲ古ヘ武士ノ作法トス若シ發言スルトキハ鼻口ヲ掩ヒ

息ノ掛ラサル様ニ注意スヘシ

八十

古禮一斑附録畢

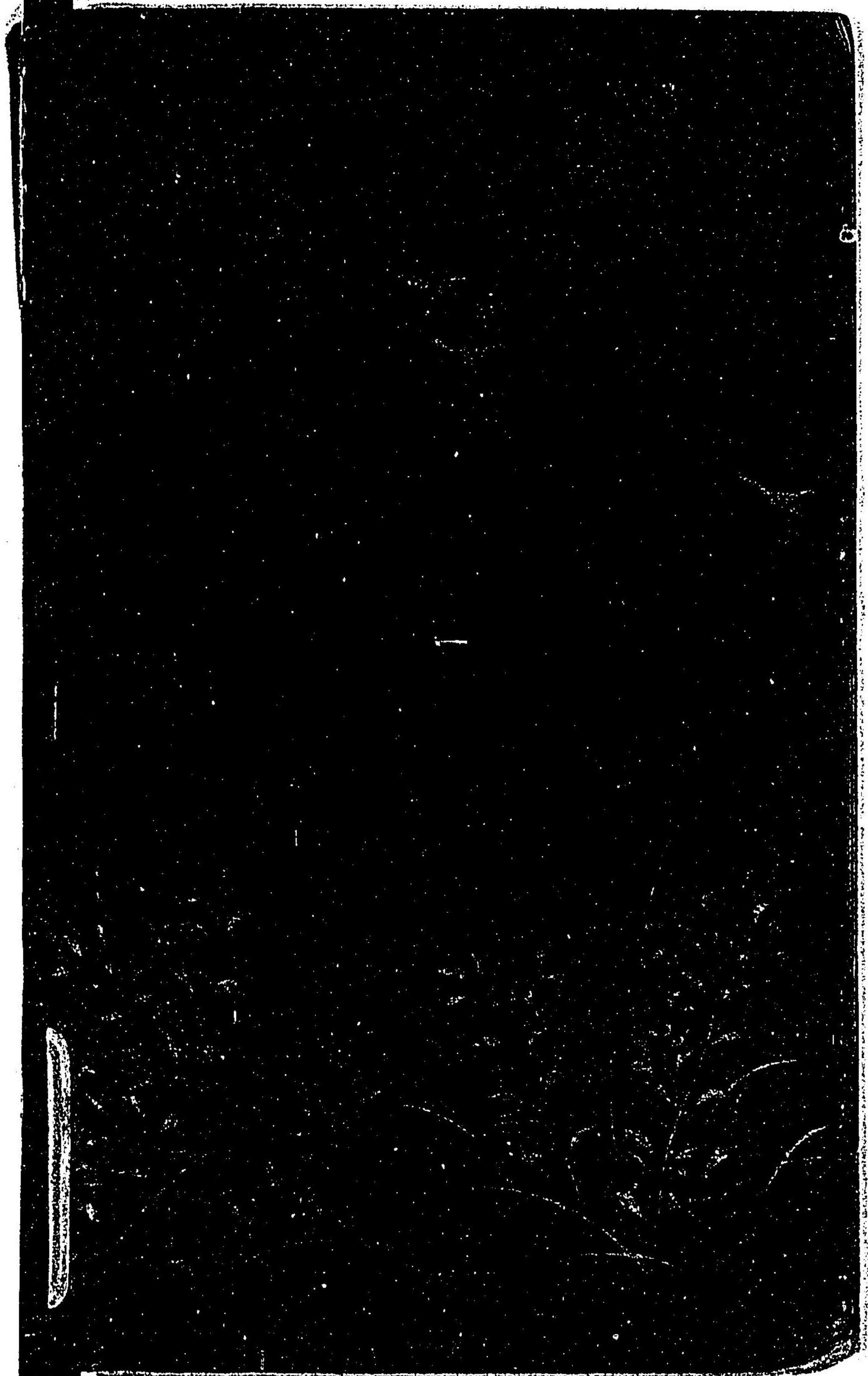
明治三十四年九月二十七日印刷  
同 年十月 五 日發行

埼玉縣北足立郡浦和町百六十番地  
埼玉私立教育會

東京市下谷區竹町二十八番地

印刷者 三和 林太郎

印刷所 芳文 舍



011989-000-2

72-334

曲礼一斑・古礼一斑

埼玉県私立教育会

M34

AAG-0039

